

社会医療法人同愛会年誌
博愛便2023

HAKUAI information





社会医療法人同愛会年誌 「博愛便 2023」 発刊にあたり

社会医療法人同愛会理事長
博愛病院院長
石部 裕一

日頃は、社会医療法人同愛会に対して多大なご支援とご指導を賜り厚く御礼を申し上げます。

今年も「博愛便2023」をお届けすることが出来ました。既にお気づきと思いますが、これまでは「博愛病院」に限定していた情報を本年度から社会医療法人同愛会の年誌として再出発することにいたしました。編集方針はこれまでと同様に同愛会各事業所の紹介と業務実績を正確に記録し将来の法人誌編纂に資することを目指しています。

同愛会では執行部の年次目標に基づき各部署は年間活動計画をBalance Score Cardで作成し、それをもとにPDCAを廻して活動しています。どうか関連機関の皆様方には活動実績をご高覧いただきご指導ご鞭撻をお願いいたします。

さて、令和4年度はコロナ禍に翻弄された一年でした。前年度から継続してコロナ感染対策には自信を持って診療を行っていましたが、遂に4月、7月、8月と3回、全ての病棟で職員と入院患者のクラスターを発生させてしまいました。病棟閉鎖のため患者紹介などでご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

この様な厳しい状況の中で4月には博愛病院の外来機能拡大を目的としてサテライトふくよね博愛クリニックを開院しました。奥まった住宅地の中という立地条件ですので訪問診療を含めて徐々に利用患者が増えていくことを期待しています。

博愛病院の診療面では入院は延58,636人(前年度比

97.5%)、外来は延83,059人(前年度比101.8%)で入院患者が減少、外来患者が増加しました。コロナ関連では、発熱・感染症外来患者10,302人を検査し1,960人が陽性(陽性率19%)、専用病棟入院患者は199人、延入院日数2,179日(平均在院日数10.8日)でした。経営面では外来患者が増加したこと、昨年度に引き続き「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」指定による補助金などで黒字となりましたが、診療単独では入院患者減により厳しい決算でした。

介護老人保健施設「やわらぎ」はコロナクラスター発生で入所者数の減少、デイケア部門の不振により実績を落としました。医療的ケア児の訪問診療など特殊なニーズに対応する「博愛こども・発達在宅支援クリニック」は開設4年目に入り順調に運営できています。新規にレディース検診を加えて5月に再スタートした同愛会グループの「やすぎ博愛クリニック」は、外来診療とバス健診事業に加えて、コロナワクチン接種も実施し順調に運営しています。

博愛病院では社会医療法人の要件である救急医療はもとより、これまで以上に地域社会に貢献する病院としてその機能を充実し、次の周年を見据えて「常に新しい医療サービスの創造」を目指してまいります。本誌が地域医療機関の皆様と同愛会職員の懸け橋となることを願って2023年誌発刊のご挨拶とします。

2023年夏

Profile

1967年 鳥取大学医学部医学科卒業
1968年 鳥取大学医学部附属病院研修医
1969年 天理よろづ相談所病院麻酔科医員
1971年 鳥取県立中央病院麻酔科医員
1974年 学校法人近畿大学医学部附属病院麻酔科講師
京都大学胸部疾患研究所臨床肺生理部門医員併任
1979年 近畿大学医学部麻酔科学講座講師
近畿大学医学部附属病院集中治療室室長兼務
京都大学胸部疾患研究所非常勤講師併任
1986年 米国ペンシルベニア大学医学部麻酔科客員研究員
1989年 厚生労働技官医療職国立大阪南病院麻酔科医長
近畿大学医学部非常勤講師併任
1991年 文部教官教育職鳥取大学医学部麻酔学講座助教授
1997年 鳥取大学医学部麻酔・蘇生学(現:麻酔・集中治療医学)講座教授
鳥取大学医学部集中治療部長兼務
2001年 鳥取大学医学部附属病院副院長
2003年 鳥取大学医学部附属病院病院長
2005年 鳥取大学医学部附属病院病院長
鳥取大学理事 鳥取大学副学長 鳥取大学医学部教授兼務
2007年 独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院院長
2013年 独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院顧問
(将来構想アドバイザー)
独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院名誉院長

2013年 医療法人真誠会理事 院長代理
2015年 医療法人同愛会理事長 博愛病院院長
2016年 博愛病院院長退任
2020年 社会医療法人同愛会理事長
2022年 社会医療法人同愛会理事長 博愛病院院長

主な所属学会と取得資格

日本麻酔科学会(会員・認定指導医)
日本集中治療医学会(専門医・功労会員)
日本蘇生学会(功労会員)
日本臨床麻酔学会(会員)
日本医療マネジメント学会(会員)
日本老年麻酔学会(理事)
American Society of Anesthesiologists
Society of Critical Care Medicine
山陰リスクマネジメント研究会(代表世話人)
厚生労働省 麻酔科標榜医
日本医師会 認定産業医
厚生労働省健康局長 緩和ケア研修会修了

目次

巻頭言	1
目次	2
理念・運営方針	3
沿革	5
組織図	6
令和4年度の主な出来事	8
病院概要	10

博愛病院

診療科・専門外来

内科(消化器内科)	12
内科(循環器内科)	15
内科(呼吸器内科)	16
内科(糖尿病・内分泌内科)	18
内科(脳神経内科)	19
内科(総合診療内科)	21
外科(消化器外科・肛門外科・乳腺外科)	22
外科(アミノインテックス外来)	25
外科(腎臓外科(臓器移植))	26
整形外科	27
産婦人科	29
麻酔科	31
放射線科	32
眼科	33
小児科	34
臨床検査科	34
非常勤医師による専門外来	35
救急科・救急診療体制	36

看護部

看護部	37
外来看護	38
2階病棟(地域包括ケア病床)	38
3階A病棟(療養病床)	39
3階B病棟(回復期リハビリテーション病床)	39
4階A病棟(一般病床、地域包括ケア病床)	40
4階B病棟(一般病床)	40

中央診療部

手術室	41
透析室	41
内視鏡室	42
化学療法室	42
ドック健診センター	43

診療技術部

薬剤部	44
臨床検査部	45
診療放射線部	46
リハビリテーション部	47
臨床工学室	48
栄養管理室	49

在宅医療センター

在宅医療センター	50
訪問診療部	50
訪問看護ステーション博愛	51
訪問リハビリテーション博愛	51
サービスプラン博愛	52
ヘルパーステーション博愛	52

医療安全管理部

医療安全対策室	53
感染対策室	53

患者支援部

地域連携室・入退院支援室・医療相談室・患者相談室	54
--------------------------	----

その他

事務部・医師支援室・情報システム管理室	55
---------------------	----

チーム医療

感染対策チーム(ICT)	56
栄養サポートチーム	56
緩和ケアチーム	56
褥瘡対策チーム(スキンケアチーム)	56
心不全チーム	57
がんのリハビリテーションチーム	57
呼吸サポートチーム(RST)	57
整形外科チーム	57
糖尿病チーム	58
抗菌薬適正使用支援チーム(AST)	58

ふくよね博愛クリニック

博愛こども発達・在宅支援クリニック

介護老人保健施設やわらぎ

活動目標	64
医療の質に関する指標	72
教育・研究実績	76
満足度調査(患者・開業医・職員)	82
広報物紹介	86
財務概況	87
外来診療予約・放射線科検査予約について	89

外来診療担当医師一覧表

同愛会 理念

ミッション (Mission)

あなたの健康、みんなの幸せ

ビジョン (Vision)

こどもから高齢者までみんなが健康で住みやすい地域社会の実現に貢献します。

バリュー (Value)

博愛精神：博愛の心で顧客のニーズに寄り添います。

地域貢献：医療・介護・福祉・保健の連携で地域の発展に貢献します。

患者第一：顧客の求めに気持ちよく応え患者第一の医療を実践します。

価値共創：地域と共にSDGsに取り組む新たな価値を創造します。

人材育成：誇り高き人材を育成し自己実現ができる組織を目指します。

令和3年4月1日改訂

博愛病院 理念・運営方針

理念

私たちは博愛の心で医療を行い地域に貢献します。

運営方針

- 1 急性期から慢性期まで、患者さんの価値観に配慮した医療を提供します。
- 2 新しい医療知識と技能を修得し、根拠に基づいた医療を実践します。
- 3 博愛病院職員としての誇りを持ち、患者さんの心に寄り添う接遇を行います。
- 4 医療と介護の懸け橋となり、地域包括ケアシステムの円滑な運用に貢献していきます。
- 5 地域の期待と信頼に応えるため、断らない救急医療を目指します。
- 6 健康診断や人間ドックを推進し、病気の予防と早期発見に努めます。
- 7 これらの方針を実現するため、健全な病院経営を行います。

平成27年8月1日 改定

ふくよね博愛クリニック 理念・運営方針

理念

私たちは博愛の心で医療を行い、地域住民の健康管理に貢献します。

運営方針

- 1 いつでも気軽に受診でき、信頼されるかかりつけ医を目指します。
- 2 博愛病院との連携を図って、質の高い医療提供を継続します。
- 3 在宅医療を充実させるとともに、患者や家族が望む場所での過ごし方を支援します。
- 4 健康診断や予防接種を推進し、病気の早期発見と予防に努めます。
- 5 ふくよね博愛クリニック職員としての誇りを持ち、患者さんの心に寄り添います。
- 6 サテライトクリニックとして、博愛病院の診療機能向上に貢献します。
- 7 これらの方針を実現するため、健全なクリニック経営を行います。

令和4年4月1日制定

博愛子ども発達・在宅支援クリニック 理念・運営方針

理念

私たちは博愛の心で、すべての子どもの健康増進と健康管理に寄与し、子どもと家族が安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

運営方針

- 1 どんな子どもも一緒に育つことのできる地域をつくります。
- 2 難病の子ども、障がいを持った子どもの在宅生活を支援します。
- 3 難病の子ども、障がいを持った子どもが将来自立して生活できるように支援します。
- 4 難病の子ども、障がいを持った子どもの保護者、きょうだいを支援します。
- 5 難病の子ども、障がいを持った子どもの最期の過ごし方を支援します。
- 6 難病の子ども、障がいを持った子どもを支援する人材を育成します。

平成31年4月1日制定

介護老人保健施設やわらぎ 理念・役割

理念

介護老人保健施設やわらぎは、利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら、生活機能の維持・向上をめざし総合的に援助します。また、家族や地域の人びと・機関と協力し、安心して自立した在宅生活が続けられるよう支援します。

役割

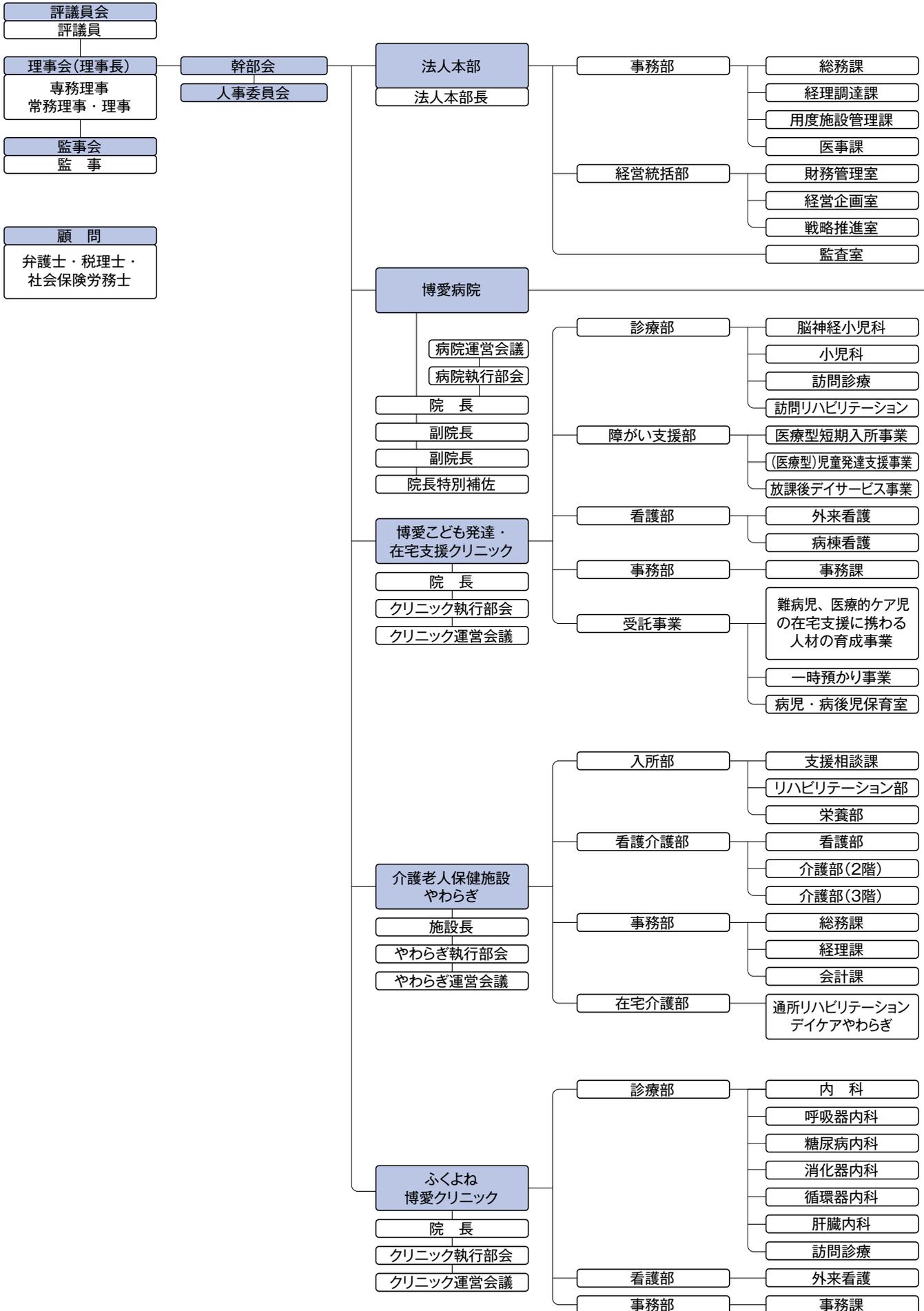
- 1 包括的ケアサービス施設
利用者の意思を尊重し、望ましい在宅または施設生活が過ごせるようチームで支援します。そのため、利用者に応じた目標と支援計画を立て、必要な医療、看護や介護、リハビリテーションを提供します。
- 2 リハビリテーション施設
体力や基本動作能力の獲得、活動や参加の促進、家庭環境の調整など生活機能向上を目的に、集中的な維持期リハビリテーションを行います。
- 3 在宅復帰施設
脳卒中、廃用症候群、認知症等による個々の状態像に応じて、多職種からなるチームケアを行い、早期の在宅復帰に努めます。
- 4 在宅生活支援施設
自立した在宅生活が維持できるよう、介護予防に努め、入所や通所リハビリテーションなどのサービスを提供するとともに、他のサービス機関と連携して総合的に支援し、家族の介護負担の軽減に努めます。
- 5 地域に根ざした施設
家族や地域住民と交流し情報提供を行い、さまざまなケアの相談に対応します。市町村自治体や各種事業者、保健・医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となったケアを積極的に担います。また、評価・情報公開を積極的に行い、サービスの向上に努めます。

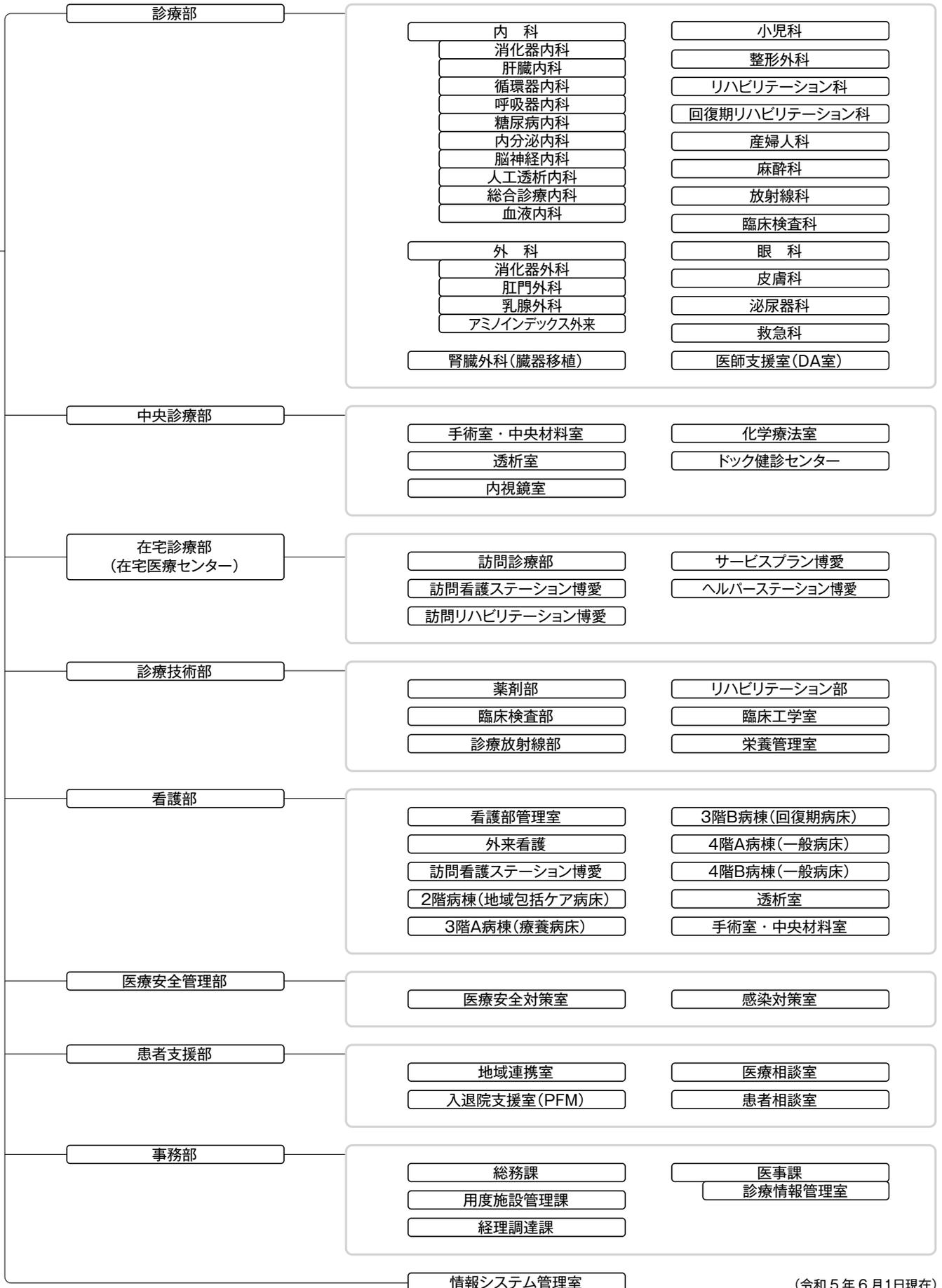
平成30年6月1日改定

沿 革

年 月	事 項
大正 9年	株式会社博愛病院創立の趣旨決定
大正10年 7月12日	博愛病院創立総会開催
大正10年10月 3日	株式会社博愛病院として登記(創立記念日とする)西伯郡米子町東倉吉町40番地
大正11年 6月20日	加茂町に博愛病院開院(総病床数130床)西伯郡米子町加茂町1丁目1番地
大正11年	看護婦養成所設立
昭和28年	第10病棟・第11病棟建築増床(総病床数242床)
昭和38年 6月 1日	株式会社から医療法人へ移行
昭和39年 9月	6床増床(総病床数248床)
昭和45年 3月	隔離病棟閉鎖・病床再編(総病床数195床)
昭和50年10月	加茂町から両三柳へ新築移転(総病床数180床)
昭和61年 1月	人工透析を導入し治療開始(4床)
昭和62年 7月	救急指定病院となる
平成 元年 7月	東館完成52床増床(総病床数232床)
平成 5年 5月	小児専門病棟30床増床(総病床数262床)
平成 6年 5月	介護老人保健施設やわらぎ開設
平成10年 2月	10床増床(総病床数272床)
平成11年12月	社会福祉法人博愛会設立に協賛、「博愛苑」開設支援
平成14年12月	本館増改修移転(総病床数247床)
平成19年 4月	訪問看護ステーション博愛と訪問看護センター合併し、博愛病院内に「訪問看護ステーション博愛」を設置
平成20年 8月	1階小児科病棟を閉鎖し、本館4階へ移転
平成21年 4月	回復期リハビリテーション病棟開設 病床再編:一般病床(急性期)217床、回復期リハビリテーション病床30床(総病床数247床)
平成21年 4月	院内保育所(はくあい保育園かるがも)開設
平成23年 7月	がん診療連携拠点病院に準じる病院に指定
平成25年 7月	特定医療法人財団へ法人格変更
平成25年 9月	病床数削減再編:一般病床(急性期)131床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床(総病床数199床)
平成26年 6月	病床再編:一般病床(急性期)115床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床、地域包括ケア病床16床(総病床数199床)
平成27年 6月	病児保育所(病児保育かるがも)開設
平成27年11月	病床再編:一般病床(急性期)80床、地域包括ケア病床51床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床(総病床数199床)
平成29年 5月	在宅医療センター竣工
平成30年 1月	病床再編:一般病床(急性期)72床、地域包括ケア病床59床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床(総病床数199床)
平成31年 4月	博愛こども発達・在宅支援クリニック開設
令和 2年 2月	社会医療法人へ法人格変更
令和 2年 4月	日立記念病院を承継し、やすぎ博愛クリニックとして業務開始
令和 4年 4月	ふくよね博愛クリニック開設

組織図 (社会医療法人同愛会)





(令和5年6月1日現在)

令和4年度 同愛会 主な出来事

年 月	事 項
令和4年 4月 1日	辞令式、新採用者オリエンテーション(28名)
4月 1日	呼吸ケアサポートチーム(RST)施設として認定
4月 3日	ふくよね博愛クリニック開院式(4月1日開設)
4月 4日	ふくよね博愛クリニック診療開始
4月 12日	ウクライナ人道支援募金実施
4月 15日	新型コロナウイルス感染症クラスターにより一部病棟閉鎖
5月 1日	コメディカルユニフォーム変更
5月 2日	やすぎ博愛クリニック新館竣工式
5月 6日	やすぎ博愛クリニック新館診療開始
5月 25日	医学・看護関連書展示会開催(博愛病院教育委員会主催)
5月 27日	BSCスプリングレビュー開催
5月 27日	開業医満足度調査実施(6月30日まで)
5月 30日	定礎式開催
6月 1日	内部通報制度窓口設置
6月 13日	中堅職員講習会実施(令和5年2月まで全10回)
6月 22日	医療的ケア児等支援センター開所式
6月 23日	理事会及び評議員会
6月 30日	防災避難訓練実施
7月 1日	医療支援型グループホーム準備委員会キックオフ
7月 12日	クラウドファンディング準備チームキックオフ
7月 26日	新型コロナウイルス感染症クラスターにより一部病棟閉鎖
7月 31日	同愛会CM放映(8月14日まで)【TSK SDGsキャンペーン企画参画】
8月 1日	職員満足度調査実施(9月11日まで)
8月 19日	新型コロナウイルス感染症クラスターにより一部病棟閉鎖
8月 29日	かるがもパトロール実施(9月7日まで)
9月 1日	AI技術を活用した胸部X線画像病変検出支援システム導入
9月 5日	メンタルヘルスオンライン研修会(10月9日まで)
9月 12日	クラウドファンディングスタート【重度障がい者用特殊浴槽】(10月30日まで)
9月 21日	かるがもパトロール実施(9月30日まで)
9月 30日	年誌 博愛便りリニューアル発刊
10月 1日	同愛会CM放映(11月30日まで)【米子市公会堂前交差点大型ビジョン】
10月 3日	インフルエンザ予防接種受付開始(11月1日～接種実施)

年 月	事 項
10月 4日	クラウドファンディング【重度障がい者用特殊浴槽】目標金額達成
10月 5日	米子商工会議所商工振興功労者表彰
10月 13日	防災避難訓練
10月 13日	同愛会永年勤続者表彰
10月 19日	第1回院内感染対策オンライン研修会(11月15日まで)
10月 24日	人権・倫理研修会開催
10月 26日	第1回医療安全オンライン研修会(11月22日まで)
11月 1日	ドック健診センターWeb予約受付開始
11月 1日	防犯訓練実施
11月 1日	職員向けストレスチェック実施(11月30日まで)
11月 2日	人権・倫理オンライン研修会(12月2日まで)
11月 12日	第1回博愛病院ICLSコース開催
11月 13日	病棟へベッドバンウォッシャー設置
11月 14日	患者満足度アンケート実施(外来11月18日まで、入院・透析12月10日まで)
11月 17日	医学・看護関連書展示会開催(博愛病院教育委員会主催)
11月 24日	理事会及び評議員会
11月 30日	BSCオータムレビュー開催
12月 12日	かるがもパトロール実施(12月21日まで)
12月 16日	新型コロナウイルス感染症拡大による看護師不足により入院制限
令和5年 1月 4日	新年互例会
1月 10日	個人情報オンライン研修会(2月10日まで)
1月 14日	同愛会専用封筒便箋の作成
1月 18日	電子公告LED看板利用【皆生通り線 西部免許センター入口交差点】
2月 13日	虐待防止オンライン研修会(2月28日まで)
2月 1日	同愛会ホームページ開設・同愛会各施設ドメイン変更
2月 20日	第2回医療安全対策・医療ガス安全管理オンライン研修会(3月17日まで)
2月 20日	第2回院内感染対策オンライン研修会(3月12日まで)
3月 15日	日本人間ドック学会機能評価受審
3月20日・22日・24日	BLS研修会
3月 30日	理事会及び評議員会
3月 31日	新型コロナ患者入院専用病床確保期間終了

病院概要

法人名称	社会医療法人同愛会 理事長 石部裕一
病院名称	博愛病院 院長 石部裕一
所在地	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1880番地 TEL(0859)29-1100(代) FAX(0859)29-6322
創立	大正10年10月
病床数	199床 急性期一般入院料4(DPC) 72床／地域包括ケア病棟入院料1 51床 地域包括ケア入院医療管理料1 8床／回復期リハビリテーション病棟入院料3 30床 療養病棟入院基本料1 38床
診療科	内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、内分泌内科、脳神経内科、人工透析内科、外科、消化器外科、肛門外科、乳腺外科、腎臓外科(臓器移植)、小児科、整形外科、リハビリテーション科、産婦人科、麻酔科(佐藤章子)、放射線科、臨床検査科、眼科、皮膚科、泌尿器科、血液内科、救急科【計26科】
専門外来	人工関節専門外来、骨粗鬆症専門外来、糖尿病専門外来、乳腺専門外来
センター	ドック健診センター、在宅医療センター(訪問看護ステーション博愛、訪問リハビリテーション博愛、サービスプラン博愛、ヘルパーステーション博愛)
その他事業	居宅療養管理指導事業 博愛居宅療養管理指導センター、障害福祉サービス事業重度障がい児者医療型ショートステイ、重度後遺障害者短期入院協力事業
関連施設	ふくよね博愛クリニック、博愛こども発達・在宅支援クリニック、介護老人保健施設やわらぎ、病児保育かるがも、院内保育所はくあい保育園かるがも、やすぎ博愛クリニック
敷地内禁煙	実施あり

職員数(職種別)

医師	32		
薬剤師	7	臨床工学技士	6
看護師	192	管理栄養士	3
診療放射線技師	10	MSW	3
臨床検査技師	13	介護支援専門員	6
理学療法士	25	介護福祉士	18
作業療法士	20	看護助手	11
言語聴覚士	8	事務員等	70
総数(嘱託、パート、出向含む)	424		

施設指定

がん検診精密検査医療機関
 ①胃がん②大腸がん③肝臓がん④肺がん⑤乳がん⑥子宮がん
 (鳥取県健康対策協議会) (鳥取県成人健診管理指導協議会)
 鳥取県心臓疾患精密検査医療機関
 鳥取県肝炎専門医医療機関
 鳥取県肝炎ウイルス医療機関検診協力医療機関
 骨粗鬆症精密検査医療機関 (鳥取県保健事業団)
 保険医療機関
 救急指定病院
 労働災害保険指定病院
 労災保険二次健診等給付医療機関指定病院
 母体保護法指定病院
 児童福祉法指定助産施設
 生活保護法指定病院
 結核指定医療機関
 原子爆弾被爆者一般疾病医療機関
 協力型臨床研修指定病院
 育成医療・更生医療指定病院(整形外科・眼科・腎臓)
 精神通院医療指定病院
 鳥取県がん診療連携拠点病院に準じる病院指定施設
 発熱患者の「診察・検査医療機関」

施設認定

日本内科学会認定医制度教育関連病院
 日本消化器病学会専門医制度認定施設
 日本消化器内視鏡学会認定制度指導施設
 日本肝臓学会認定施設
 日本神経学会認定准教育施設
 日本外科学会専門医制度修練施設
 日本消化器外科学会専門医修練施設
 日本乳癌学会認定施設
 日本大腸肛門病学会認定施設
 日本整形外科学会専門医研修施設
 マンモグラフィ検診施設画像認定(デジタル)
 日本がん治療認定医機構研修施設
 日本臨床栄養代謝学会NST稼働認定施設
 がん病態栄養専門管理栄養士研修実地修練施設
 日本認知症学会教育施設
 日本呼吸器学会関連施設
 外国人患者の受け入れに係る準拠点病院
 日本臓器学会認定指導施設
 日本麻酔科学会認定病院
 日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設
 (MRI安全管理に関する事項)

基本診療料の施設基準

機能強化加算
 医療情報・システム基盤整備体制充実加算
 一般病棟入院基本料
 急性期一般入院料4
 療養病棟入院基本料1
 在宅復帰機能強化加算
 救急医療管理加算
 診療録管理体制加算1
 医師事務作業補助体制加算1

急性期看護補助体制加算
 看護補助体制充実加算
 療養環境加算
 重症者等療養環境特別加算
 療養病棟療養環境加算1
 医療安全対策加算1
 医療安全対策地域連携加算1
 感染対策向上加算1
 指導強化加算
 患者サポート体制充実加算
 後発医薬品使用体制加算1
 データ提出加算2
 提出データ評価加算
 入退院支援加算1
 地域連携診療計画加算
 入院時支援加算
 総合機能評価加算
 認知症ケア加算3
 せん妄ハイリスク患者ケア加算
 回復期リハビリテーション病棟入院料3
 地域包括ケア病棟入院料1
 看護職員配置加算
 地域包括ケア入院医療管理料1
 看護職員配置加算
 看護職員処遇改善評価料49

入院時食事療養費の基準

入院時食事療養 (I)
 入院時生活療養 (I)
 食堂加算

特掲診療料の施設基準

心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算
 がん性疼痛緩和指導管理料
 がん患者指導管理料I
 がん患者指導管理料ロ
 がん患者指導管理料ニ
 小児運動器疾患指導管理料
 婦人科特定疾患治療管理料
 一般不妊治療管理料
 下肢創傷処置管理料
 院内トリアージ実施料
 救急搬送看護体制加算2
 外来腫瘍化学療法診療料1
 ニコチン依存症管理料
 がん治療連携計画策定料
 肝炎インターフェロン治療計画料
 薬剤管理指導料
 地域連携診療計画加算
 検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
 医療機器安全管理料1
 別添1の「第14の2」の1の(1)に規定する在宅療養支援病院
 在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
 在宅がん医療総合診療料
 在宅酸素療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
 遺伝学的検査
 BRCA1/2遺伝子検査
 HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
 検体検査管理加算(I)
 検体検査管理加算(IV)
 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
 神経学的検査
 コンタクトレンズ検査料1
 画像診断管理加算1
 画像診断管理加算2

CT撮影及びMRI撮影
 冠動脈CT撮影加算
 乳房MRI撮影加算
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料
 心大血管疾患リハビリテーション料(I)初期加算
 脳血管疾患等リハビリテーション料(I)初期加算
 運動器リハビリテーション料(I)初期加算
 呼吸器リハビリテーション料(I)初期加算
 がん患者リハビリテーション料
 エタノールの局所注入(甲状腺)
 エタノールの局所注入(副甲状腺)
 人工腎臓1
 導入期加算1
 透析液水質確保加算 慢性維持透析濾過加算
 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
 椎間板内酵素注入療法
 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、
 十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、
 小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、
 膈腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
 輸血管管理料II 輸血適正使用加算
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 麻酔管理料(I)
 保険医療機関間の連携による病理診断

日本医療機能評価機構認定

一般病院1
 (100床以上)(主たる機能)

リハビリテーション病院
 (副機能)



2019年 3月 公益財団法人 日本医療機能評価機構認定
 認定番号JC2308 バージョン 3rdG:Ver.2.0
 2021年 3月 期中の確認完了
 2024年10月 更新予定
 2024年 日本人間ドック学会機能評価認定施設取得予定

消化器内科

【概要】

当院の消化器内科は、日本消化器病学会指導施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本膵臓学会認定指導施設に認定されており、複数の認定医、専門医、指導医などの資格をもった医師が、消化管疾患、肝疾患、胆膵疾患に関して質の高い診断・治療を行っています。消化器外科、放射線科と合同カンファレンスを行い、最良の消化器疾患の診療を行えるように努めています。また、内視鏡室に配属されている看護師5名のうちの4名は消化器内視鏡学会が認定する消化器内視鏡技師の資格も取得し、消化器内科のカンファレンスにも参加して一緒にチーム医療を行っています。

対象疾患

- ◆食道疾患(逆流性食道炎、食道がん、静脈瘤など)
- ◆胃・十二指腸疾患(潰瘍、がん、胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症、機能性ディスペプシアなど)
- ◆腸疾患(大腸ポリープ、大腸がん、潰瘍性大腸炎、クローン病、虚血性腸炎、感染性腸炎、過敏性腸症候群、便秘症など)
- ◆肝疾患(急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がん、脂肪肝など)
- ◆胆道疾患(胆石症、胆道がんなど)
- ◆膵臓疾患(急性膵炎、慢性膵炎、膵臓がん、嚢胞性膵疾患など)

【実績】

上部消化管	令和2年度	令和3年度	令和4年度
上部消化管内視鏡検査(EGD)	4,462	4,699	4,511
内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	23	27	19
下部消化管	令和2年度	令和3年度	令和4年度
下部消化管内視鏡検査(CS)	1,081	1,1021	979
ポリヘクトミー	175	157	232
内視鏡的粘膜切除術(EMR)	332	343	278
カプセル内視鏡	11	4	7
CT colonography	41	41	27
肝・胆・膵	令和2年度	令和3年度	令和4年度
肝生検	6	2	0
内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)	64	61	57
内視鏡的十二指腸乳頭切開術(EST)	27	27	29
内視鏡的胆道結石除去術	41	36	34
内視鏡的胆道ドレナージ	14	10	7

【医師紹介】



消化器内科主任部長 **松本 栄二** (岡山大学 平成5年卒)

外来診療 / 火曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医)
- ◆日本消化器病学会(専門医)
- ◆日本肝臓学会(専門医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医)
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了

FIELD/専門分野

肝疾患を中心に診療を行っております。肝機能異常の診断、B型肝炎、C型肝炎など標準的な薬物治療、肝硬変のマネジメントなどの外来診療を行い、腹部エコー、CT、MRIなどの診断機器を用いて肝がんの早期発見、早期治療に努めております。また、ラジオ波焼灼療法、肝動脈塞栓術など肝がん治療を行っております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

非アルコール性脂肪性肝障害など肝疾患は増加傾向です。
肝疾患の診断や治療、その他、お困りでしたら当院に紹介していただけましたら幸いです。



消化器内科部長 **山本 宗平** (鳥取大学 平成19年卒)

外来診療 / 月曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医、総合内科専門医)
- ◆日本消化器病学会(専門医)
- ◆日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)

FIELD/専門分野

消化管疾患を中心に診療を行っております。消化管内視鏡検査を積極的にいき、悪性腫瘍、炎症性腸疾患、機能的消化管障害など全般的に診療しております。早期食道がん、早期胃がんの内視鏡治療なども積極的に行っております。今後体制を整えば超音波内視鏡検査による胆膵領域の検査も行いたいと考えています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

早期胃がん、早期食道がんのESDなども行っております。適応の方がおられましたら、ご紹介をお願いいたします。



消化器内科副医長 **安井 翔** (鳥取大学 平成28年卒)

外来診療 / 水曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(内科専門医)
- ◆日本消化器病学会(専門医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医)
- ◆日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)

FIELD/専門分野

主に内視鏡を扱う消化器診療(上下部消化管内視鏡検査、胆管結石や閉塞性黄疸に対する内視鏡治療、消化管腫瘍に対する内視鏡切除、消化管止血術など)を中心に診療にあたっています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんへ与える苦痛が少なく、また受けていただけるような内視鏡検査、治療を日々心がけています。



院長特別補佐
消化器内科部長 濱本 哲郎(鳥取大学 昭和57年卒)(嘱託)

外来診療／火曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医、総合内科専門医、指導医、中国支部評議員)
- ◆日本消化器病学会(専門医、指導医、中国支部評議員)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医、指導医、全国学術評議員)
- ◆日本消化器がん検診学会(認定医、中国四国支部幹事)
- ◆日本膵臓学会(指導医)
- ◆日本消化管学会(胃腸科認定医、胃腸科専門医)
- ◆日本カプセル内視鏡学会(認定医、指導医)
- ◆日本人間ドック学会(認定医)
- ◆鳥取大学医学部附属病院連携診療教授
- ◆鳥取県健康対策協議会・大腸がん対策専門委員会委員長
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了

FIELD/専門分野

上部・下部消化管および胆膵領域の疾患の診断や薬物治療のほか、消化管腫瘍の内視鏡的切除、胆管結石除去や腫瘍による閉塞性黄疸の減黄等の内視鏡的治療等を行っています。また、CTコロノグラフィや大腸カプセル内視鏡などをいち早く導入して、大腸内視鏡検査に抵抗感が強い人にも対応しています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

消化器内科医師、看護師、コメディカルが一丸となって、患者さんの気持ちに寄り添いながら適確な医療を提供するように心がけています。



消化器内科部長 堀 立明(鳥取大学 昭和55年卒)(嘱託)

外来診療／水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(総合内科専門医)
- ◆日本消化器病学会(専門医、指導医)
- ◆日本肝臓学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医)
- ◆日本透析医学会
- ◆日本医師会認定産業医
- ◆日本医師会認定健康スポーツ医
- ◆嚥下機能評価研修修了

FIELD/専門分野

B型肝炎、C型肝炎の専門的な検査、治療を行っています。NASHやアルコール性肝臓病に対する栄養管理、合併症の予防と治療、肝細胞がんのサーベイランスおよび診断と治療を行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

抗ウイルス療法で肝硬変や肝細胞がんのリスクを低下させることが可能となりました。B型、C型肝炎を指摘されても専門医を受診されていない方のご紹介をお願いします。



消化器内科部長 岸本 幸廣(鳥取大学 昭和48年卒)(嘱託)

外来診療／月曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医)
- ◆日本消化器病学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医、指導医、上部消化管内視鏡スクリーニング認定医、大腸内視鏡スクリーニング認定医)
- ◆日本肝臓学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器がん検診学会(認定医)
- ◆日本医師会認定産業医
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了
- ◆鳥取県健康対策協議会西部 胃がん・大腸がん検診読影会委員

FIELD/専門分野

HBV、HCVなどのウイルス性肝疾患、脂肪性肝疾患(NAFLD)などの肝疾患を中心として診療、研究してきました。現在はそれに加えて、上部下部消化管疾患、胆膵疾患も診察しています。消化器疾患の総合医を目指して診療しています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

約50年間の臨床経験を活かし、消化器疾患全般にわたって、皆様に貢献できるように努力しています。また、患者さんへは丁寧な説明と、診療を心がけていきます。

循環器内科

【概要】

循環器疾患は高血圧症、虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）、心不全、不整脈、心臓弁膜症など高齢化、生活習慣により発症する疾患が多く、現在増加してきています。特に心不全はあらゆる循環器疾患の終末像であり、生命予後、QOLを改善することが必要で患者個人個人に対するそれぞれの加療が必要です。基本的な検査である血液検査、胸部レントゲン、心電図、心エコーの検査で個々の患者に応じて治療法を考えていきます。

心不全の原因となる心筋梗塞、弁膜症、高血圧症などは喫煙や塩分の摂りすぎといった生活習慣の悪化によって発症します。

心不全患者は医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、リハビリテーション（理学療法士、作業療法士）等、多職種での「チーム医療」が必要となります。

博愛病院では心不全チームを作り、心不全患者の包括治療を実践しています。週1回の心不全回診、月1度の症例検討会を通じ、個々の患者さんに応じた治療を行っています。

対象疾患

- ◆高血圧症、虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）
- ◆心不全
- ◆不整脈
- ◆心臓弁膜症などの循環器疾患及び関連疾患である高コレステロール血症
- ◆慢性腎臓病

【医師紹介】



循環器内科部長 田中 保則（鳥取大学 昭和63年卒）

外来診療／月曜日・火曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本循環器学会
- ◆日本透析医学会

FIELD/専門分野

高血圧症、虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）、慢性心不全、不整脈、心臓弁膜症等の循環器内科疾患だけでなく関連疾患である高コレステロール血症、慢性閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、慢性腎臓病など幅広い疾患の診療を行っています。特に慢性心不全は高齢化に伴い増え続けている疾患で病院全体として取り組んでいます。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

2018年より心臓リハビリテーションを開始し、心不全患者さんをチーム医療で行っています。医師会との心不全連携バスを利用して、地域全体で診ることに取り組んでいます。

非常勤 外来担当

外来診療／水曜日

鳥取大学循環器内科助教 松原 剛一
鳥取大学循環器内科助教 矢田貝 菜津子
鳥取大学循環器内科 網崎 良佑

外来診療／金曜日

鳥取大学循環器内科教授 加藤 雅彦
鳥取大学循環器内科准教授 三明 淳一郎
鳥取大学循環器内科講師 衣笠 良治
鳥取大学循環器内科 中村 研介

呼吸器内科

【概要】

Covid-19流行期においては外来/入院/院内感染コントロールの主体となり活動を行いました。令和5年3月31日にコロナ病床確保は終了いたしました。一般医療機関として同疾患への対応を継続してまいります。また今後につきましては呼吸器内科疾患一般の診療のさらなる充実を図るために血液検査ならびに画像検査等の一般検査に加え、気管支鏡検査、呼吸機能検査、6分間歩行試験、呼気CO測定（禁煙外来）、睡眠時無呼吸に対する睡眠検査（簡易/精密）等についても積極的に実施してまいります。該当疾患症例がございましたらご紹介の程よろしくお願ひ申し上げます。

対象疾患

- ◆ 感染性呼吸器疾患（肺炎、非結核性肺抗酸菌症など）
- ◆ 気道閉塞性疾患
（慢性閉塞性肺疾患、びまん性汎細気管支炎など）
- ◆ アレルギー性肺疾患（気管支喘息、過敏性肺臓炎など）
- ◆ 間質性肺疾患（特発性間質性肺炎、膠原病肺など）
- ◆ 腫瘍性肺疾患（肺がん、転移性肺がんなど）
- ◆ 胸膜疾患（気胸、膿胸など）
- ◆ 呼吸不全（急性呼吸不全、慢性呼吸不全）
- ◆ その他（気管支拡張症、睡眠時無呼吸症候群など）

【実績】

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
外来患者延数(人)	7,776	7,311	7,411
入院患者延数(人) ※退院含む	13,870	12,278	11,394
HOT 延数(件)	215	185	191
CPAP 延数(件)	834	903	903
HMV 延数(件)	18	19	32
終夜睡眠ポリグラフィー延数(件)	簡易	32	11
	精密	34	13
気管支鏡検査延数(件) ※気管支ファイバーを使用した処置を含む	27	20	5

新型コロナウイルス入院患者	令和2年度(1/3~3/31)	令和3年度	令和4年度
入院患者数(人)	11	159	199

【医師紹介】



呼吸器内科主任部長 山本 司生 (鳥取大学 平成8年卒)

外来診療 / 月曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本呼吸器学会
- ◆日本感染症学会
- ◆日本環境感染学会
- ◆日本臨床栄養代謝学会
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆日本臨床栄養代謝学会TNT研修修了

FIELD/専門分野

呼吸器内科疾患一般
呼吸器感染症
睡眠時無呼吸症候群

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

Covid-19流行時期においては、多くの関連医療機関の皆様のご理解とご協力を賜り、ありがとうございました。令和5年3月31日をもって、当院のCovid-19に対する病床確保は終了いたしました。今後も一般医療機関として、同疾患に関わっていく所存です。アフターコロナにおいては、一般呼吸器疾患の診療はもとより、特に睡眠時無呼吸症候群の診断と治療継続に取り組む所存でございますので、対象症例がございましたらご紹介いただければ幸いです。



呼吸器内科部長 西井 静香 (鳥取大学 平成19年卒)

外来診療 / 水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(総合内科専門医)
- ◆日本呼吸器学会(専門医)
- ◆日本肺癌学会
- ◆日本臨床腫瘍学会
- ◆日本呼吸器内視鏡学会
- ◆日本呼吸療法医学会
- ◆日本結核病学会
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆日本がん治療認定医機構(認定医)
- ◆インフェクションコントロールドクター(ICD)

FIELD/専門分野

肺炎、COPD、気管支喘息、肺悪性腫瘍などの呼吸器疾患の診療を中心にしています。また、呼吸器疾患や廃用などで自宅からでかけることが難しくなった方には訪問診療の対応も行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

地域の呼吸器内科診療にわずかでも貢献できるよう、診療に取り組んでまいります。



呼吸器内科部長 総合診療内科部長 重白 啓司 (鳥取大学 昭和54年卒) (囑託)

外来診療 / 水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本呼吸器学会

FIELD/専門分野

呼吸器疾患の診療を行っています。特に入院や在宅の長期療養患者さんの治療を中心として、丁寧に寄り添う診療を心がけています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

長引く咳、息苦しさなどは、患者さんが気にかけていても治療に結びついていないケースがあります。気軽にご相談ご紹介いただきますよう、お願いいたします。

非常勤 外来担当 外来診療 / 火曜日
鳥取大学呼吸器内科講師 山口 耕介

糖尿病・内分泌内科

【概要】

糖尿病・内分泌疾患の外来診療、ならびに糖尿病治療調節・教育入院、急性慢性合併症治療を含めた入院診療を担当します。また、手術等にて他科入院中の糖尿病合併症例のフォローを行います。
糖尿病の診療にあたっては、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士・臨床検査技師など多職種からなる専門チームを組み、生活習慣の改善指導、支援や治療を行います。

対象疾患

- ◆糖尿病 ◆脂質異常症 ◆肥満症 ◆メタボリックシンドローム ◆内分泌疾患

【実績】

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
糖尿病教室	147人(84回)	129人(84回)	130人(84回)
博愛ウォーキング	—	—	—

(令和2～4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見合わせました。)

◆かえで通信(2ヶ月に1回発行) / 令和5年6月現在 第90号

【医師紹介】



糖尿病・内分泌内科主任部長 藤岡 洋平(鳥取大学 平成19年卒)

外来診療 / 月曜日・水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医、総合内科専門医)
- ◆日本糖尿病学会(専門医、指導医)
- ◆日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医
- ◆日本糖尿病協会 療養指導医
- ◆日本糖尿病合併症学会
- ◆アジア糖尿病学会
- ◆日本肥満学会
- ◆日本臨床栄養代謝学会

FIELD/専門分野

糖尿病、高血圧、脂質異常症などの代謝疾患の治療を中心に行っております。専門分野は糖尿病であり、教育入院や、外来での治療調節などを行います。また代謝疾患に加えて、甲状腺疾患や副腎疾患などの内分泌内科としての診断、治療を行っております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんへより質の高い治療を提供できるように、コメディカルと連携して療養指導および治療を行います。



糖尿病・内分泌内科部長 竹内 龍男(鳥取大学 昭和57年卒)(嘱託)

外来診療 / 火曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医)
- ◆日本糖尿病学会(専門医、研修指導医)
- ◆日本臨床栄養代謝学会TNT研修修了

FIELD/専門分野

糖尿病の診断、治療方針の決定、内服薬の調整、インスリンやGLP-1受容体作動薬など注射薬適応の判断、患者教育、急性合併症や慢性合併症への対応、他科連携、術前後の血糖コントロールなど、各々の患者さんの診療全般に関与します。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

多職種で連携しながら、誠実な診療を行います。また、ご紹介いただいた患者さんは、特別な事情がない限り、紹介元の先生にフォローをお願いしております。

脳神経内科

【概要】

脳神経内科では脳、脊髄、末梢神経、筋疾患の診断及び内科的治療を行っています。

入院診療では、代表的救急疾患である脳血管障害（脳卒中）の救急診療、回復期リハビリテーション、在宅へむけての地域包括診療を中心に行っています。

外来診療では、頭痛、めまい、しびれ、認知症の診断・治療、慢性期脳血管障害の再発予防治療、神経難病の通院診療を主体に行っています。

特殊診療として、以下を行っています。

- 1) 摂食嚥下機能障害に対する嚥下機能評価と対応
- 2) 神経難病のレスパイト入院・訪問診療
- 3) 脳深部刺激（DBS）の調整・管理
- 4) ボツリヌス治療

当院は日本神経学会准教育施設、また日本認知症学会教育施設です。

対象疾患

- ◆脳血管障害
- ◆てんかん
- ◆パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患（神経難病）
- ◆末梢神経障害
- ◆アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症などの認知症
- ◆筋疾患
- ◆多発性硬化症・重症筋無力症などの神経免疫疾患
- ◆頭痛
- ◆髄膜炎・脳炎などの神経感染症
- ◆めまいなど

【実績】

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
外来患者延数(人)	6,504	6,696	6,743
入院患者延数(人)	5,930	6,280	7,291
嚥下造影検査(件)	23	29	30
嚥下内視鏡検査(件)	24	39	23
神経難病レスパイト入院(件)	16	13	10
DBS管理・調整(人)	8	8	10
ボツリヌス治療(件)	35	54	43

【医師紹介】



副院長
脳神経内科主任部長

足立 晶子(山口大学 昭和60年卒)

外来診療／月曜日・水曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本神経学会(専門医、指導医、代議員)
- ◆日本脳卒中学会
- ◆日本内科学会(認定内科医、総合内科専門医)
- ◆日本神経治療学会
- ◆日本認知症学会(専門医、指導医)
- ◆鳥取大学医学部附属病院連携診療教授
- ◆日本リハビリテーション医学会(臨床認定医)
- ◆米子医療センター附属看護学校 非常勤講師
- ◆日本摂食嚥下リハビリテーション学会(認定士)
- ◆認知症サポート医
- ◆日本臨床倫理学会(臨床倫理認定士)

FIELD/専門分野

外来では脳神経内科一般の診療を行い、嚥下障害の診療にも力を入れてきました。入院診療では2009年回復期リハビリテーション病棟開設時より病棟の専任医として主に脳血管障害のリハビリテーション、社会復帰に携わっています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんやご家族の気持ちに寄り添い、地域のニーズに応えられるような診療を行うよう努めていきます。よろしくお願いいたします。



脳神経内科部長
在宅診療部部長

安井 建一 (鳥取大学 平成8年卒)

外来診療 / 木曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本神経学会(専門医、指導医)
- ◆日本内科学会(認定内科医、総合内科専門医、内科指導医、JMECCインストラクター、中国支部評議員)
- ◆日本救急医学会(ICLSディレクター)
- ◆日本神経治療学会
- ◆日本神経感染症学会
- ◆日本認知症学会
- ◆日本頭痛学会
- ◆日本臨床倫理学会(臨床倫理認定士)
- ◆鳥取大学医学部非常勤講師(臨床神経学)
- ◆米子医療センター附属看護学校 非常勤講師
- ◆嚥下機能評価研修修了
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆鳥取大学医学部臨床教授

FIELD/専門分野

脳血管障害を始めとした神経救急疾患の診療を主体として行っています。専門分野は、パーキンソン病、多系統萎縮症などの神経難病診療です。外来診療だけでなく、訪問診療、レスパイトや療養入院などにも対応しています。DBS、ITBなどの術後DAT管理、痙縮に対するボツリヌス治療も行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

神経疾患患者さんに対し、地域で出来ることを積極的に行っています。症状を軽減し、寄り添う診療を心掛けています。地域の神経内科診療を質の高いものにすることを目標にして診療に取り組んでいます。

非常勤 外来担当 外来診療 / 火曜日

鳥取大学脳神経内科助教(リハビリテーション部) 佐々 真悠子

総合診療内科

【概要】

総合診療とは、専門診療の対義語です。患者を全人的、多角的に捉え、特定の臓器・疾患に限定しない診療形態です。内科関連疾患を対象とする場合には総合診療内科と呼びます。当院では毎日紹介状のない初診患者を中心に診療を行っています。診察の結果、専門診療科の受診が必要と判断されれば適切な診療科へ紹介します。従来、電話での救急患者の入院依頼は対応に時間がかかっていましたが、総合診療内科外来を通すことで時間短縮が可能となっています。

【対象疾患】

- ◆内科を初めて受診する患者で紹介状をお持ちでない方
- ◆内科以外に通院中で、内科受診が必要と思われる患者
- ◆内科に通院中で、予約外に受診を希望する患者
- ◆検診で精密検査を勧められた患者
- ◆救急外来を受診した後に外来予約を取った患者

※対象疾患のうち、明らかに専門外来を受診したほうがよい患者を除く

【実績】

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
初診紹介件数(件)	38	52	58
初診患者数(人)	477	354	438
再来患者数(人)	2,989	2,401	1,835

【医師紹介】



総合診療内科部長
呼吸器内科部長

重白 啓司

外来診療／水曜日・金曜日

……………呼吸器内科(P17)参照

非常勤 外来担当 外来診療／第1・3・5木曜日
鳥取大学血液内科教授 河村 浩二

外科(消化器外科・肛門外科・乳腺外科)

【概要】

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会の専門医、指導医による一般外科手術、消化器外科手術、消化器がんの手術や周術期の抗癌剤治療を行っています。

胆石症や胃がん、大腸がん、急性虫垂炎、鼠径ヘルニアの腹腔鏡下手術も行い、患者さんのニーズに応じています。

その他、痔など直腸肛門疾患、消化器がん末期患者さんの在宅診療など、幅広い医療を提供しています。

また乳腺外科は、日本乳癌学会認定の専門医(指導医)二人体制による乳腺疾患の専門外来です。乳がん検診で精査が必要な方、乳房にしこりを触れるなどの症状がある方の精査、診療等を行っています。

乳がんと診断された方に対して、乳癌学会専門医の指導のもと、外科医師と協力して手術や術後の化学療法などを行っています。

対象疾患

- ◆胃がん
- ◆大腸がん
- ◆胆石
- ◆直腸肛門疾患
- ◆急性虫垂炎
- ◆ヘルニア
- ◆一般外科疾患など
- ◆乳がん検診で要精査
- ◆乳房に良性疾患(良性腫瘍、乳腺炎)など
- ◆乳がんの診断、治療

【実績】

疾患	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	症例	開腹/腹腔鏡	症例	開腹/腹腔鏡	症例	開腹/腹腔鏡
胃がん	8		8		6	
胃全摘	0		0		2	2/0
胃切除	8	6/2	8	6/2	2	1/1
噴門切除	0		0		0	
その他					2	
結腸がん	32	24/8	32	27/5	23	20/3
直腸がん	7	4/3	6	4/2	6	1/5
胆嚢がん					1	
胆石、胆嚢ポリープ、胆嚢炎	39	6/33	34	5/29	34	1/33
総胆管結石	2	0/2	0		0	
直腸脱	1		3		2	
痔核	13		22		26	
ヘルニア	30	15/15	40	19/21	35	13/22
膵臓疾患	0		0		0	
肝臓疾患	0		1	1	2	

【医師紹介】



消化器外科主任部長 近藤 亮(鳥取大学 平成元年卒)

外来診療／月曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(認定医、専門医)
- ◆日本消化器外科学会(認定医、専門医、指導医)
- ◆日本臨床栄養代謝学会
- ◆日本臨床栄養代謝学会TNT研修修了
- ◆日本がん治療認定医機構(認定医)
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師
- ◆日本乳癌学会
- ◆日本乳癌検診学会

FIELD/専門分野

頻度の多い外科疾患である胃がん、大腸がん、胆嚢結石症、急性虫垂炎、鼠径ヘルニアのほか、乳腺疾患、周術期抗がん剤治療、緩和医療、訪問診療など、手術から術後のフォローアップ、がん終末期の症状コントロールに至るまで広く対応しております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

常に最新のガイドラインを参照し、最新の標準治療を提供するとともに、患者さん一人ひとりのニーズに沿った診療を心がけています。



消化器外科部長 竹本 大樹(鳥取大学 平成9年卒)

外来診療／月曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器外科学会
- ◆日本臨床外科学会
- ◆日本大腸肛門病学会
- ◆日本救急医学会
- ◆日本がん治療認定医機構(認定医)
- ◆インフェクションコントロールドクター

FIELD/専門分野

日本外科学会専門医及び指導医、日本消化器外科学会専門医および指導医として、消化器がんの手術を主に、一般外科、乳腺外科、腹部救急の分野で、日々診療にあたっています。また必要に応じて化学療法などの薬物療法を外来治療室の看護師、薬剤師と協力・情報交換しながら行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

消化器外科、一般・救急外科及び乳腺外科の分野で、地域の方々に寄り添い、質の高い医療が提供できるように診療に取り組んでいます。

【実績】

疾患	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	症例	全摘/温存	症例	全摘/温存	症例	全摘/温存
乳がん	39	23/16	44	22/22	51	33/18
乳腺腫瘍	10		7		3	
乳腺その他	3		1		1	

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
デジタルマンモグラフィ(3D)	5,266 (2,963)	5,659 (3,323)	5,124 (2,922)
乳腺エコー(ABUS)	1,935 (431)	2,209 (805)	2,689 (751)

【医師紹介】



外科部長 角 賢一(山口大学 昭和58年卒)(嘱託)

外来診療／火曜日・水曜日(新患のみ)・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(認定医・専門医・指導医)
- ◆日本医師会認定産業医
- ◆日本消化器外科学会(専門医・指導医)
- ◆介護支援専門員
- ◆日本消化器病学会(専門医)
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師
- ◆日本乳癌学会(専門医・指導医)
- ◆乳房超音波読影認定医師
- ◆日本臨床外科学会

FIELD/専門分野

乳腺疾患:乳癌学会の専門医、マンモグラフィ読影医、乳房超音波読影医として、乳がん検診で精査が必要な方の精密検査を担当しています。また、乳がんの方の手術や化学療法も担当しています。
 肛門疾患:内痔核に対するジオン注射や手術、直腸脱に対する経肛門の手術を施行しています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

乳腺疾患や消化器疾患(肛門)の診断から治療までの診療に携わっています。
 在宅診療にもかかわり、患者さんやご家族のニーズに応えるようにしています。



乳腺外科部長 工藤 浩史(鳥取大学 昭和48年卒)(嘱託)

外来診療／月曜日・水曜日 ドック健診センター：火曜日～木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本乳癌学会(専門医、指導医)
- ◆日本人間ドック学会
- ◆日本外科学会(専門医)
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師
- ◆日本臨床細胞学会(細胞診専門医、教育研修指導医)
- ◆日本乳癌検診学会
- ◆日本感染症学会(感染コントロール医)

FIELD/専門分野

乳腺専門医および指導医として外来並びにドック健診センターで業務を担当し、乳がんの早期発見に日々努力しています。また、外来で発見された乳がんの手術や術前検査にも携わっています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当院は乳腺専門医が2人いて、乳がん診断用機器も充実しているので、安心して患者さんをご紹介下さい。

アミノインデックス外来

【概要】

これまで、血中のアミノ酸濃度は各疾患によって変化することが知られていましたが、それを臨床応用する試みは行われていませんでした。現在、長年の研究結果から、血中アミノ酸濃度の変化から、がん、糖尿病、脳卒中・心筋梗塞の三大疾患に加え、認知症のリスクを評価できるようになりました。日本人の死亡原因は、がん、心疾患、脳血管疾患の順に高率で、糖尿病はこの三疾患の主な原因の一つです。血中アミノ酸濃度の測定により、がん、糖尿病、脳心疾患、認知症のリスクを知り、疾患の予防、早期発見、早期治療にお役立て下さい。がんの危険性に関しては、ランクAは通常の1/3、ランクBは通常の1.6倍、ランクCは通常の10倍のリスクを表します。

対象疾患

- ◆がん
 - 男性 胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん
 - 女性 胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん、子宮がん、卵巣がん
- ◆糖尿病
- ◆脳卒中・心筋梗塞
- ◆認知症

【実績】

2018年4月～2023年3月までの5年間に、当院のアミノインデックス外来で検査を受けた方は136例であり、その判定結果は表1の示すように各がん腫のランクCの出現頻度は約10%でありました。この中で、がん発見例は大腸がん1例、甲状腺がん1例、前立腺がん2例、小腸がん1例、肺がん1例の6例であり、がん疑い病変は膵嚢胞性腫瘍2例、肺がん疑い1例、胆嚢腫瘍1例、食道SMT1例、子宮頸部腫瘍1例の6例でありました。これらの症例の多くは、南部町での2400例の結果同様、ランクCが複数のがん腫に付いた症例であり、ランクCの数が多くなるほどがん発見率が高くなる傾向にありました(表2)。

表1 AICS判定結果

	n	ランクA	ランクB	ランクC
胃がん	136	83	32	21(15%)
肺がん	136	89	31	16(12%)
大腸がん	136	90	32	14(10%)
膵臓がん	136	106	20	10(7%)
前立腺がん	65	33	15	17(26%)
乳がん	71	47	19	5(7%)
子宮・卵巣がん	71	47	18	6(8%)
計	751	495	167	89(12%)

表2 ランクCの数とがん・がん疑発見率

ランクCの数	n	がん・がん疑発見数	がん・がん疑発見率
0個	86例	4例	4/79(5%)
1個	26例	2例	2/26(8%)
2個	15例	4例	4/15(27%)
3個以上	9例	2例	2/9(22%)
計	136例	12例	12/136(9%)

【医師紹介】



ドック健診センター長
外科部長

木村 修(鳥取大学 昭和52年卒)(嘱託)

外来診療/水曜日 ドック健診センター/月曜日・火曜日・木曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(認定医、専門医)
- ◆日本消化器外科学会(認定医、認定登録医、指導医、消化器がん外科治療認定医)
- ◆日本大腸肛門病学会(専門医、指導医)
- ◆日本人間ドック学会(認定医、人間ドック健診情報管理指導士)
- ◆日本臨床外科学会
- ◆鳥取県健康対策協議会西部胃がん・大腸がん検診読影委員会
- ◆難病指定医:身体障害者福祉法指定医(大腸、小腸)
- ◆医師卒業臨床研修指導医
- ◆中四国ストーマリハビリテーション研究会幹事
- ◆日本オストミー協会顧問医

FIELD/専門分野

これまでの多くの消化器疾患の外科治療、ならびにアミノインデックス検査の経験から、消化器疾患術後の方の経過観察、アミノインデックス検査を用いたがん、糖尿病、脳・心疾患、認知症のリスク判定、ならびにドック健診センターにおける生活習慣病予防、がんの早期発見に努めております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

アミノインデックス検査を用いたがん、糖尿病、脳・心疾患、認知症のリスク判定、ドック健診センターにおける生活習慣病予防、がんの早期発見に努めております。令和5年4月より、ドック健診センターの人間ドック健診におきましてもアミノインデックス検査をオプションとして開始いたしました。

腎臓外科(臓器移植)

【概要】

移植患者、生体ドナーの定期外来と入院を中心に診療しています。米子市内はもとより、倉吉、鳥取、境港、松江、出雲、大田、真庭など遠方からも受診されています。腎移植、脾腎同時移植患者の免疫抑制療法と拒絶反応の診断、がん検診を主とし、感染症、合併症、腎生検と拒絶反応治療は緊急入院で対応します。

外来では、一般血液・尿検査、感染マーカーの定期検査、免疫抑制剤の血中濃度測定と処方に加え、移植腎エコー、CT、MRAによる移植腎・脾の形態と血流評価、心機能評価、骨密度測定などをします。移植後糖尿病患者に対する内服・インスリン療法、骨粗鬆症の診断と治療、高齢患者の認知症と服薬対応、精神的支援も守備範囲です。維持透析患者では、透析条件の設定、定期検査・処方、シャント手術に対応します。入院患者では該当疾患の治療に加え、腎臓リハと栄養指導、さらに外来リハに継続して、長期生着と身体活動改善を目指しています。

対象疾患

- ◆ 移植後免疫抑制療法(3剤併用または4剤併用による維持療法)
- ◆ 急性拒絶反応(腎生検診断、抗体療法、血漿交換など)
- ◆ 慢性拒絶反応
- ◆ ウイルス感染症(CMV感染、BKV感染、帯状疱疹、ヘルペス感染、COVID-19感染、インフルエンザ感染など)
- ◆ 真菌感染症(カンジダ症、ニューモシスチス肺炎など)
- ◆ 細菌感染症(肺炎、腎盂腎炎、蜂窩織炎、胃腸炎など)
- ◆ PTLD(抗がん剤治療)
- ◆ 移植後糖尿病(食事療法、運動療法、内服療法、インスリン注射)
- ◆ ステロイド骨粗鬆症(骨密度検査、内服療法、注射など)
- ◆ 透析再導入(シャント作成、免疫抑制調整)
- ◆ シャントトラブル(外科的シャント再建、グラフトシャント作成など)

【実績】

項目	令和4年度
外来患者延数(人)	1,304
入院患者延数(人)	375
シャント手術、グラフトシャント手術(件)	8

令和4年度は、外来延患者は1,304人。口唇ヘルペス2例、口腔内カンジダ症1例、CMV感染症2例、帯状疱疹2例、移植患者のCOVID-19感染23例でした。入院延患者は375人。FSGS再発1例、腎盂腎炎5例、下腿カルシフィラキシス1例、下腿蜂窩織炎2例、腹膜透析後の急性虫垂炎1例。手術件数8例。シャントグラフト置換7例、シャント瘤切除1例を行いました。

【医師紹介】



腎臓外科部長 杉谷 篤(九州大学 昭和58年卒)(嘱託)

外来診療/月曜日～金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆ 日本外科学会(専門医、指導医)
- ◆ 日本消化器外科学会(専門医、指導医、消化器外科治療認定医)
- ◆ 日本肝胆膵外科学会(評議員、名誉指導医)
- ◆ 日本移植学会(評議員、移植認定医)
- ◆ 日本臨床腎移植学会(副理事長、腎移植専門医)
- ◆ 日本小児腎不全学会(理事)
- ◆ 日本脾・膵島移植学会(世話人)
- ◆ 日本臨床倫理学会(理事)
- ◆ 日本サイネフロロジー学会(代議員)
- ◆ 日本透析医学会
- ◆ 日本腎臓学会
- ◆ 日本腎臓リハビリテーション学会(腎リハ指導士)
- ◆ 移植腎病理研究会(幹事)
- ◆ 医師卒後研修指導医
- ◆ 外国医師臨床修練指導医
- ◆ 鳥取県難病指定医(専門医)

FIELD/専門分野

一般・消化器外科、移植外科(腎移植、脾移植)、血管外科、維持透析の診療を中心にしています。腎移植・脾移植患者と生体ドナーの定期外来で、免疫抑制療法と拒絶反応の診断、がん検診を主とし、感染症や合併症、腎生検と拒絶反応治療、血漿交換療法は緊急入院で行います。また、透析患者のシャント造設、グラフト再建・置換もします。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

この地域の移植患者、移植希望者、腎不全患者、透析患者さんのための診療と有益な情報提供を心掛けていきます。できることがあれば、気軽に声をかけて下さい。

整形外科

【概要】

昨今の人口高齢化を反映し、当科を受診される方も腰痛・膝痛など加齢による「変性疾患」が原因である場合が多く見受けられます。また、女性に関しては「骨粗鬆症」を基盤にした種々の病態のほか、骨粗鬆症関連骨折といわれる四肢・脊椎の骨折が増加する傾向にあります。一般整形外科診療としては、乳児・小児の先天性疾患や発育期の骨関節疾患、青壮年期の脊椎・関節疾患および外傷や骨折などの保存的・観血的治療を行っています。人工関節専門外来と骨粗鬆症専門外来では、それぞれの専門性を生かした治療を目指しています。患者さんのQOLを維持するために、痛みへの治療も行っています。

対象疾患

- ◆変形性腰椎症
- ◆腰椎椎間板ヘルニア
- ◆変形性頸椎症
- ◆脊椎骨粗鬆症
- ◆変形性関節症(股・膝・足など)
- ◆関節リウマチ
- ◆骨粗鬆症関連骨折(大腿骨近位部・上腕骨近位部・橈骨遠位端など)
- ◆閉経後骨粗鬆症
- ◆老年性骨粗鬆症
- ◆ステロイド骨粗鬆症
- ◆慢性腎臓病(CKD)・糖尿病など生活習慣病関連の骨粗鬆症
- ◆その他代謝性骨疾患
- ◆腰痛・下肢痛(坐骨神経痛、大腿神経痛)を引き起こす疾患(腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症・腰椎変性すべり症)

【実績】

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人工関節手術(膝・股・肩)数(件)	25	18	16
大腿骨近位部骨折手術(人工骨頭挿入術)数(件)	33	28	22
大腿骨近位部骨折手術(骨折観血的手術)数(件)	27	36	27
骨密度測定数(件)	1,552	1,224	1,413

【医師紹介】



副院長
整形外科部長

中村 達彦(鳥取大学 昭和61年卒)

外来診療／火曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本整形外科学会(専門医、認定運動器リハビリテーション医)
- ◆日本骨代謝学会
- ◆日本骨粗鬆症学会
- ◆日本骨折治療学会
- ◆日本医療マネジメント学会

FIELD/専門分野

乳児から超高齢者まで整形外科疾患全般広く診療しています。股関節開排制限のある乳児に対してはレントゲン検査の他、超音波検査を行い脱臼の有無を調べます。その結果に沿った治療を進めてまいります。骨粗鬆症に対してはDXA装置を用いた骨密度測定結果と血液検査による骨代謝マーカー測定結果を参考にして最適な治療法を選択しています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんの笑顔が見られるような医療を心がけています。また骨粗鬆症治療の病診連携を引き続き行ってまいりますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

整形外科医長 根津 明菜(久留米大学 平成21年卒)

外来診療/月曜日・水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

◆日本整形外科学会(専門医)



FIELD/専門分野

整形外科一般

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

地域医療に貢献できるよう頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。

整形外科部長 三木 純(山口大学 昭和55年卒)(嘱託)

外来診療/月曜日・火曜日・木曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

◆日本整形外科学会(専門医、認定運動器リハビリテーション医)

FIELD/専門分野

整形外科全般の外来診療を行っています。痛みを抱えて生活することは心身に大きなストレスを与えます。痛みの原因を調べて、患者さんに分かりやすく説明し、納得いただいた上で治療方針を決定するように心がけています。糖尿病患者の骨粗鬆症など他疾患との関連も確認しながら診療を行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

長年続く腰や下肢の痛みなどでお困りの患者さんがおられましたら、お気軽にご相談、ご紹介下さい。

非常勤 外来担当

医療法人元町病院病院長 奥野 誠(外来診療/金曜日)
野島病院整形外科医師 岸本 英彰(外来診療/月曜日)

非常勤 手術・外来担当

鳥取大学整形外科助教 三原 徳満(外来診療/水曜日)

産婦人科

【概要】

女性のライフステージは女性ホルモンの一つであるエストロゲンの分泌動態により、思春期、性成熟期、更年期、老年期の4つに分類されます。そしてそれぞれのステージには、このエストロゲンの変化に伴った特有の病気がみられます。当院では全てのステージでおこるこれら女性特有の疾患に対して最新・最善の治療を受けていただけるよう、女性医師を含めた4名の専門医(常勤:男性1名、女性2名、非常勤:女性1名)により、日々努力しております。また手術に関しても月、火、木の午前・午後と十分な枠を確保して、患者さんの要望に応えられるよう努めております。なお周産期医療に関しましては平成26年より分娩の取り扱いを中止しておりますが、妊婦健診は引き続き行っております。

【対象疾患】

- ◆ 良性疾患—子宮(子宮筋腫、子宮内膜ポリープ、子宮腺筋症、子宮内膜症) 卵巣(卵巣のう腫、チョコレート嚢胞など) 卵管(卵管留水症、卵管膿瘍、子宮外妊娠) 外陰(外陰腫瘍、バルトリン腺膿瘍など)
- ◆ 悪性疾患—子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんの診断や検診
- ◆ 骨盤臓器脱—子宮脱、膀胱瘤、直腸瘤
- ◆ 生殖・内分泌異常—不妊症の検査と治療(人工授精まで)、思春期の月経異常、月経困難症、月経前症候群、更年期症候群など

【実績】

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総手術数(件)	151	141	162
子宮全摘術(開腹)	30	20	13
腹腔鏡下手術	26	20	33
子宮鏡下手術	32	42	43
子宮脱手術(膣式)	24	19	22
子宮頸部円錐切除術	26	30	36

【医師紹介】



産婦人科主任部長 片桐 千恵子(鳥取大学 平成元年卒)

外来診療/月曜日・火曜日・木曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆ 日本産科婦人科学会(専門医)
- ◆ 日本女性医学学会(女性ヘルスケア専門医)
- ◆ 日本生殖医学会
- ◆ 日本産科婦人科内視鏡学会
- ◆ 日本女性心身医学会
- ◆ 臨床研修指導医研修了
- ◆ 母体保護法指定医
- ◆ 日本スポーツ協会公認スポーツドクター

FIELD/専門分野

一般婦人科疾患、不妊症検査と治療、女性内分泌変化による思春期、更年期の諸症状、女性アスリートの健康支援、性に関するトラブルと疾患(性被害、性感染症、性教育など)

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当院では分娩を取り扱っておらず、婦人科疾患中心の診療を行っております。小児から高齢の方まで幅広い年齢層の患者さんに受診いただいています。診察時の身体的、精神的な負担を軽減できるようスタッフとともに努めています。



産婦人科部長 下雅意 るり(鳥取大学 平成13年卒)

外来診療／月曜日・水曜日・木曜日(交代)

所属学会・専門医情報

- ◆日本産科婦人科学会(専門医)
- ◆日本臨床細胞学会(専門医)
- ◆日本女性医学学会
- ◆日本婦人科腫瘍学会
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了
- ◆緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了
- ◆緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了認定
- ◆母体保護法指定医

FIELD/専門分野

婦人科腫瘍を専門としており、特にがん検診やHPVワクチンの啓発、早期受診の勧奨などがん予防に取り組んでいます。
 その他、子宮筋腫や卵巣腫瘍といった良性疾患では、それぞれのライフスタイルを考慮した治療法をご本人と共に考え、選択していきます。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

年齢に関わらず全ての女性の健康をサポートするのが産婦人科医です。月経痛や月経不順、更年期症状、その他の不安を1人で悩まず、まずはお話だけでもOKです。「いつでも・誰でも」、お気軽にご相談下さい。



産婦人科部長 石原 幸一(鳥取大学 昭和56年卒)(嘱託)

外来診療／火曜日・水曜日・木曜日(交代)・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本産科婦人科学会(専門医)
- ◆日本産婦人科手術学会
- ◆日本婦人科腫瘍学会
- ◆日本臨床細胞学会
- ◆母体保護法指定医
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆厚生労働省緩和医療研修修了

FIELD/専門分野

婦人科腫瘍の早期発見、また一般婦人科疾患の内視鏡下手術も含めた早期治療を主として日々の診療を行っております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

ご紹介いただいた患者さんを早期に治療できるようスタッフや手術枠を増やして対応しております。どうぞお気軽にご紹介下さい。

麻酔科

【概要】

手術適応年齢の高齢化が一段と進み、全身麻酔を必要とする手術件数は増加し続けています。当院麻酔科は、日本麻酔科学会認定の常勤専門医2名と非常勤専門医1名で手術麻酔を担当しています。

対象疾患

◆当院手術室で行われる各手術

◆産科診療所の帝王切開

【実績】

麻酔別手術件数	令和2年度	令和3年度	令和4年度
全身麻酔	545	605	556
脊硬麻	11	17	22
静脈麻酔	9	2	1
局所麻酔	218	179	203
総数	783	803	782

【医師紹介】



麻酔科主任部長 佐藤 章子(金沢医科大学 平成12年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本麻酔科学会(認定医・専門医)
- ◆日本臨床麻酔科学会
- ◆厚生労働省麻酔科標榜医
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了

FIELD/専門分野

手術室での外科・整形外科・婦人科の麻酔に関わっています。手術内容や患者さんの術前の全身状態に応じて、より最適な麻酔方法や薬物を選択しています。硬膜外麻酔による術後鎮痛や早期の日常生活への復帰など、術後の生活の質(QOL)を考慮した麻酔・周術期管理を目指しています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんにはいい説明を心がけ、安全な医療を提供できるようにスタッフ間の連携を図っています。地域の皆様のお役に立てるよう診療に取り組んでまいります。



麻酔科医員 多喜 小夜(鳥取大学 平成3年卒)(嘱託)

所属学会・専門医情報

- ◆日本麻酔科学会(専門医、指導医)
- ◆日本産科麻酔学会
- ◆日本障害者歯科学会
- ◆日本臨床麻酔学会
- ◆厚生労働省麻酔科標榜医

FIELD/専門分野

各科の手術の麻酔管理(全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔)を行っています。また、米子市内の産科診療所における帝王切開、鳥取県立総合療育センターにおける障がい児(者)の全身麻酔下歯科治療の麻酔管理を出張で行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

手術を受ける患者さんが安全で快適な周術期を過ごせるよう、スタッフと協力して診療にあたっています。地域の皆様に信頼していただける医療を提供していきます。

非常勤 手術援助

麻酔科医師 廣澤 壽一

放射線科

【概要】

各診療科や近隣の医院、病院からの依頼に応じて、各々の画像検査を行いその結果を診断レポートとして報告しています。依頼された検査のみで診断が見つからない場合は、追加の必要な検査を提示し、早期に的確な治療へと結びつくように努力しています。また、画像診断装置を利用した IVR（インターベンショナルラジオロジー）という治療を行っています。対象疾患は全身に及びます。

対象疾患

◆肝腫瘍

◆透析シャントトラブル

◆中心静脈ポート留置

【実績】

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
IVR(件)	77	70	94

【医師紹介】



放射線科部長 中村 希代志(鳥取大学 平成3年卒)

外来診療／月曜日～金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本医学放射線学会(放射線診断専門医)
- ◆日本インターベンショナルラジオロジー学会(IVR専門医)
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医
- ◆日本消化器病学会

FIELD/専門分野

頭部・胸部・腹部を中心とした全身の画像診断をCTとMRIを用いて行っています。また、透析シャントトラブルに対するバルーンカテーテルを用いた経皮経管的治療や中心静脈ポート留置等の低侵襲的治療を行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

博愛病院ではAI(人工知能)を用いた画像診断補助システムを胸部X線検査と胸部CTに導入し、見落としがなく精度の高い画像診断報告書の作成を心がけています。

非常勤 外来担当 外来診療／月曜日・木曜日

鳥取大学放射線科 牧嶋 惇

鳥取大学放射線科 大森 文子

鳥取大学放射線科 鎌田 裕司

鳥取大学放射線科 保手浜 裕之

眼科

【概要】

人間の五感のうち、視覚から得られる情報量は80%以上と言われています。特にパソコンやスマートフォンが普及した現代においては、QOLを守るため、視機能を維持することは大変重要となります。高齢化社会に伴って、白内障・緑内障・糖尿病網膜症・加齢黄斑変性などの疾患が増加しています。眼科は視機能を守るお手伝いをさせていただいております。

外来は平日の午前診療、手術は水曜午後、主に白内障手術を行っています。眼科一般を診療しております。

対象疾患

- ◆ドライアイ
- ◆ぶどう膜炎
- ◆緑内障
- ◆加齢黄斑変性症
- ◆角膜炎
- ◆白内障
- ◆糖尿病網膜症
- ◆網膜静脈閉塞症等

【実績】

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
外来患者延数(人)	4,620	4,377	4,450
入院患者延数(人) <small>※退院含む</small>	278	277	268
白内障手術(件)	125	124	133

【医師紹介】



眼科部長 小松 恵子(鳥取大学 平成13年卒) (嘱託)

外来診療/月曜日～金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本眼科学会(専門医)
- ◆日本眼科医会

FIELD/専門分野

角結膜疾患、白内障、緑内障、糖尿病網膜症等、眼科一般を診療しております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんの視機能維持に貢献できるよう、目に優しい丁寧な説明と適切な治療を心がけています。

非常勤 手術援助

鳥取大学眼科助教 稲田 耕大

小児科

【概要】

小児リハビリテーションで、発達障害などがある児に対し作業療法・言語聴覚療法を行います。2015年11月から発達障害児に対するリハビリテーションを行っています。運動面やコミュニケーションなどについて、それぞれの児の発達に応じて療法士が個別に対応しています。まず、「博愛こども発達・在宅支援クリニック（以下クリニック）」を受診していただきます。クリニックからの紹介で、病院の小児リハビリテーション外来を受診していただき診察いたします。（クリニック・病院いずれも予約制です。）クリニックでは経過を診察し、病院ではリハビリテーションの実施計画を立て指示を出し、作業療法・言語聴覚療法を行います。定期的にクリニック脳神経小児科医・病院小児リハビリテーション担当医・療法士でカンファレンスを行い、クリニックと病院とで発達支援の連携を図っています。

対象疾患

- ◆広汎性発達障害
- ◆注意欠陥多動障害
- ◆知的障害
- ◆自閉症スペクトラム障害
- ◆言語発達遅滞
- ◆ダウン症候群など

非常勤 外来担当 外来診療／月曜日・火曜日・木曜日・金曜日

博愛こども発達・在宅支援クリニック小児科部長 福永 真紀

臨床検査科

【概要】

臨床検査科は、各診療科と臨床検査部を繋ぐ橋渡しの役割を担い、診断・治療に貢献する診療科です。測定された検査データを解析し、臨床的に有用な付加価値を付けて臨床医に報告しています。また患者生命に関わる極めて異常な検査データの場合、そのデータが正しい値かどうかの判定を行った上で、速やかに各診療科に報告する体制で運用を行っています。

業務内容 1) 臨床検査の診断支援 2) 検体検査の品質管理 3) 院内検査に用いる機器及び試薬の管理
4) 臨床検査部の管理、運営 5) 臨床検査部部員の指導、教育、育成

【医師紹介】



臨床検査科部長 鶴原 一郎（鳥取大学 昭和45年卒）（嘱託）

臨床検査科業務／月曜日～金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会（認定内科医）
- ◆日本消化器病学会（専門医）
- ◆日本消化器内視鏡学会（専門医）
- ◆日本消化器がん検診学会

FIELD/専門分野

定年までは消化器病の診療、検査等に従事していましたが、現在は臨床検査科の支援を中心に行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

検査結果の判断の補助を行うとともに、臨床検査全般の管理、運営並びに院内検査に用いる検査機器及び試薬の管理を担当しています。また検査部員の指導、教育、育成にも携わり臨床検査部全体の質の向上を目指しています。

非常勤医師による専門外来

診療日

診療科目		月	火	水	木	金
血液内科	午前診	—	—	—	鳥取大学医師 (第1,3,5)	—
皮膚科	午後診	—	—	—	鳥取大学医師 (診療:14時～)	—
泌尿器科	午前診 (受付:11時まで)	鳥取大学医師 (診療:9時30分～)	—	—	鳥取大学医師 (診療:9時30分～)	宮川 征男

血液内科

診察内容

血液疾患全般について外来診療を行っております。当院で検査後、必要に応じて鳥取大学医学部附属病院に紹介し、連携を図っています。

対象疾患

◆各種貧血 ◆骨髄増殖性腫瘍 ◆悪性リンパ腫 ◆慢性白血病 ◆急性白血病

医師紹介

鳥取大学血液内科教授 河村 浩二

皮膚科

診察内容

一般皮膚疾患について外来診療を行っております。当院で精査および治療完遂が難しい場合は、鳥取大学医学部附属病院に紹介し、連携を図っています。

対象疾患

◆湿疹・皮膚炎(アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、かぶれ等)
◆皮膚感染症(水虫、とびひ、いぼ等) ◆じんま疹 ◆ざ瘡他

医師紹介

鳥取大学皮膚科 竹内 杏奈

泌尿器科

診察内容

尿路性器腫瘍、排尿障害、尿路性器感染症を中心に泌尿器疾患全般について外来診療を行っております。腹部超音波検査、膀胱鏡検査、CT検査、MRI検査、尿路造影検査など、泌尿器科外来で行われる主要検査の全てが実施可能な体制を整えており、尿管ステント留置など緊急に必要な処置も行っております。また、鳥取大学医学部附属病院など、近隣の総合病院と緊密な連携をとっており、手術や検査などで入院治療が必要な場合には、適切な施設に紹介させていただいております。

対象疾患

◆尿路性器腫瘍(前立腺がん、膀胱がん、腎がんなど)
◆排尿障害(尿失禁、前立腺肥大症など)
◆尿路性器感染症(膀胱炎など) ◆尿路結石症 ◆副腎疾患 ◆後腹膜疾患 ◆男性不妊
◆男性性機能障害 ◆尿路性器先天性疾患

医師紹介

鳥取大学泌尿器科准教授 本田 正史
鳥取大学泌尿器科助教 尾崎 泰起
鳥取大学名誉教授 宮川 征男

救急科・救急診療体制

【概要】

地域の期待と信頼に応えるため、職員一丸となって断らない救急医療を目指しております。日中の救急患者の対応は、地域連携室を窓口にして各診療科で行っています。夜間、休日は、医師1名、看護師1名で救急患者の対応を行っています。診療科ごとに待機医師を設け、必要時には連絡を取って専門的な救急診療が提供できるように努めています。薬剤師、放射線技師、検査技師についても待機制を取っており、必要時には呼び出して諸検査等に対応することが可能です。

また、毎週水曜日(午前)に鳥取大学医学部附属病院救急科より医師を派遣していただき、救急患者の診療を行っています。今後も鳥取大学との連携を推進し、救急体制を充実させていきます。

目標(BSC重点施策)

1. 救急患者トリアージマニュアルの適切な使用の推進と、必要があれば修正を行う。
2. 必要に応じて、救急疾患対応ガイドラインの見直しや追加作成を行う。
3. 救急疾患に対する勉強会の開催。
4. 救急委員会で毎月の受け入れ率や受け入れ不可の理由等の検討を継続する。

【実績】

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
時間外・休日患者数	3,396	3,499	4,020
救急車受入数(終日)	1,299	1,444	1,538
時間外・休日救急車受入数	784	931	1,011

非常勤 救急外来担当

鳥取大学救急科医師(毎週水曜日午前 3名で交代)

救急診療情報

鳥取医療情報ネット宿日直情報より
救急診療の情報が確認できます。



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

診療科は限られていますが、お困りの急患対応を出来るだけ行ってまいりますのでよろしくご依頼申し上げます。

看護部

【理念・基本方針】

1. 理念 すべての人々の生命と、人間としての尊厳を守り、地域に根差した患者中心の看護を提供します
2. 基本方針
 - ①人としての人格・権利を尊重し、患者が納得できる個別性のある看護を提供します
 - ②患者の安全を第一とし、科学的・倫理的判断に基づいた質の高い看護を目指します
 - ③地域ニーズを把握し、予防・救急・在宅医療へと高い見識と広い視野を持ち、継続性のある看護を推進します
 - ④患者を中心にチーム医療の担い手としてコーディネーターの役割を發揮します
 - ⑤看護専門職業人としての能力開発と看護職として自律のために、常に自己研鑽に努めます

目標 (BSC重点施策)

令和4年度

「新しい力を生かした個別性のある看護の実践」

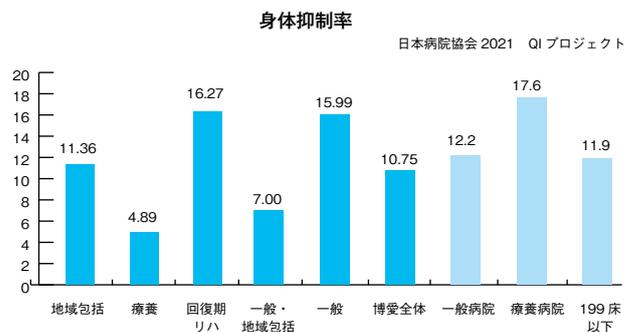
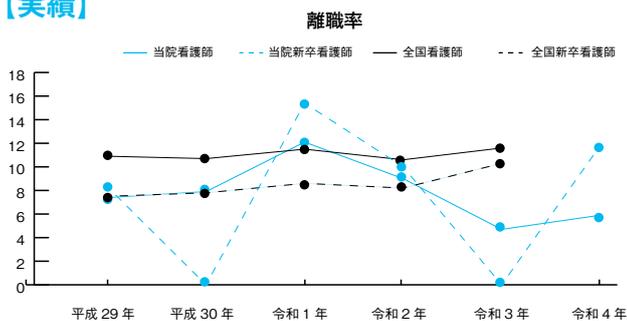
1. 「そばにいる看護」の定着
2. 高齢者のADL維持
3. 身体抑制しない看護の実践
4. 認知症看護の質向上

令和5年度

「患者・チーム・看護職のもつ力を統合した看護の実践」

1. コミュニケーションスキルを活用した高齢患者の意思決定支援
2. 高齢患者のもつ力を支援するADLの維持・回復
3. 担当看護師による患者・家族の望む退院支援

【実績】



【組織・人員構成 (看護体制)】

看護部管理室

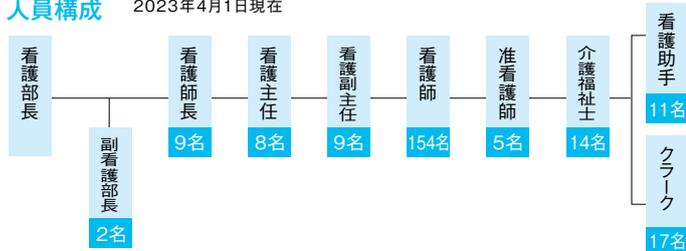


看護体制

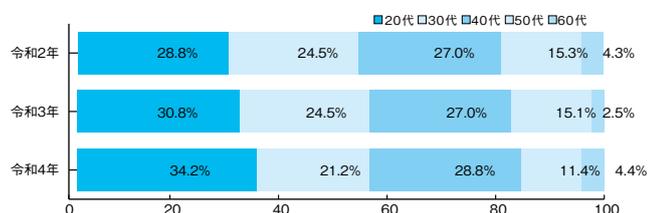
- 2階病棟 51床 地域包括ケア病棟 (13:1)
- 3階A病棟 38床 療養病棟1 (20:1)
- 3階B病棟 30床 回復期リハビリテーション病棟 (15:1)
- 4階A病棟 33床 一般病棟 (10:1)
- 4階B病棟 39床 一般病棟 (10:1)
- 外来
- 手術室
- 透析室

人員構成

2023年4月1日現在



年度別看護師年齢構成



MESSAGE/地域医療機関のみならず

多職種チームと連携し、高齢患者さんの持つ力を支援するADLの維持・回復、患者さんが早期に生活の場に戻れるように、地域ケアの視点を持った担当看護師による退院支援に取り組んでいます。

外来看護

【概要】

当院外来は、幅広い診療科において看護を展開しています。内視鏡室、ドック健診センター、化学療法室、血管造影室、訪問診療など様々な分野で患者さんが安心して安全に検査・処置・治療をいただけるように努めています。さらに、乳がん看護認定看護師や糖尿病看護認定看護師、糖尿病療養指導士、内視鏡技師を配置しておりそれぞれの分野の専門性を活かして看護を提供しています。

目標 (BSC重点施策)

令和4年度

1. 患者に寄り添い、思いに応える外来看護の提供
 - ・救急看護、ACPの実践、リリース体制の強化、化学療法カンファレンス実践、整形外科対応困難事例への取り組み、内視鏡室でのタクティール、ドック室機能評価認定取得

令和5年度

1. 患者・家族の心に届く看護の実践
ACPノート(博愛すまいるノート)を活用した継続看護
2. 救急看護に対応できるチーム医療の実践

【実績】

項目	令和3年度	令和4年度
在宅療養指導数(件)	14	20
透析予防指導数(件)	14	24

がん相談外来	令和2年度	令和3年度	令和4年度
看護介入数(件)	348	379	185
がん患者指導管理料(イ)	103	108	83
がん患者指導管理料(ハ)	17	53	—
がん患者指導管理料(ロ)	—	5	17
がん患者指導管理料(ニ)	—	0	2

【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／西川厚子

人員構成

看護師 ……………26名
乳がん看護認定看護師 ……………1名
糖尿病看護認定看護師 ……………1名
日本糖尿病療養指導士(看護師) ……2名
消化器内視鏡技師(看護師) ……4名
看護助手 ……………2名
クラーク ……………10名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんが住み慣れた場所で安心して生活ができるよう、病棟や地域と連携を図り継続した看護を提供しています。
患者さんの意思決定に寄り添うため「博愛すまいるノート」の活用を開始しました。

2階病棟(地域包括ケア病床)

【概要】

急性期治療を終えた患者の継続的治療やリハビリテーションを行い、在宅復帰の支援を行っています。また、在宅にて療養されている方の入院受け入れを行っています。治療後、引き続き在宅療養へ戻れるよう、退院後の生活のイメージを共有し方向性を患者・家族と検討し医療チームで情報共有しています。

退院前は必要な社会資源を活用できるように、当院の医療スタッフや在宅支援スタッフと共に自宅退院に向けた支援を行っています。

目標 (BSC重点施策)

令和4年度

1. 地域包括ケア病棟の役割を発揮し、患者家族が満足できる退院支援を行う
2. 退院後の生活を意識し、患者の能力を引き出す看護を実践する
3. リーダーシップが取れる人材を育成し、看護師の満足度の向上を図る

令和5年度

1. 看護師が患者・家族の望む退院に向け、いきいきと関わる退院支援
2. 患者・看護師がともにわくわく(work work)する業務改善(患者にかかわる時間を増やし時間外を減らす)

【実績】

2階病棟では患者と共に退院後の生活を意識した看護展開を行っています。患者満足度調査では退院支援・退院指導・カンファレンスの有効性、退院調整の活用において、患者の約90%が当病棟の退院支援・調整に満足していると回答をいただきました。



【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／藤居貴子

人員構成

看護師 ……………26名
(育休1名含む)
入退院支援看護師 ……………1名
理学療法士 ……………1名
看護助手 ……………3名
クラーク ……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

地域包括ケア病棟では患者が住み慣れた生活に安心して戻れるよう、患者の持つ能力を落とさない関わりを目指しています。

3階A病棟(療養病床)

【概要】

急性期の治療を終え、引き続き医療必要度が高く、病院での入院療養が継続的に必要な患者さんにご利用いただく病床です。

【受け入れ可能な医療処置】人工呼吸器、気管カニューレ留置酸素療法、喀痰吸引、血液透析、中心静脈栄養、末期の悪性腫瘍、褥瘡、胃瘻などの経腸栄養など。※人工呼吸器は人数制限及び条件あり

目標(BSC重点施策)

令和4年度

- 1.患者さんが「持てる力」を引き出す看護実践
- 2.エンドオブライフケアを患者家族と共に考え、終末期患者さんを支え、終末期ケアに対する意識を高める
- 3.個々に合った新人看護師指導を行い、成長を支援する

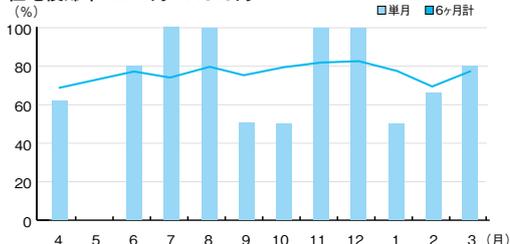
令和5年度

- 1.業務改善に取り組み、仕事への意欲を向上させる
- 2.担当看護師が中心となり患者・家族の望む退院支援を行い、在宅復帰を推進する

【実績】

多職種で協力し患者さんが「持てる力」を生かした看護実践により、ご希望に沿った療養生活を送っていただけるよう支援しています。

在宅復帰率R4.4月~R5.3月



【スタッフ紹介】

責任者

看護師長 / 池嶋美緒

人員構成

看護師……………19名(産休1名含む)
 入退院支援看護師(兼務)……………1名
 緩和ケア認定看護師……………1名
 介護福祉士……………5名
 看護助手……………1名
 クラーク……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

3A病棟(療養病床)は「やさしく寄り添う看護と介護」を目標に、多職種が協力し患者さんのケアを提供しています。各職種の専門知識を活かし、医療・看護・日常生活支援を行い、安心安全を重視しながら患者さんに寄り添ったケアを提供しています。また、患者さんが持てる力を生かした看護を実践することで患者さん・ご家族の希望に沿った退院支援も行っています。

3階B病棟(回復期リハビリテーション病床)

【概要】

回復期リハビリテーション病棟は、脳血管疾患や大腿骨骨折などの発症から急性期治療を経た後、在宅生活復帰・社会生活復帰を目指してリハビリテーションを専門に行っていく病棟です。

現在 1 病棟 30 床あります。

入院対象となる疾患や入院期間は、診療報酬で決められています。

目標(BSC重点施策)

令和4年度

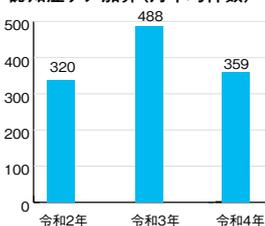
- 1.リハビリテーション看護の知識を向上させ、個別性を重視した看護計画を実践する
- 2.安全な環境調整を行い、患者の日常生活機能を向上させる
- 3.チームの一員として、個別性のある看護が提供できる新人看護師を育成する

令和5年度

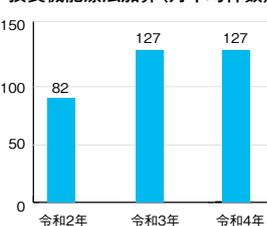
- 1.回復期リハビリテーション看護の知識を習得し、新たな看護実践によって患者の機能を回復させる
- 2.退院調整能力を磨き、患者、家族の望む退院後の生活を支援する

【実績】

認知症ケア加算(月平均件数)



摂食機能療法加算(月平均件数)



【スタッフ紹介】

責任者

看護師長 / 細田友加

人員構成

看護師……………14名(育休1名含む)
 入退院支援看護師(兼務)……………1名
 准看護師……………3名
 介護福祉士……………7名
 理学療法士……………6名
 作業療法士……………6名
 言語聴覚士……………3名
 クラーク……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんに合わせたリハビリテーションを、専門職によるチームで実践しています。入院中から在宅生活を見据えた日常生活支援と再発予防指導を行い、在宅・社会復帰を目指しています。

4階A病棟（一般病床、地域包括ケア病床）

【概要】

急性期一般病床としては整形外科を中心とし、心不全、脳疾患、肺疾患、その他、睡眠時無呼吸症候群の検査入院と幅広い患者さんの入院を受け入れています。又、地域包括ケア病床を8床設けています。高齢者で一人暮らしの方も少なくなく、退院後に安心した生活をしていただけるよう、多職種で協力しながら退院支援を行っています。

目標（BSC重点施策）

令和4年度

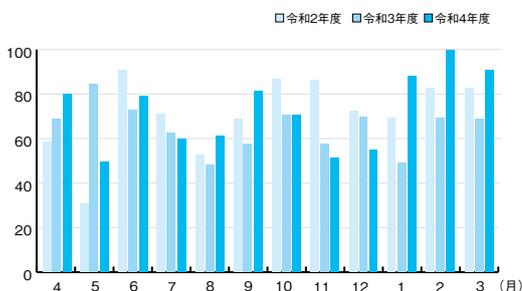
1. 整形外科患者の適切なポジショニングで良肢位の保持と観察を行うことで新規褥瘡発生を減少させる
2. プリセプティ、プリセプター、アソシエイトの満足度を高めることで新人看護師離職率ゼロを目指す
3. タクティールケアの実践と患者のそばに寄り添うことで身体拘束を減少させる

令和5年度

1. 地域包括ケアシステム（医療と介護の連携をはかるシステム）の中で、患者・家族とともに考え多職種と協働し受け持ち看護師が中心に退院支援することができる
2. メンバー全員が意見を言いやすい職場風土をつくり、風通しの良い職場を作る
3. リアリティ・オリエンテーションとタクティールケアの実践と身体抑制時間を減らしせん妄予防をすることができる

【実績】

日勤帯で2時間以上身体拘束を解除できた割合



【スタッフ紹介】

責任者
看護師長／山崎博美



人員構成

看護師……………25名
入退院支援看護師……………1名
介護福祉士……………1名
看護助手……………2名
クラーク……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

できる限り入院前の住み慣れた生活環境に戻れるよう、患者さんの情報共有を図りながら退院調整を進めていきたいと思っております。

4階B病棟（一般病床）

【概要】

外科・婦人科・内科を中心に、急性期病棟として周手術期や緊急入院の患者さんを受け入れています。また腎移植後の身体管理が必要な患者さんの受け入れも始まり、様々な方の対応をしています。超高齢の患者さんも多く、安全への配慮やADLが維持出来るような支援も行いながら、退院後安心して生活していただけるよう、多職種で話し合いを行っています。

目標（BSC重点施策）

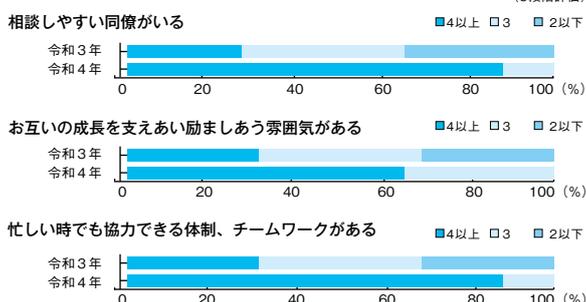
令和4年度

1. 患者参画型カンファレンスを取り入れることにより個を重視した看護の提供
2. 協力体制のしくみを作り、働きやすい職場環境を構築
3. 個々が「やりたい看護」に対して明確な目標をもち、達成することで「やりがい感」を得る

令和5年度

1. 患者の意向を汲み取り、患者・家族の思いを反映させた退院支援をおこなう
2. 急性期患者に対し、看護師一人ひとりのスキルを高める

【実績】



【スタッフ紹介】

責任者
看護師長／加藤美樹



人員構成

看護師……………27名
（育休2名含む）
入退院支援看護師……………1名
准看護師……………1名
看護助手……………3名
クラーク……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

少しずつコロナ規制が緩和され、患者さんと家族の繋がりが戻りつつあります。患者さん・家族の望む療養の形を一緒に考えながらサポートしていきます。

手術室

【概要】

手術室部門は、外科系各科（消化器外科、乳腺外科、整形外科、産婦人科、腎臓外科）の医師、内視鏡手術やペーサーメーカー埋め込み術を行う内科医師、麻酔科専門医、看護チームで構成され、さらに手術のための各種医療機器の点検整備、操作をする臨床工学技士、診療放射線技師による術中X線操作、迅速検査に関わる臨床検査技師など、各部門が連携して手術業務を行っています。

目標(BSC重点施策)

令和4年度

- 1.全身麻酔下患者へ安全な手術看護を提供することで神経損傷・褥瘡発生ゼロを目指す
- 2.禁煙指導を強化することで安全な麻酔及び合併症予防に繋げ、患者が満足する

令和5年度

- 1.看護師の安全意識を向上しアクシデントゼロを目指す
- 2.部署内の教育体制を充実させることにより看護師の満足度が向上する

【実績】

各科手術件数

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
外科	261	291	248
整形外科	199	211	202
産婦人科	155	169	162
血管外科	33	0	0
眼 科	125	124	151
麻 酔 科	0	0	0
内 科	10	8	11
腎臓外科	—	—	8
総 数	783	803	782

【スタッフ紹介】

責任者

室長／佐藤 章子

人員構成

医師 …………… 3名
(うち1名は非常勤)

看護師 …………… 7名
(師長は透析室兼務)

所属学会※医師以外

日本手術看護学会 …………… 5名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

感染予防・事故防止・褥瘡対策など、スタッフ一丸となって取り組んでいます。さらにこれから良い治療を提供するためには近隣の医療機関との連携協力が必要不可欠です。

透析室

【概要】

透析室は医師・看護師・臨床工学技士・理学療法士・管理栄養士など多職種がチームとなり、透析患者と家族が安心・安全な透析医療を受けていただけるような環境を目指しています。透析患者も高齢化が進む中、無料の送迎サービスだけでなく、必要時看護師の同乗や福祉タクシーとも連携し、外来通院のサポートも行っています。

目標(BSC重点施策)

令和4年度

- 1.フットケアのセルフケア能力を向上させ下肢救済につなげる
- 2.患者と共に確実な感染対策を行い、流行期の医療関連感染ゼロを目指す

令和5年度

- 1.透析看護の知識を向上させ、より個別性のある生活指導が実践できる
- 2.透析室の心理的安全性を高め働きやすい職場環境を醸成する

【実績】

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
透析数(回)	6,324	6,510	6,926



看護師長
(手術室兼務)
渡邊 卓

【スタッフ紹介】

責任者

室長／田中 保則

人員構成

医師 …………… 3名

看護師 …………… 10名
(師長は手術室兼務)

臨床工学技士 …………… 6名

看護助手 …………… 1名

認定資格(研修修了含む)※医師以外

透析技術認定士 …………… 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

透析医療が必要な様々な病期の患者さんに対応できる施設です。シャント造設から維持透析、退院後の外来通院のサポートも充実しています。

内視鏡室

【概要】

当院は日本消化器内視鏡学会の指導施設に認定されており、指導医、専門医を中心に、消化器内視鏡検査と治療を行っています。内視鏡室には5名の看護師が配置され、そのうち4名は学会が認定する消化器内視鏡技師の資格を取得しています。呼吸器内科診療の充実に伴い気管支鏡検査も行われ、嚥下機能評価研修を修了した脳神経内科医師が嚥下内視鏡による嚥下機能評価を行っています。

目 標

1. 質が高く、苦痛の少ない、上部・下部消化管や胆膵領域の内視鏡検査と治療、気管支内視鏡検査、嚥下内視鏡検査を継続します。
2. 新型コロナウイルス感染症等の院内感染を起こさないよう、十分な感染対策を行ったうえで内視鏡検査を行います。

【実績】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
上部消化管内視鏡検査	4,462	4,699	4,511
下部消化管内視鏡検査	1,081	1,102	979
内視鏡的逆行性胆管造影	64	61	57
気管支鏡検査	27	20	5
嚥下内視鏡検査	23	37	22

【スタッフ紹介】

責任者

室長／濱本哲郎

人員構成

医師(消化器、呼吸器、脳神経内科を含む)
……………11名
看護師 ……………5名
看護助手 ……………1名

認定資格※医師以外

消化器内視鏡技師……………4名

所属学会※医師以外

日本消化器内視鏡技師会…4名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

上部・下部消化管、胆膵、呼吸器、嚥下機能評価など、幅広い領域の内視鏡検査と治療を行っています。内視鏡検査や治療が必要な場合には、お気軽にご相談下さい。

化学療法室

【概要】

化学療法室は、外来通院で抗がん剤や生物学的製剤の点滴治療を受ける患者さんを対象に活動しています。認定看護師を含む4名の看護師が交代で常駐し、副反応への対応などに配慮し、治療を安全かつ快適に受けただけりよう心がけています。テレビの設置など快適に治療を受けただけりようようなアメニティーも充実させています。

目 標

1. ガイドラインや学会報告などを参考に、引き続き2カ月に1回、レジメン内容の見直しや不要なレジメンの削除を行っていく。
2. 副作用対策の強化内容を入れていく。
3. 免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象の早期発見と対策の整備を行う。

【実績】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
化学療法数(件)	585	521	549

【スタッフ紹介】

責任者

室長／近藤亮

人員構成

医師……………1名
看護師……………4名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

心理的なフォローも心がけ、傾聴し、心療内科紹介も行っていきます。日々新たな知識を獲得し、患者さんに安心かつ快適に治療を受けていただけるよう取り組んでいきます。

ドック健診センター

【概要】

人間ドックとは、船が定期的に修理ドックに入って点検、整備を受け安全な航行に備えるのに例えて付けられた名称と言われており、生活習慣病のわずかな兆候を見逃すまいと身体の隅々まで点検することを目的として日本では昭和29年に、当院では昭和54年に始まりました。

現在、当院のドック健診センターでは人間ドック、各種健診、婦人科検診など年間1万人以上の方が受診され、画像診断のダブルチェック体制、疾患のフォローアップ体制を重視し、病気の予防と早期発見に努めています。特に、乳がん検診においてはマンモグラフィに加え、診断能の優れた最新機器である3D画像のマンモグラフィ(トモシンセシス)、超音波診断装置(ABUS)も使用可能です。また、当施設は新型コロナウイルス感染防止を強化し、日本人間ドック学会認定の感染防止対策実施施設となっております。

健診種類

- ◆ 外来・入院ドック
- ◆ 特定健診、婦人科検診(子宮がん検診、乳がん検診)
- ◆ 全国健康保険協会生活習慣病予防健診
- ◆ 労災二次健診
- ◆ 個人、企業の一般健診
- ◆ 専門ドック(脳ドック、循環器・動脈硬化ドック)

目標(BSC重点施策)

令和4年度

1. 受診者数回復による収益の増加
2. 日本人間ドック学会機能評価の受審、認定取得
3. 受診者の満足度向上、接客改善

令和5年度

1. 経営の改善
2. 職場環境の改善
3. 医療の質と安全の向上

【実績】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人間ドック	3,736	4,055	3,992
協会けんぽ、健診	3,548	3,517	3,553
婦人科検診	2,941	3,077	2,792
計	10,225	10,649	10,337

令和4年度外来・入院ドック 精密検査指示率(要精検率)

	生活習慣病			生活習慣病関連			がん検診						
	血圧	血糖	脂質	心電図	眼底	腹部超音波検査	胸部X線	胃部X線	胃カメラ(生検)	便潜血	子宮頸部細胞診	乳房超音波検査	マンモグラフィ
検査実施数(人)	3,992	3,992	3,992	3,990	3,963	3,998	3,974	791	2,752	3,914	1,242	263	1,076
要治療	138 3.5%	57 1.4%	236 5.9%	0 0.0%	3 0.1%	0 0.0%	2 0.1%	0 0.0%	23 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
要精密検査	0 0.0%	5 0.1%	23 0.6%	104 2.6%	283 7.1%	253 6.3%	101 2.5%	66 8.3%	90 3.3%	294 7.5%	17 1.4%	14 5.3%	65 6.0%
治療中	740 18.5%	226 5.7%	612 15.3%	52 1.3%	169 4.3%	63 1.6%	11 0.3%	0 0.0%	14 0.5%	4 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

※1 上部消化管内視鏡検査:判定の90人のうち①同日生検76人(胃・十二指腸67、食道9)②その他14人

【スタッフ紹介】

責任者

センター長 / 木村修 副センター長 / 多城みゆき

人員構成

医師 3名
 看護師 6名
 保健師 1名
 事務 8名
 クラーク 1名

認定資格

日本人間ドック学会認定医 1名

人間ドック健診情報管理指導士2名(医師、保健師)

所属学会

日本人間ドック学会

【担当医師】

木村修

.....アミノインデックス外来(P25)参照

工藤浩史 乳腺外科(P24)参照



MESSAGE/地域医療機関のみならずへ

日本人間ドック学会の判定区分では、3ヶ月後の再検査が必要(C3)、要治療(D)、要精密検査(E)と判定しております。かかりつけ医の先生方には、これらの判定を受けられた方が紹介状を持って受診される場合があると思われるのでよろしく願い申し上げます。令和5年4月より、人間ドック健診におきましてもアミノインデックス検査を開始いたしました。

薬剤部

【概要】

薬剤部は、医薬品の安全管理、適正使用の役割を担い、安全で質の高い医療を提供出来るように業務に取り組んでいます。医薬品の適正使用の推進においては、他の医療スタッフとは異なる視点（薬学的視点）に立ち、薬の専門家として職能を発揮することが薬剤師としての責務と考えています。調剤業務、持参薬鑑別、医薬品管理、TDM、抗がん剤の無菌調製、外来患者・入院患者への服薬指導、各種チーム医療への参加とともに、医療スタッフへ医薬品安全使用にかかわる情報提供・共有を行っています。また、地域薬剤師や他職種とも連携を図り、入院から外来・在宅まで切れ目ない薬物治療の支援体制を整えています。

目標 (BSC重点施策)

令和4年度

1. 病棟薬剤業務の拡大と充実
2. 地域医療連携の推進
3. 働きやすく・働きがいのある職場づくり
4. SDGs活動の推進

令和5年度

1. 病棟薬剤業務の拡大と充実
2. 地域医療連携の推進
3. 働きやすく・働きがいのある職場づくり
4. SDGs活動の推進

【実績】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入院処方(枚数)	26,397	23,802	23,528
外来処方(枚数)	4,256	4,720	5,155
院外処方(枚数)	44,586	44,367	44,448
院外処方箋発行率	91.10%	90.4%	89.6%
入院注射処方(枚数)	32,566	22,433	20,451
外来注射処方(枚数)	15,213	13,250	13,205
薬剤管理指導件数	761	669	771
無菌調製件数(月平均)	44	39	74
持参薬鑑別件数(平成30年度より集計開始)	1,890	1,872	1,710

【スタッフ紹介】

責任者

部長／足立晶子 主任／中山卓

人員構成

医師……………1名
 薬剤師……………8名
 調剤助手……………2名
 SPD スタッフ……………4名



認定資格(研修修了含む)※医師以外

日本病院薬剤師会
 感染制御認定薬剤師……………1名
 日本緩和医療薬学会
 緩和薬物療法認定薬剤師……………1名
 日本臨床栄養代謝学会
 NST専門療法士……………1名
 日本糖尿病療養指導認定機構
 糖尿病療養指導士……………1名
 薬学教育協議会
 認定実務実習指導薬剤師……………2名
 日本病院薬剤師会
 病院薬学認定薬剤師……………3名
 日本病院薬剤師会
 認定指導薬剤師……………1名

所属学会

日本病院薬剤師会……………8名
 日本医療薬学会……………3名
 日本緩和医療薬学会・日本緩和医療学会・
 日本環境感染学会・日本静脈栄養学会・
 日本老年薬学会・日本循環器学会……………各1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当薬剤部は、医療・介護スタッフと連携し、患者さんや地域のみなさまが安全で適切な薬物療法を受けられるように努めています。薬のことは我々にお任せ下さい。

臨床検査部

【概要】

当院検査部は、地域医療に貢献すべく24時間体制で検査業務に励んでいます。最新型の機器の導入や徹底した品質管理により、迅速で精度の高い検査値報告を目指しています。検査値の精度を高めるために、外部精度管理事業への参加や品質保証施設認証の取得、また学会発表や資格取得など学術研鑽にも積極的に取り組んでいます。そして栄養サポートチームや感染対策チームへの参画、糖尿病教室や自己血糖測定機指導も行っておりチーム医療の一員として活躍しています。さらに近隣住民の方々の健康意識向上、健康管理を目的とした「すまいるプチ検診」を検査部主導で運営しており、地域の方々の健康増進に貢献しています。

目標(BSC重点施策)

令和4年度

1. 検査部経営の改善
2. 職場環境の見直し
3. 安全で質の高い医療の提供
4. 部員の能力向上

令和5年度

1. 検査部経営の改善
2. 業務連携の強化
3. 安全で質の高い医療の提供
4. 部員の能力向上

【実績】

検体検査部門(件数)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
生化学Ⅰ	458,652	483,054	530,739
生化学Ⅱ	33,273	35,766	36,245
免疫血清	47,630	54,135	59,646
血液	70,482	79,176	83,074
一般	35,815	38,350	41,105
輸血	159	188	182
外部委託	10,941	12,818	15,665

すまいるプチ検診	令和2年度	令和3年度	令和4年度
営業日数(日)	243	242	243
実人数(人)	98	113	98

微生物検査部門(件数)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般培養	2,963	3,559	3,138
感受性	414	461	367
その他	172	247	241

生理検査部門(件数)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
心電図	9,337	9,895	9,931
肺機能	319	418	383
超音波	9,165	10,405	10,257
動脈硬化	250	218	394
脳波	70	77	59
筋電図	73	44	50
睡眠検査	63	24	20
歩行試験	2	1	0

病理検査部門(件数)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
病理	1,818	1,850	1,587
細胞診	1,803	1,921	1,696
婦人科細胞診	2,125	2,159	2,219

外部精度管理主催団体(点数)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
日本医師会 臨床検査精度管理調査	98.1/100	98.0/100	97.5/100
日本臨床衛生検査技師会 精度管理調査	98.5/100	99.0/100	97.2/100
鳥取県臨床検査精度管理調査	参加	参加	98.3/100

【スタッフ紹介】

責任者

部長／鶴原一郎 技師長／先瀬浩功

人員構成

医師……………1名
臨床検査技師……………13名



認定資格(研修修了含む)※医師以外

日本糖尿病療養指導士……………2名
鳥取県糖尿病療養指導士……………1名
認定輸血検査技師……………1名
認定超音波検査士(消化器領域)……………2名
認定超音波検査士(循環器領域)……………1名
認定超音波検査士(健診領域)……………1名
認定超音波検査士(体表臓器領域)……………1名
血管診療技師……………1名
臨床工学技士……………1名
健康食品管理士……………1名
二級臨床検査士(循環生理学)……………1名
認定認知症領域検査技師……………1名
認定心電図専門士……………1名
緊急臨床検査士……………1名
危険物取扱者乙4類……………1名
鳥取県肝炎医療コーディネーター……………3名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

日本糖尿病療養指導士による血糖測定器導入・指導・アフターケアを行っています。また乳房超音波画像診断装置(ABUS)を導入し、乳がん検診の精度向上に努めています。

診療放射線部

【概要】

診療放射線部では地域の医療機関の皆さまとの緊密な連携体制の構築が重要と考えております。診断・治療・治療後管理とさまざまな場面において、当院の先進医療機器を皆さまにご利用いただく事で地域連携の一翼を担うことができると考えます。地域医療の密接な連携を目指し、患者さんと主治医の先生を、放射線科紹介と共同利用による画像診断でバックアップします。

当院では64列MDCT、1.5TMRI、FPDマンモグラフィ装置、最新の被ばく低減機能搭載透視装置、アンギオ装置などが稼働しています。

また、DX(デジタルトランスフォーメーション)の取り組みとして、AIによる画像診断支援システムや放射線被ばく管理システムを導入しました。

目標(BSC重点施策)

令和4年度

1. 検査件数の増加
2. 検査の Quality up
3. 働きやすい職場作り
4. SDGs活動の推進

令和5年度

1. 検査件数の増加
2. 検査の Quality up
3. 働きやすい職場作り
4. PACS 導入に向けた取り組み

【実績】

検査項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般撮影(件)	16,016	16,343	16,277
マンモグラフィ(件)	5,266	5,659	5,124
透視(件)	3,454	3,456	3,320
CT(件)	6,581	6,328	6,054
MRI(件)	2,979	3,202	3,270
骨塩定量(件)	962	969	1,012

【スタッフ紹介】

責任者

部長 / 中村希代志 技師長 / 池嶋道夫

人員構成

医師 1名
 診療放射線技師 10名
 看護師 1名
 クラーク 1名



認定資格(研修修了含む)

日本診療放射線技師会・技師格
 シニア 4名
 アドバンス 7名
 日本診療放射線技師会認定
 放射線管理士 4名
 放射線機器管理士 1名
 医療画像情報精度管理士 6名
 マンモグラフィ認定技師 5名
 磁気共鳴専門技術者 1名
 X線CT認定技師 2名
 胃がん検診専門技師 4名
 医療画像情報専門技師 1名
 医療情報専門技師 2名
 画像等手術支援認定技師 1名
 Ai認定技師 2名
 CTコロノグラフィ認定技師 1名
 診療放射線技師会 業務拡大に伴う
 統一講習会修了 10名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

日頃より共同利用、放射線科紹介をご利用いただき誠にありがとうございます。専用ダイヤル、メールで予約受付ができますので今後ともよろしくお願いたします。詳細は当院HPでご確認ください。

専用ダイヤル 090-5051-8172

E-mail : housya-yoyaku@doaikai.jp

リハビリテーション部

【概要】

急性期、回復期（回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟）、維持期（療養型病棟）、生活期（訪問リハビリテーション）と全ての時期にリハビリテーションを提供できる体制をとり、外来でのリハビリテーションにも力を入れております（成人、小児）。令和元年度より腎臓リハビリテーションも開始し、透析に通われておられる方々への運動機能のサポートも行ってまいります。

目標（BSC重点施策）

令和4年度

1. 自部門収益の増加
2. 組織力強化（主体性、全員がリーダー）
3. SDGs活動の推進
（目標 5. 「ジェンダー平等を実現しよう」 ターゲット 5.5/ 平等性）
（目標 8. 「働きがいも 経済成長も」 ターゲット 8.5/ 働きがい）

令和5年度

1. 自部門収益の増加
2. 職場環境の改善
3. 医療の質と安全の向上
4. SDGs活動の推進
（スタッフの平等性と働きがい、ペーパーレスの推進）

【実績】

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
リハビリテーション平均単位数/日 （1人の患者が行う訓練時間） *1単位=20分の訓練	一般病棟（急性期リハビリテーション）	2.9単位	2.4単位	2.4単位
	回復期リハビリテーション病棟	6.1単位	5.9単位	5.8単位
	地域包括ケア病棟	2.3単位	2.4単位	2.4単位
回復期リハビリテーション病棟 実績指数 （より早く、より回復して退院できたかを示した点数：基準35以上）	48.15	48.8	47.23	
嚥下造影検査	24件	35件	31件	
嚥下内視鏡検査	23件	37件	32件	
外来小児リハ 通院者数 主な疾患：発達性協調運動障害、学習障害、機能性構音障害、知的障害、言語発達遅滞、注意欠陥多動障害、自閉スペクトラム症、ダウン症、超低出生体重児、経口摂取困難など	172名	124名	169名	

【スタッフ紹介】

責任者

部長／中村達彦 技師長／吾郷秀吉

人員構成

医師……………1名
理学療法士……………25名
作業療法士……………19名
言語聴覚士……………9名



技師長
吾郷秀吉



主任
足立直也

認定資格（研修修了含む）

日本理学療法士協会 認定理学療法士（運動器）……………1名
3学会合同 呼吸療法認定士……………4名
心臓リハビリテーション指導士……………1名
がんのリハビリテーション研修会修了……………11名
骨粗鬆症マネージャー……………1名
フットケアトレーナー……………1名
ケアマネージャー資格取得者……………1名
福祉住環境コーディネーター2級……………10名
日本ボース研究会 成人片麻痺認定基礎講習会修了……………3名
日本ボース研究会 成人片麻痺認定上級講習会修了……………1名
日本理学療法士協会 指定管理者（初級）……………3名
日本理学療法士協会 指定管理者（上級）……………2名

日本理学療法士協会
地域包括ケア推進リーダー……………4名
日本理学療法士協会介護予防推進リーダー……………5名
日本理学療法士協会指定
職業性腰痛予防講師……………1名
鳥取県糖尿病療養指導士……………2名
鳥根県糖尿病療養指導士……………1名
重症児の在宅支援を担う医師等養成
インテシブコース修了……………2名
転倒予防指導士……………1名
リンパ浮腫療法士……………1名
認知症ケア専門士……………1名
LSVT LOUD 認定講習会修了……………2名
認定訪問療法士……………1名
発達コミュニケーション中級指導者……………3名
日本理学療法士協会
フレイル対策推進マネージャー……………1名
呼吸ケア指導士（初級）……………1名

所属学会

日本理学療法士協会……………24名
日本作業療法士協会……………8名
日本言語聴覚士協会……………3名
山陰言語聴覚士協会……………3名
日本徒手理学療法学会……………1名
日本運動器徒手理学療法学会……………1名
日本心臓リハビリテーション学会……………4名
日本循環器学会……………1名
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会……………1名
日本リンパ浮腫治療学会……………1名
日本骨粗鬆症学会……………1名

日本摂食嚥下リハビリテーション学会……………2名
日本口腔ケア学会……………1名
日本認知症予防学会……………1名
日本離床学会……………1名
日本転倒予防学会……………1名
認知症ケア学会……………1名
日本DCD学会……………1名
日本訪問リハビリテーション協会……………6名
一般社団法人 日本ボース研究会 3名
日本シーティングコンサルタント協会……………2名
NPO オートティックスソサエティー……………1名
鳥取県アスレチックトレーナー協議会……………1名
鳥取県糖尿病療養指導士会……………1名
鳥根県糖尿病療養指導士会……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみならず

外来リハビリテーションスタッフ数を増やし注力しております。リハビリテーションの必要な方がおられましたら、成人、小児、スポーツ疾患問わず、ご紹介をお願いいたします。

臨床工学室

【概要】

臨床工学室は、臨床工学技士法に基づく国家資格を持つ6名の医療技術者で構成されており、生命維持監視装置の操作、院内にある医療機器の保守管理を行っております。博愛病院の理念のもと、博愛の心で医療を行い地域に貢献できるよう日々の業務に臨んでいます。臨床工学技士の業務として、透析業務、呼吸管理業務、医療機器の保守点検、医療機器安全使用に関する研修活動、医療ガス配管設備点検などがあります。患者さんが安全に治療を受けることができるよう、医師、看護師をはじめ、その他医療スタッフと共に活動しています。

目標 (BSC重点施策)

令和4年度

1. 透析患者の QOL 改善
2. 医療機器の安全使用活動
3. 透析患者の信頼確保
4. 感染予防

令和5年度

1. 適切な機器管理
2. シェントカルテの作成
3. モニタのアラーム対応時間の短縮
4. システム障害対策

【実績】

項目		令和2年度	令和3年度	令和4年度
血液浄化	CHDF	26	0	12
	CHD	37	0	0
	ET吸着	1	0	0
	血漿交換	0	0	3
	CART	1	0	2
呼吸管理	IPPV	19	22	17
	NPPV	32	46	33
機器管理	ME機器返却時点検	1,633	1,727	1,495
	定期点検	1,969	2,151	2,011
	修理業務(有償修理のみ)	108	130	129
内視鏡室	立ち合い業務	0	2	4
その他	下肢血流検査	0	0	73
医療ガス	医療ガス配管設備点検	1,920	2,036	1,976
教育	教育	12	12	12

【スタッフ紹介】

責任者

室長／田中保則 主任／田儀匡史

人員構成

医師……………1名
臨床工学技士……………6名



認定資格 (研修修了含む)

透析技術認定士……………1名
3学会合同呼吸療法認定士……………2名
MDIC (医療機器情報コミュニケーター) ……1名
第2種ME技術者……………5名
医療ガス保安管理技術者講習会
(3日コース)修了……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

地域の医療機関や患者さんに対し、安心して博愛病院を選んでいただけるよう、医療機器の保守管理と生命維持監視装置の安全使用に力を入れて取り組んでまいります。

栄養管理室

【概要】

栄養管理室は、患者さんと向き合った臨床栄養管理の実践と、診療を支援することを目指しています。食事は治療の一環として重要な役割を担います。「安全でおいしく、治療効果を高める食事」を提供できるように努めています。当院では全入院患者さんの栄養スクリーニング・アセスメントをし、栄養ケアプランの作成を行い、定期的にスクリーニングをすることで継続的な栄養管理を実施しています。また、医師の指示に基づき、それぞれの病態に応じた栄養指導（入院・外来・在宅）を行っています。栄養サポートチーム（NST）、糖尿病チーム等の一員としてチーム医療に参加し、管理栄養士の立場から患者さんの個々の栄養状態に応じた提案を行っています。

目標 (BSC重点施策)

令和4年度

1. 栄養指導件数の維持・増加
2. ワーク・ライフバランスを考慮した業務改善
3. 安全でおいしい食事の提供

令和5年度

1. 栄養指導件数の維持・増加
2. 職場環境の改善
3. 安全で満足度の高い食事の提供

【実績】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
院外紹介栄養指導数（件）	121	93	70

【スタッフ紹介】

責任者

室長／中村真由美

人員構成

看護師…………… 1名
 管理栄養士…………… 3名

認定資格

日本糖尿病療養指導士…………… 2名
 NST専門療法士実地修練研修修了…………… 3名

所属学会

日本栄養士会…………… 3名
 日本病態栄養学会…………… 3名
 日本摂食嚥下リハビリテーション学会…………… 2名
 日本臨床栄養代謝学会…………… 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当院では、管理栄養士が在籍していない医療機関からの紹介患者さんの栄養指導も行っております。食生活に関する様々な相談について継続したサポートをさせていただきます。

在宅医療センター

当センターは、1997年の訪問看護室立ち上げに始まり、2017年在宅医療センター竣工を経て、現在、訪問診療部、訪問看護ステーション博愛、訪問リハビリテーション博愛、サービスプラン博愛、ヘルパーステーション博愛の5部門を擁す県内有数の在宅診療部へと成長してきました。

住み慣れた自宅で、出来るだけ自分らしく療養生活を送れるようサポートすることが我々の使命と役割です。博愛病院はもとより、在宅医療に関わる当地域のクリニック、事業所の皆さんと協力し、住みやすい、療養しやすい地域を作っていきたいと考えています。



訪問診療部

【概要】

自宅から出かけることが難しくなった患者さんに対し、博愛病院の医師が訪問診療を行います。①もともと通院していた担当医師が訪問する、②その方が持つ疾患の専門医師が訪問する、③当院の訪問看護と密な連携が取れる、④緊急時には博愛病院と連携して診療に当たる、などが、当院の訪問診療部の強みになると考えています。博愛病院は2018年1月より機能強化型在宅療養支援病院となっております。

対応疾患

- ◆慢性呼吸器疾患
- ◆脳血管疾患後遺症
- ◆進行期悪性疾患
- ◆慢性心疾患
- ◆神経難病
- ◆その他各種疾患による廃用症候群など

【実績】

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
訪問診療延回数(件)	460	471	329
往診延回数(件)	74	65	43
合計(件)	534	536	372
在宅死(人)	34	23	19
病院死(人)	14	8	6



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

地域包括診療、在宅診療の重要性が増す中、ケアミックス型である当院の役割、活躍の場も増えつつあると感じております。より良い地域診療が出来るよう、地域の皆さんと協力していききたいと考えております。

【スタッフ紹介】

責任者

- センター長／安井建一……………脳神経内科(P20)参照
- 呼吸器内科部長／西井静香……………呼吸器内科(P17)参照
- 呼吸器内科部長／重白啓司……………呼吸器内科(P17)参照
- 外科部長／角賢一……………外科(消化器外科)(P24)参照

訪問看護ステーション博愛

【概要】

24時間、365日いつでもご自宅に伺い、適切な判断に基づいたケアとアドバイスをし療養生活を送れるよう支援しています。病状の観察・ケアだけでなくターミナルケア、在宅での看取りにも力を入れて支援しています。また看護学生の訪問実習も多く受け入れております。新卒看護師の受け入れや訪問看護師ラダーを取り入れ人材育成にも取り組んでいます。

目標 (BSC重点施策)

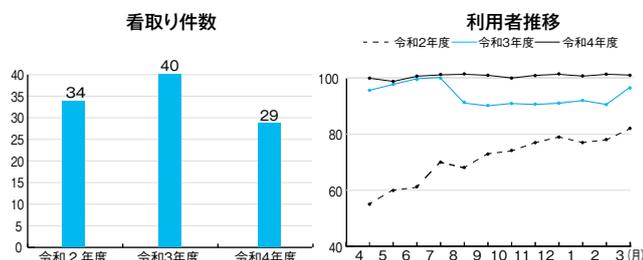
令和4年度

1. 症状変化時、在宅で出来る検査を行い早期対処することで、利用者・家族が安心して自宅療養出来る。
2. 訪問看護師教育のためのラダープログラムを作成し、個々のラダー評価が出来る。

令和5年度

1. 「褥瘡予防」「悪化させない」為の褥瘡ケアを実施し、療養者や家族が安心して療養生活を送れるよう支援する。
2. 病院の方針を理解し、訪問看護の現場に則した実効性のあるBCPを作成する。
3. 在宅医療センター全員で取り組む電気使用量の削減。

【実績】



【スタッフ紹介】

責任者
看護師長 / 渡部明代

人員構成
看護師 9名
クラーク 1名

認定資格
認定看護管理者教育課程
(ファーストレベル) 修了 4名
呼吸療法認定士 1名
介護支援専門員 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

小児から高齢者まで対応できるステーションです。地域に信頼され選ばれるステーションを目指しています。機能強化型1を算定しています。

訪問リハビリテーション博愛

【概要】

在宅で療養されている方に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が訪問してリハビリテーションを行います。主治医からの指示を受け、ケアマネージャー等と連携を取り、ご家庭で安心して生活できるように支援します。

目標 (BSC重点施策)

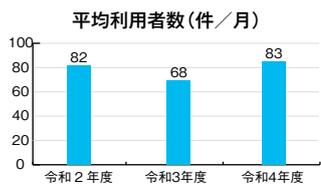
令和4年度

1. 収益の向上
2. 訪問リハビリ運営体制の改善
3. スタッフ育成システムの実践
4. 訪問リハにできる SDGsの取り組みの検討

令和5年度

1. 収益の向上
2. 働きやすい事業所運営の見直し
3. 訪問時のリスク管理能力の向上
4. 訪問リハにできる SDGsの取り組みを推進

【実績】



【スタッフ紹介】

責任者
主任 / 増原世子

人員構成
理学療法士 4名
作業療法士 3名
言語聴覚士 1名
事務 1名

認定資格
3学会合同 呼吸療法認定士 2名
日本理学療法士協会
運動器認定療法士 1名
日本理学療法士協会
地域ケア会議推進リーダー 1名

日本理学療法士協会
介護予防推進リーダー 2名
福祉住環境コーディネーター2級
..... 1名
重症児の在宅支援を担う医師等
養成インテンシブコース修了 1名

所属学会
日本訪問リハビリテーション協会
..... 7名
日本理学療法士協会 4名
日本作業療法士協会 3名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

訪問リハビリテーション博愛では、呼吸療法認定士の資格を持ったスタッフがおり専門的な呼吸リハビリも行っています。また、脳梗塞、神経難病、循環器疾患、整形疾患等、様々な疾患の方の在宅生活に必要なリハビリを行います。

連携病院 診療情報提供書を頂いている病院、
医療 27箇所
連携事業所 居宅支援事業所 20箇所
地域包括支援センター 6箇所

サービスプラン博愛

【概要】

博愛病院在宅医療センターに介護相談窓口を設置しており、24時間いつでも相談をお受けする体制を整えています。介護支援専門員6名が、医療機関や介護・福祉サービス事業所との連携を図り、在宅生活を安心して送ることができるように支援します。

目標 (BSC重点施策)

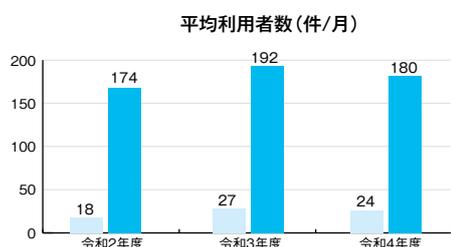
令和4年度

1. 介護報酬収益の増加により安定した事業所運営を行う
2. 安全で質の高いケアマネジメントを提供し利用者のQOLの向上、在宅生活の継続に貢献する
3. 医療・介護・福祉のシームレスな連携、社会資源の活用により地域の方へ健康と福祉を提供する

令和5年度

1. 安定した事業所運営
2. ケアマネジメントの質の向上
3. SDGs活動推進による地域への情報発信

【実績】



【スタッフ紹介】

責任者

係長／伊澤妙子

人員構成

主任介護支援専門員……………4名

介護支援専門員……………2名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

在宅生活を希望される利用者やご家族が安心して暮らせるように医療機関や介護サービス事業所と連携し、利用者やご家族の思いに寄り添いながら支援を行います。社会資源を有効に活用し、急なご要望にもスピーディーに対応いたします。

ヘルパーステーション博愛

【概要】

介護保険の居宅サービスである訪問介護サービスを提供しております。ご自宅で生活しておられる介護が必要な方がより快適に生活が送れるよう多職種と連携しながら支援させていただきます。

目標 (BSC重点施策)

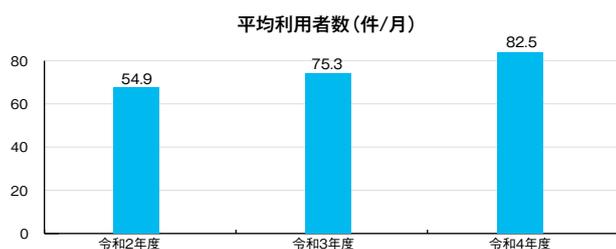
令和4年度

1. 介護報酬の増加
2. 職場環境の改善
3. SDGs活動の推進

令和5年度

1. 介護報酬の増加
2. 職場環境の改善
3. SDGs活動の推進

【実績】



【スタッフ紹介】

責任者

主任／老松良美

人員構成

介護福祉士……………5名

介護員……………2名

(介護職員初任者研修修了)



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

介護が必要な方がご自宅で生活される中で、ご本人やご家族の負担が軽減され安心して笑顔で過ごせるよう多職種とも連携を図りながら支援させていただきます。

医療安全対策室

【概要】

平成23年に医療安全の推進を目的に医療安全対策室が設置されました。医療安全対策室は、医療安全管理委員会のもと、医療安全に関する知識・認識を高め、院内における医療の安全性の向上を図り、患者及び職員の安全を確保することを目的に職員から報告されるインシデントレポートの分析・改善策に向けたカンファレンスや院内ラウンドなどを週1回行っています。

目標 (BSC重点施策)

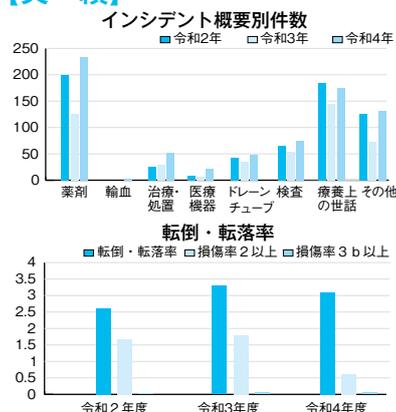
令和4年度

1. 患者誤認防止の軽減
2. 安全安心な医療提供
3. 地域連携強化

令和5年度

1. 医療の質を確保し患者・家族へ安全安心な医療を提供する
2. 事例報告を情報共有し改善策を周知し再発防止へ繋げる
3. 確認行動の改善を図り誤認事例をなくす

【実績】



【スタッフ紹介】

責任者

室長 / 近藤亮

人員構成

- 医療安全管理室長 (医師) …… 1名
- 医療安全管理者 (専従) (看護師) …… 1名
- 診療放射線部室長 (放射線技師) …… 1名
- 医事課長 (医療事務) …… 1名
- 感染管理認定看護師 …… 1名
- 医薬品管理 (薬剤師) …… 1名
- 医療機器管理 (臨床工学士) …… 1名



看護師長 (GRM)
松岡洋子



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

今年度も“患者誤認ゼロ”を目指し医療安全対策委員の協力を得て、安全管理の徹底に努めてまいります。今後ともよろしく願いいたします。

感染対策室

【概要】

感染対策室は、病院内の感染対策の窓口です。科学的根拠にもとづいた感染対策を実践し、患者さんおよび家族、職員に対し安全な医療、職場環境を提供するため組織横断的に活動しています。

病院内には、感染対策チーム (Infection Control Team: ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team: AST) があります。メンバーは、医師、看護師、感染制御認定薬剤師、臨床検査技師など多職種で構成されています。

目標 (BSC重点施策)

令和4年度

1. アウトブレイク制御
2. 血流感染対策
3. 薬剤耐性菌への取り組み
4. 地域連携の推進

令和5年度

1. COVID-19 に備えたアウトブレイク制御
2. 抗菌薬適正使用
3. 医療関連感染制御
4. 外部評価への準備

【スタッフ紹介】

責任者

室長 / 西井静香

感染管理認定看護師 (CNIC) / 田原由紀子

人員構成

- インフェクションコントロールドクター (ICD) …… 1名
- 感染管理認定看護師 …… 1名

所属学会

- 日本環境感染学会 …… 1名
- 日本感染管理ネットワーク学会 …… 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

定期的に地域医療機関とカンファレンスを開催し、近隣病院とともに感染制御に取り組んでいます。抗菌薬適正使用に関する相談等もお受けしていますので、お気軽にご相談下さい。

患者支援部

【概要】

当院では地域の医療機関・他施設・各サービス事業所等と連携を円滑に推進することで、患者さんがより良い医療を受けていただき、安心した生活が送れるように患者支援部を設置し、連携機関の窓口として対応しています。

入退院支援室

急性期病床、地域包括ケア病床、療養病床、回復期リハビリテーション病床と多機能な病床を有するケアミックス病院です。病床の一元管理を行い、適正な病床管理及び院内外のパイプ役として入退院調整に取り組んでいます。また近隣病院との連携を行い、ケアミックスを発揮して地域の方々が住み慣れた場所で療養できるよう、各病棟に配置した入退院支援看護師とともに退院調整が円滑にいくよう支援しています。

医療相談室

医療ソーシャルワーカー（MSW）が患者さんの療養・生活環境を整えていくことで住み慣れた地域（自宅）で安心して生活できるように各医療機関・地域の関連機関・行政・ケアマネージャー等と連携し調整（退院等）に努めています。また様々な社会福祉制度についてのご相談に応じており、医療・福祉・介護のコーディネートを行っています。

地域連携室

医療機関からの紹介患者さんの診療や検査等の予約の調整、当院からかかりつけ医療機関等への逆紹介など、紹介元及び紹介先の医療機関との連携の窓口として、患者さんが円滑に診療をお受けいただけるように取り組んでいます。また医療機関からの様々なお問い合わせにも対応しています。

患者相談室

患者さん・ご家族等からのご心配やお困り事等の相談窓口となっています。相談内容に応じて、各専門職員への橋渡しを行っています。

【実績】

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
紹介患者数(件)	4,174	4,051	3,804	
(内、予約数)	1,676	1,714	1,608	
患者相談窓口対応数(件)	154	132	103	
転院受入 状況(件)	回復期病棟	40	32	32
	療養病床	19	11	10
	地域包括ケア病棟	19	4	10
	一般病棟	18	21	30

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
対応患者数(MSW)	1,273 <small>(院内カンファ件数)</small>	984 <small>(院内・多職種カンファ件数)</small>	1,025 <small>(院内・多職種カンファ件数含む)</small>
合同カンファレンス数(件)	671	667	559
家屋訪問数(件)	247	234	144

【スタッフ紹介】

責任者

部長／松本栄二
入退院支援室室長／竹仲美奈子

人員構成

医師……………1名
看護師……………2名
医療ソーシャルワーカー……………3名
事務員……………2名
監理監……………1名

認定資格(研修修了含む)

医療対話推進者認定……………2名
社会福祉士……………3名
精神保健福祉士……………1名
医療安全管理者養成研修修了……………2名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

医療・福祉関連施設との連携体制を構築し、切れ目の無い医療・介護・福祉サービスの支援、調整に取り組んでいます。お気軽にご依頼・ご相談下さい。

事務部

【概要】

私たち事務部は、総務課、用度施設管理課、経理調達課、医事課の4課で構成された組織です。少人数ではありますが、各構成員は院内で働く多種多様な職員が業務に専念できるように、各々の専門性を発揮し日々業務に邁進しています。

頼られる組織、相談しやすい職員であることを心掛け、働きやすい職場環境作りを目指すことで病院に貢献できると考えています。

【スタッフ紹介】

責任者

事務部長(代行)／浅中雅彦

人員構成

総務課……………6名
 用度施設管理課……………7名
 経理調達課……………3名
 医事課……………19名
 (兼務、パート職員、派遣職員含む)



医師支援室

【概要】

医師支援室は医師の業務負担軽減を目的に設置されました。医師が行う業務のうち事務的な業務(書類作成補助、外来診療支援、データ入力など)を主に行っています。医師の業務負担を軽減することにより、医師が患者さんと向き合う時間が増え、「患者満足度の向上」や「医療の質の向上」に貢献できることを目指しています。

【スタッフ紹介】

責任者

室長／足立晶子

人員構成

室長 医師(兼務)……………1名
 室長補佐(兼務)……………1名
 医師事務作業補助者……………4名

認定資格

医師事務作業補助技能認定者……………2名



情報システム管理室

【概要】

電子カルテをはじめ、イントラネット、各種システムやIT機器の導入、管理(メンテナンス・故障時対応・操作説明など)を行っています。

最近では、職員内線通話用 iPhone や LINE WORKS、AI 読影システムを新たに導入し、現在はセキュリティ対策の強化やナースコールシステムの更新に着手しています。

全員が本業との兼務の中、毎週1回はミーティングを行い、院内の問題点などについて情報共有、解決策の検討を行い、病院全体の業務改善に励んでいます。

【スタッフ紹介】

責任者

室長／中村希代志

人員構成

医師……………1名
 診療放射線技師……………1名
 臨床検査技師……………1名
 薬剤師……………1名
 理学療法士……………1名
 臨床工学技士……………1名

看護師……………1名
 医事課職員……………1名
 用度施設管理課職員……………1名

認定資格

医療情報技師……………2名
 医用画像情報専門技師……………1名



感染対策チーム (ICT)

【概要】

ICT はインфекションコントロールチーム (Infection Control Team) の略称で、科学的根拠に基づいて、院内で起こるさまざまな感染症から患者・家族、職員の安全を守るために活動しています。

役割

ICD (感染制御医師) を中心に、感染管理認定看護師、感染制御認定薬剤師、臨床検査技師の多職種により構成されており、組織横断的に病院全体の感染対策に取り組んでいます。

【活動内容】

1. 手指衛生遵守率向上への活動
2. 院内ラウンドによる感染対策遵守状況の確認
3. 感染対策の実施状況の確認や感染性廃棄物の取り扱いに関するアドバイス
4. 耐性菌 (MRSA、薬剤耐性菌など) サーベイランス、血流感染サーベイランス、手術部位感染サーベイランス
5. 抗菌薬の適正使用に関する介入と治療薬物モニタリング
6. 医療関連感染発生状況の把握とアウトブレイクへの緊急対応
7. 感染対策に関する院内研修会の実施
8. 院内感染対策マニュアルの作成と改訂
9. 地域医療施設との連携
10. 新興感染症発生時の準備と対応

【スタッフ紹介】

人員構成

ICD (感染制御医師) …… 2名
 医師 …… 2名
 感染管理認定看護師 …… 1名
 看護師 …… 2名
 感染制御認定薬剤師 …… 1名
 臨床検査技師 …… 1名

栄養サポートチーム

【概要】

専門知識や技術を持った多職種 (医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、言語聴覚士、理学療法士、検査技師など) が、各々の専門性を活かしながら、職種間の垣根を越えたチームで入院患者の栄養管理にあたります。

入院当初から、個々の患者の体格や病態に合わせた栄養療法を実施することで、栄養状態を改善し、疾患の治療効果を上げたり、合併症の予防やQOL (生活の質) を向上させるのが目的です。これにより在院日数を短縮し、医療費を削減することも期待されます。

当院のNSTは、一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会 NST稼働認定施設として承認されています。

役割

1. 栄養不良患者の早期発見
2. 個々の患者の適切な栄養管理状況の確認
3. 最もふさわしい栄養管理法を指導・提言
4. 栄養状態の改善による治癒促進
5. 栄養管理上の相談応需
6. 合併症の予防や、医療費の削減
7. 早期退院や社会復帰を助ける

【活動内容】

回診：週 1 回 (火曜日)
 会議：月 1 回 (第 4 火曜日)
 院内研修会：年 1 ~ 2 回

【スタッフ紹介】

人員構成

医師 …… 4名
 薬剤師 …… 1名
 臨床検査技師 …… 1名
 看護師 …… 6名
 管理栄養士 …… 1名
 言語聴覚士 …… 2名

認定資格

TNT研修会受講修了 (内科医師) …… 2名
 NST専門療法士 …… 2名
 NST専門療法士実地修練研修修了 …… 2名

緩和ケアチーム

【概要】

当チームは、認定看護師、薬剤師を中心にがん患者だけでなく非がん患者も含めた終末期の疼痛、呼吸苦、消化器症状などの臨床症状や精神症状の苦痛緩和への助言や提案を行っています。その他、患者さん・ご家族が自分らしい生活を送れるように自宅などへの退院サポートを支援しています。また、がんリハビリテーションにも力を入れ、患者さんのADLの維持や向上を目指しています。つねに、多職種で関与することを意識して様々な視点から患者さんをサポートするように努めています。さらに、チームでは、緩和ケアに関する知識向上やより薬物療法を理解してもらえるようなアプリを構築し、病棟スタッフなどに利用してもらうことで「誰でも緩和ケア」に触れる機会を作れるようにしています。

役割

1. 身体的苦痛の緩和
2. 精神的苦痛の緩和
3. 社会的苦痛の緩和

【活動内容】

チームカンファレンス：緊急時適宜
 定期カンファレンス：月 1 回
 がんリハビリテーションとの連携

【スタッフ紹介】

人員構成

外科医師 …… 1名
 薬剤師 …… 2名
 緩和ケア認定看護師 …… 1名
 看護師 …… 6名
 理学療法士 …… 1名
 作業療法士 …… 1名
 公認心理師 …… 1名

褥瘡対策チーム (スキンケアチーム)

【概要】

医師を始め多職種のメンバーで月に1回褥瘡対策委員会を開催し、新規褥瘡発生の低減、褥瘡改善に向けた検討を行っています。また、週1回褥瘡診療計画書をもとに褥瘡保有患者を抽出し、スキンケア委員が中心となり褥瘡の治療やケア・ポジショニングについてカンファレンスを行ったのち回診を行っています。褥瘡発生リスクの高い患者は、各病棟のリンクナースを中心に、使用マットの選択やポジショニングなどの予防策を実施しています。

院内の集合研修を年1回開催し、リンクナースは褥瘡コース研修への参加も推奨し知識・技術の習得を目指しています。

役割

1. 全ての入院患者に対する褥瘡対策評価
2. 褥瘡発症リスクのある患者の治療計画
3. 褥瘡の治療やケア、ポジショニングへの助言
4. 褥瘡発生状況の把握・分析
5. 褥瘡予防対策用具の検討
6. ケアに関する知識・技術の習得と啓蒙

【活動内容】

ラウンド：週 1 回 (水曜日)
 会議：月 1 回 (第 2 月曜日)

【スタッフ紹介】

人員構成

整形外科医師 …… 1名
 薬剤師 …… 1名
 理学療法士 …… 2名
 管理栄養士 …… 1名
 看護師 …… 9名

心不全チーム

【概要】

心不全チームとは、心大血管疾患の患者さんにおいて、多職種による総合的なチームケアを行います。入院時から回復の支援を図るとともに、退院後の在宅生活における再入院予防の指導管理まで行っています。週1回の回診やカンファレンスを行い、チームでの情報共有と相談を行うことで、よりよいケアが提供できるように活動しています。

役割

1. 安全で有効な運動の設定を検討していきます
2. 再発予防に向けて、生活習慣の指導、栄養指導、服薬指導を検討していきます
3. 院内研修を行い、知識の習得を図ります

【活動内容】

回診：週1回（水曜日）
カンファレンス：月1回
院内研修会：年1～2回

【スタッフ紹介】

人員構成

循環器内科医師 …………… 1名
薬剤師 …………… 2名
看護師 …………… 7名
管理栄養士 …………… 1名
理学療法士 …………… 4名
作業療法士 …………… 1名

がんのリハビリテーションチーム

【概要】

当院ではがん治療の早期から積極的に介入し、緩和期では個々の症状に適したリハビリテーションを実施しています。がん患者さんは身体的、精神的症状など様々な苦痛を伴いやすく、またご家族の不安も多く聞かれます。がんリハチームでは多職種が意見を出し合い、患者さんの早期退院やより質の高い生活が送れるよう、チーム医療を実施しています。

役割

1. 苦痛、不安の早期発見
2. 苦痛、不安に対する改善策の提案
3. 早期退院や社会復帰を促す（患者さんに適したリハビリテーションの介入）
4. 新しい知識の取得（研修会参加、専門資格取得）
5. 多職種による患者さんの状態把握、情報共有

【活動内容】

カンファレンス：月1回（第3火曜日）

【スタッフ紹介】

人員構成

外科医師 …………… 3名
薬剤師 …………… 1名
看護師 …………… 8名
医療ソーシャルワーカー …………… 1名
理学療法士 …………… 5名
作業療法士 …………… 2名
言語聴覚士 …………… 3名

呼吸サポートチーム (RST)

【概要】

RSTとはRespiratory Support Teamの略称で呼吸サポートチームのことです。

RSTでは、呼吸器疾患が原因で入院された患者さんに対し、呼吸ケア・機材管理・ポジショニング・日常生活動作等について多職種で情報交換しより良いケアが提供できるように活動しています。

令和4年4月に日本呼吸ケア・リハビリテーション学会および日本呼吸療法医学会の呼吸ケアサポートチーム (RST) 施設に認定されました。

役割

1. 人工呼吸器装着患者様の人工呼吸器離脱の促進、人工呼吸器装着期間の短縮を図る
2. 呼吸ケアを必要とする患者さんの医療事故の予防を図る
3. 院内外での呼吸ケアの普及や啓蒙を図る
4. 呼吸ケアに必要な器材の導入・管理の標準化を図る
5. 医療の経済的な改善（コストの軽減）を図る
6. 在宅復帰にむけた動作指導・機材選定の提案

【活動内容】

回診：週1回（火曜日）
会議：月1回（第1火曜日）

【スタッフ紹介】

人員構成

呼吸器内科医師 …………… 1名
看護師 …………… 6名
臨床検査技師 …………… 1名
理学療法士 …………… 4名

整形外科チーム

【概要】

整形外科疾患を有する患者さんに対して、痛みの軽減や早期退院・社会復帰を目指していく必要があります。そのため、現状の課題やリハビリテーションの経過、今後の方向性などを医師、看護師、リハビリテーションスタッフが専門知識を生かし、様々な治療・退院支援を検討し提案する連携チームです。

役割

1. 術後管理の確認と指導・提言
2. リハビリテーションと病棟ADLの進行状況を医師と共有し、治療方針の立案
3. 退院に向けた方針の確認と検討
4. 早期退院や社会復帰を助ける

【活動内容】

回診：週2回（火曜日、金曜日）
整形ラウンド：術後管理の抜き打ちチェック（月1回）

【スタッフ紹介】

人員構成

医師 …………… 2名
看護師 …………… 2名
理学療法士 …………… 5名

糖尿病チーム

【概要】

増え続ける糖尿病を背景に、糖尿病に関する正しい知識の普及と啓発、糖尿病治療中の方の療養のサポートなどに関して、多職種のスタッフがそれぞれの専門知識を活かし協力しながら活動しています。

専門医、糖尿病療養指導士(看護師、臨床検査技師、薬剤師)、糖尿病看護認定看護師、管理栄養士、鳥取県糖尿病療養指導士(理学療法士)が専門的知識を活かして連携し、糖尿病患者の日常的な療養生活のサポートを行っています。また、月に1回糖尿病教室を開催し、糖尿病教育入院及び外来患者へのケア向上に努めています。

役割

年1回患者さんとスタッフのふれあいの場である博愛ウォーキングを開催しています。また、患者さん向けの情報発信として「かえで通信」を発行しています。
 (専門医)治療方針を計画し、治療を遂行する為の援助とともに、日常生活の習慣を変えるための動機付けなどを行います。
 (看護師)入院・外来患者に対し、インスリン注射指導、生活全般に関する療養指導などを行います。
 (管理栄養士)個々の患者に合わせた栄養指導を行います。
 (理学療法士)耐糖能向上のための運動療法を指導し、身体状況に合わせた生活指導を行います。
 (薬剤師)薬学的観点から患者を援助するだけでなく、生活全般について適切な情報を提供します。
 (臨床検査技師)糖尿病教室では検査値の見方を説明し、血糖測定器の使用方法を解説し、トラブルにも対応しています。

【活動内容】

糖尿病教室：1回/月(7日間)
 かえで通信発行：年6回
 博愛ウォーキング：年1回
 院内研修会：年1回

【スタッフ紹介】

人員構成

医師 …………… 2名
 看護師 …………… 4名
 薬剤師 …………… 1名
 臨床検査技師 …………… 3名
 管理栄養士 …………… 1名
 理学療法士 …………… 2名
 作業療法士 …………… 1名

認定資格

日本糖尿病療養指導士 …… 5名
 鳥取県糖尿病療養指導士 …… 3名
 鳥根県糖尿病療養指導士 …… 1名
 糖尿病看護認定看護師 …… 1名

抗菌薬適正使用支援チーム(AST)

【概要】

抗菌薬の不適切な使用や長期間の投与が、薬剤耐性菌を発生あるいは蔓延させる原因となります。抗菌薬適正使用支援チーム(Antimicrobial Stewardship Team:AST)は、医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師で構成され、抗菌薬の使用を適切に管理・支援するためのチームです。ASTでは、日常的に主治医から抗菌薬選択や投与量設計などの相談を応需し、週1回チームミーティングで症例検討を行い、継続的な介入支援を行っています。個々の患者に対して主治医が抗菌薬を使用する際、最大限の治療効果を導くことと同時に、副作用や耐性菌の出現などの有害事象を出来るだけ最小限にとどめ、いち早く感染症治療が完了出来るように、診療科の枠を超えた支援を行っています。

役割

1. 特定抗菌薬使用症例や血液培養陽性症例などに対して感染早期からモニタリングを実施する。
2. 感染早期モニタリングで対象患者を把握後、ASTミーティングを実施し、以下の項目について治療方針への活用状況を継続的に評価し、診療録に記載するなど、必要に応じて主治医にフィードバックする。
 - ① 抗菌薬の選択、PK-PDに基づいた用法・用量の適切性
 - ② 適切な微生物検査・血液検査・画像検査の実施状況
 - ③ 治療薬物モニタリングの実施
3. 適切な検体採取と培養検査の提出やアンチバイオグラムの作成など、微生物検査・臨床検査が適正に利用可能な体制を整備する。
4. 抗菌薬使用状況や血液培養複数セット提出率などのプロセス指標及び耐性菌発生率や抗菌薬使用量などのアウトカム指標を定期的に評価する。
5. 定期的にAST活動状況とプロセス指標およびアウトカム指標について感染対策委員会に報告する。
6. 抗菌薬適正使用を推進するための研修会を開催し、抗菌薬マニュアルの作成や改訂を行う。
7. 採用されている抗菌薬の種類、用量などについて定期的に見直しを行う。
8. 他施設から抗菌薬適正使用の推進に関する相談対応を行う。

【活動内容】

ミーティング(症例検討)：週1回(水曜日)
 A S T 研 修：年2回
 A S T 活 動 報 告：月1回
 感染症診療相談業務：随時

【スタッフ紹介】

人員構成

ICD(感染制御医師) …………… 1名
 感染制御認定薬剤師 …………… 1名
 薬剤師 …………… 1名
 感染管理認定看護師 …………… 1名
 臨床検査技師 …………… 1名

ふくよね博愛クリニック

【概要】

名称	ふくよね博愛クリニック 院長 櫃田豊
所在地	〒683-0802 鳥取県米子市東福原7丁目10-3 TEL(0859)21-0171 FAX(0859)34-5676
創立	令和4年4月1日
診療科	内科、総合診療内科、呼吸器内科、循環器内科、糖尿病内科、消化器内科、肝臓内科
事業内容	外来診療、訪問診療、健診・予防接種
職員数	7名

【令和4年度の主な出来事】

年 月	事 項
令和4年 4月 1日	クリニック開設
4月 3日	クリニック開院式
5月 31日	米子市健康診査医療機関登録
7月 9日	第24回日本医療マネジメント学会学術集会教育セミナーで院長講演(テーマ:医療分野のSDGs—当院の取り組みを通して—)
7月~8月	中海テレビ放送『健康プラザ』に院長出演(テーマ:「長引く咳」)
8月 16日	新型コロナウイルス感染症診療・検査医療機関登録
9月 7日	新型コロナウイルスワクチン接種開始
12月 31日	新型コロナウイルス感染症対策のための年末年始開業(12月31日~1月3日)
令和5年 2月 16日	中国四国厚生局および鳥取県による新規個別指導

目標(BSC重点施策)

令和5年度

1. 一般診療の充実
2. 在宅医療への貢献
3. 予防医療の推進

【実績】

		令和4年度
外来患者数	総合診療	1,236
	糖尿病	71
	消化器	37
	合計	1,344
訪問診療・往診件数	訪問診療	157
	往診	57
	合計	214
予防接種・健診件数	予防接種	279
	健診	77
	合計	356

【医師紹介】



院長 櫃田 豊(鳥取大学 昭和55年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会 (認定内科医・内科指導医・中国地方会評議員)
- ◆日本呼吸器学会 (専門医・指導医・中国四国地方会評議員)
- ◆日本プライマリ・ケア連合学会(認定医・指導医)
- ◆日本感染症学会(ICD制度協議会認定医)
- ◆山陰救急医学会(評議員)
- ◆日本癌学会
- ◆日本糖尿病学会
- ◆日本禁煙学会
- ◆日本医療マネジメント学会

【スタッフ紹介】

責任者

院長 / 櫃田豊

人員構成

医師……………4名
(うち非常勤3名)
看護師……………2名
事務員……………1名

認定資格

日本内科学会認定内科医……………3名
日本呼吸器学会専門医・指導医……………1名
日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医……………1名
日本感染症学会ICD制度協議会認定医……………1名
日本糖尿病学会専門医・研修指導医……………1名
日本消化器病学会専門医・指導医……………1名
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・上部消化管内視鏡スクリーニング認定医・大腸内視鏡スクリーニング認定医……………1名
日本肝臓学会専門医・指導医……………1名
日本消化器がん検診学会認定医……………1名

MESSAGE/地域医療機関のみならずへ

当クリニックは、博愛病院のサテライトクリニックであり、博愛病院の外来機能を気軽に利用していただけます。すなわち、博愛病院の医師による専門外来(循環器、糖尿病、消化器・肝臓)を設置しています。また、簡単な検体検査、単純X線検査、エコーなどはクリニックで行いますが、CT、MRI、内視鏡検査などが必要な場合には、博愛病院での迅速な検査が可能です。さらに、在宅医療につきましても、博愛病院の在宅医療センターと連携して往診や入院対応を行います。私どもは、「博愛の心で、すべての患者さんの健康増進と健康管理に寄与し、地域住民が安心して暮らせる社会づくりに貢献する」との理念に従い、努力を重ねるつもりです。どうぞ、よろしくお願いいたします。

博愛こども発達・在宅支援クリニック



【概要】

名 称	博愛こども発達・在宅支援クリニック 院長 玉崎章子
所在地	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1880 TEL(0859)29-8010 FAX(0859)29-8020
創 立	平成31年4月
病床数	5床
診療科	脳神経小児科、小児科
事業内容	外来診療、訪問診療、訪問リハビリ、健診・予防接種 障害福祉サービス事業(重度障がい児者医療型短期入所) 障害児通所支援事業(児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業) 地域子ども・子育て支援事業(病児・病後児保育事業:病児保育かるがも) 医療的ケア児及びその家族に対する支援事業(医療的ケア児等支援センター、小児慢性一時預かり事業)
職員数	17名

【令和4年度の主な出来事】

年 月	事 項
令和4年 6月 22日	鳥取県医療的ケア児等支援センター開設
7月 22日	鳥取県医療的ケア児等支援センター説明会開催(Web開催)
7月 29日	鳥取県議会出前県議会にて「博愛こども発達・在宅支援クリニックの取組について」説明
9月 22日	救命救急士を対象とした小児在宅医療研修会開催
12月 21日	はくあいぎっずクリスマスコンサート
12月 26日	JR米子駅様とのオンライン交流会
1月 17日	研修会「障害福祉サービス事業所におけるCOVID-19感染症流行下での事業持続計画(BCP)の実行」開催
1月 25日	JR米子駅様とのオンライン交流会
3月 18日	体験会&家族会「～視線入力体験会～親子で「できる」「わかる」「たのしい」を体験しよう!」開催
3月 30日	JR米子駅様との交流会(壁画作成)



目標 (BSC重点施策)

令和4年度

1. 業務内容の整理と業務効率の向上
2. 就労環境の整備と就労意欲の向上
3. 患者（利用者）から信頼される医療と福祉の提供

令和5年度

1. 医療的、社会的にハイニードな子どもと家族の支援
2. 自ら学ぶことのできる人材の育成
3. 患者（利用者）から信頼される医療と福祉の提供
4. 重度障がい者グループホーム体制整備支援

【実績】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
脳神経小児科外来受診者数	1,638	1,839	1,802
小児科外来受診者数	2,332	3,071	3,027
訪問診療・リハビリ実績	556	525	937
予防接種・乳幼児健診受診者数	1,289	1,054	1,318
児童発達支援事業利用者数	728	449	392
放課後等デイサービス事業利用者数	136	67	31
医療型短期入所利用者数	661	745	726
病児保育利用者数	470	697	373

【スタッフ紹介】

責任者

院長／玉崎章子
小児科部長／福永真紀

人員構成

医師……………2名
看護師……………6名
理学療法士……………2名
作業療法士……………1名
公認心理師(社会福祉士)……………1名
保育士……………2名
事務員……………2名

認定資格(研修修了含む)※医師以外

小児救急看護認定看護師……………1名
三学会合同呼吸療法認定士……………1名
児童発達支援管理責任者……………2名
医療的ケア児等コーディネーター研修修了……………4名
発達障害コミュニケーション初級指導者……………1名
ミュージックケア初級研修修了……………1名
日本ボース研究会成人片麻痺認定基礎講習会修了…1名
重症児の在宅支援を担う医師等養成研修修了……………1名

【医師紹介】



院長 玉崎 章子(鳥取大学 平成14年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本小児科学会認定 小児科専門医
- ◆日本小児神経学会認定 小児神経専門医
- ◆小児慢性特定疾病指定医
- ◆難病の患者に対する医療等に関する法律に基づく難病指定医



小児科部長 福永 真紀(川崎医科大学 平成2年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本小児科学会認定 小児科専門医
- ◆小児慢性特定疾病指定医
- ◆難病の患者に対する医療等に関する法律に基づく難病指定医

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

難病の子ども、医療的ケアが必要な子どもたちとその家族の地域支援を行うためのクリニックとして平成31年4月に開設し、今年で5年目を迎えました。平成31年10月に博愛病院より小児科と病児保育を引継ぎ、障がいや病気の有無に関わらず、どの子ども地域で成長し、親も子育てが楽しめるようクリニック一丸となって

取り組んでまいりました。近年は、発達障がいや不登校の子どもたちの受診数も増え、生きづらさを感じている子どもたちが多くいることを感じています。引き続き、地域の医療機関、行政、福祉サービス事業所と連携しながら、子どもたちの成長・発達を支援していけるクリニックを目指します。

介護老人保健施設やわらぎ



【概要】

名 称	介護老人保健施設やわらぎ 施設長 大村宏(内科医)
所在地	〒683-0801 鳥取県米子市新開4丁目11-13 TEL(0859)31-1000(代) FAX(0859)31-1003
創 立	平成6年5月30日
病床数	5床
定 員	入所(ショートステイ含む)77名・デイケア40名
居 室	個室6室・2人部屋6室・4人部屋13室・ユニット型個室10室
事業内容	介護保険サービス事業(介護老人保健施設:やわらぎ、通所リハビリテーション事業:デイケアやわらぎ、短期入所療養介護事業:ショートステイやわらぎ)
職員数	72人

【令和4年度の主な出来事】

年 月	事 項
令和4年 4月	おとなの学校導入、花見
5月	倫理および法令順守に関する研修会、認知症研修、足湯
6月	感染症の予防に関する研修会、防災訓練、食中毒防止についての研修会、魚釣り
7月	インシデント・アクシデント再発防止研修会、セタレク
8月	納涼祭
9月	全国老人保健施設大会参加、HPリニューアル
10月	敬老会、運動会、歯科検診
11月	作品展
12月	クリスマスパレード
1月	新年会、非常災害研修会
2月	救急時の対応に関する研修会、防災訓練、身体拘束廃止研修会、プライバシー保護(個人情報)に関する研修会、損害賠償責任についての研修、節分
3月	ひな祭りパレード、接遇研修会、活動報告会



目標 (BSC重点施策)

令和4年度

1. 経営の安定化(ケアの質の向上、質の向上につながる加算の算定)
2. 職員の育成と働きやすい職場環境作り努める
3. 利用者の尊厳を守り、安全に配慮した質の高いケア
4. 他施設との差別化を図り地域住民に選ばれる施設を目指す

令和5年度

1. 経営の安定化を図る
2. 安全で質の高いサービスの提供
3. 組織形成・職場環境の見直し
4. 地域住民や関連施設との連携強化

【実績】

介護老人保健やわらぎ

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用延べ人数	27,162	25,681	26,050
平均利用者数(人/月)	74.4	70.4	71.4
平均要介護度	3.1	3.2	3.3
新規入所者数	81	81	81
再入所者数	39	57	57

デイケアやわらぎ

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用延べ人数	7,699	8,010	6,197
稼働日数	295	296	282
平均利用者数(人/日)	26.1	27.1	22.0
平均要介護度	2.3	2.4	2.5
開始利用者数	36	35	36

【スタッフ紹介】

責任者

施設長・老人保健施設管理認定医／大村宏

人員構成

医師	1名
看護師	8名
准看護師	4名
理学療法士	3名
作業療法士	5名
管理栄養士	2名
介護福祉士	33名
介護員	6名
支援相談員	2名
事務員	5名
送迎員	1名

認定資格

介護支援専門員(ケアマネジャー)	8名
社会福祉士	1名
介護福祉士実習指導者	5名
認知症介護実践者研修修了	10名
認知症介護実践リーダー研修修了	2名
認知症ケア専門士	1名
喀痰吸引等研修指導看護師	6名
認定特定行為業務(喀痰吸引・経管栄養)従事者認定	11名
介護プロフェッショナルキャリア段位評価者(アセッサー)	4名
ユニットリーダー研修修了	4名
介護老人保健施設リスクマネジャー	2名
臨床実習指導者	1名
生活行為向上マネジメント研修修了	4名
福祉住環境コーディネーター	2名
第一種衛生管理者	2名

【医師紹介】



施設長 大村 宏(長崎大学 平成2年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本血液学会
- ◆日本癌学会
- ◆日本緩和医療学会
- ◆日本老年医学会(老人保健施設管理認定医)
- ◆老人保健施設管理医師総合診療研修会修了

- ◆全国老人保健施設協会認知症短期集中リハビリテーション研修修了
- ◆日本医師会認定産業医

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当施設では大きく3つのサービスをご提供させていただいています。

- ①「介護老人保健施設やわらぎ」では、ユニット型(個室)ケアも含め、在宅生活のための能力の維持、増強を通じて、在宅復帰・在宅生活の支援を目指しています。
- ②「ショートステイやわらぎ」では、短期間の施設入所で、ご本人の機能の維持、向上を目指すだけでなく、ご家族など、介護される皆さんの負担軽減も目標としています。

- ③「デイケアやわらぎ」では、通所サービスを提供させていただいており、リハビリ・レクリエーションなどで、1日をできるだけ楽しく過ごしていただく事に心掛けています。

さらに、博愛病院と連携しての健康管理、近年重視される様になった施設での看取りについても取り組みを進めています。今後も「老健やわらぎ」をどうかよろしくお願ひいたします。

令和5年度 部署別活動目標シート
(法人本部)

理念(ビジョン) こどもから高齢者までみんなが健康で住みやすい地域社会の実現に貢献します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	① 収益の増強	重点① 経営の改善	収益の増強 入院患者の流動化促進
	② 救急医療と福祉の充実	重点② 地域貢献	救急医療の充実 医療支援型グループホームの効率的運営
	③ 施設設備改修費確保	重点③ 患者第一	経年劣化した施設設備の更新
	④ 水道光熱費の削減	重点④ SDGs活動の推進	水道光熱費の削減
	⑤ 人材の確保	重点⑤ 人材育成	人材の確保 外国人介護福祉士の雇用
顧客の視点	① 情報発信・連携強化	重点① 経営の改善	情報発信・地域連携の強化 患者・家族の満足感
	② ニーズに合ったサービスの提供	重点② 地域貢献	開業医・救急隊の要請応需 医療支援型グループホームの運営
	③ 施設設備の整備	重点③ 患者第一	施設設備整備計画の年度整備
	④ SDGs活動の情報発信	重点④ SDGs活動の推進	SDGs活動の情報発信
	⑤ 働きがいのある職場づくり	重点⑤ 人材育成	働きがいのある職場づくり 外国人介護福祉士の雇用
業務プロセスの視点	① 情報共有と戦略プランの策定	重点① 経営の改善	情報共有と戦略プランの策定 病床機能の最適化
	② 医療介護福祉の連携強化	重点② 地域貢献	救急患者受け入れに関する連携強化 医療支援型グループホーム開設準備
	③ 施設設備整備計画	重点③ 患者第一	中期事業計画の検討・作成
	④ 省エネ・分別廃棄の徹底	重点④ SDGs活動の推進	省エネ・分別廃棄の徹底 太陽光発電の導入
	⑤ DX化推進による業務の効率化	重点⑤ 人材育成	DX化推進による業務の効率化 外国人介護福祉士の雇用
学習と成長の視点	① 社会情勢の把握	重点① 経営の改善	地域医療ニーズの把握と診療報酬改定の情報収集 入院患者のDPC分析
	② 地域ニーズ・将来動向の把握	重点② 地域貢献	地域の医療・介護ニーズの把握 医療支援型グループホーム運営の研修
	③ 施設設備状況の把握	重点③ 患者第一	施設設備の経年変化の状況調査
	④ 省エネ・分別廃棄勉強会の開催	重点④ SDGs活動の推進	省エネ・分別廃棄勉強会の開催
	⑤ 人事考課制度の確立	重点⑤ 人材育成	人事考課制度の確立 外国人介護福祉士の雇用

使命・任務・役割
(ミッション)
→重点施策

1. 博愛精神:博愛の心で顧客のニーズに寄り添います。
2. 地域貢献:医療・介護・福祉・保健の連携で地域の発展に貢献します。
3. 患者第一:顧客の求めに気持ちよく応え患者第一の医療を実践します。
4. 価値共創:地域と共に SDGs に取り組み新たな価値を創造します。
5. 人材育成:誇り高さ人材を育成し自己実現ができる組織を目指します。

重点施策

- ① 経営の改善
- ② 地域貢献
- ③ 患者第一
- ④ SDGs活動の推進
- ⑤ 人材育成

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
法人の医療収入額 医療収支比率 在宅復帰率	5,130百万円 100.5%以上 75%以上	各事業所の計画による目標収入額と利益率を確保できるよう支援する。 病院:適切な退院調整を行い、在宅復帰率75%維持できるよう指導する。
救急受入れ患者数 医療支援型グループホーム入居者数	300人/月 10月10人・3月20人	病院:断らない救急医療を実践するとともに、救急患者受け入れ体制を強化する。 対象障害者のニーズ把握と入所者選定を確実に行うとともに、経費を削減し、効率的な運用に努める。
経費資金計画作成	10月まで	医療・介護業務に支障がない様に計画的な年度計画を策定し、確実に効果的な改修を実施する。
水道・電気・ガス使用量の削減率 太陽光発電導入	前年比95% 令和6年度	省エネ・分別廃棄の徹底を行う事により水光熱費・廃棄物処理費の削減を目指す。 病院:太陽光発電導入の検討結果を踏まえて結論を出す。
離職率 外国人介護福祉士の確保	5%以下 5名/4年後	働きやすい職場作りで職員満足度を向上させ離職率の低下を目指す。 不足する介護福祉士に対応するため、外国人人材育成雇用プロジェクトの利用を検討する。
地域MSW・ケアマネへの満足度調査 ホームページの見直し・SNS情報発信 患者満足度調査	1回/年 2回/年 1回/年	地域MSW・ケアマネへの満足度調査を実施し、問題点を把握して連携強化を図る。 患者・利用者および地域の医療機関等が必要とする情報を分かりやすく発信する。
開業医・救急隊満足度調査 利用者と家族の満足度調査	1回/年 1回/年	地域に根差した病院・施設として、安全安心で質の高い医療・介護を提供する。 医療支援型グループホーム博愛の運営を開始し、軌道に乗せる。
設備整備更新案件の 優先順位策定	上期まで	年度計画に基づき、設備の整備及び更新を適切なタイミングで行う。
情報発信件数	4回/年	法人が実践している省エネ活動等のSDGs活動について広報誌等で内外に情報発信を行う。
超過勤務削減率 職員満足度 事業所内での受け入れ基盤作り	前年比90% 評価4以上 年度内	業務の効率化や働き方改革により超過勤務の削減を目指す。 職場環境の改善等、働きやすい職場作りを目指し職員満足度の向上を目指す。 方針が決定したら事業所内での基盤作りに取り掛かる。
中期経営計画の策定 病床機能の見直し	策定・実行 第1四半期中	ウィズコロナを見据えた戦略プランを策定する。 病院:一案として、急性期病床を削減し地域包括ケア病床を増床する計画の緻密なシミュレーションを行う。
時間外患者応需率 医療支援型グループホーム人材確保	90%以上 100%	病院、クリニック、介護施設、医療支援型グループホームが連携し、通院、通所、在宅など様々な場面で患者・利用者が安心して適切な医療・介護が受けられる体制を構築する。 引き続き医療支援型グループホームワーキングチームで検討を続ける。
中期計画作成	9月	長寿命化を含めた修繕や更新の計画を作成する。
省エネ・分別廃棄活動の啓蒙 太陽光発電の有効性について検討	2回/年 9月まで	省エネ、分別廃棄について具体的な啓蒙活動を実施する。 病院:専門家による太陽光発電の有効性について検討する。
勤怠管理システム導入 業者との協議	年度内 6月まで	継続的な業務改善に取り組み、業務の効率化を推進する。DX化を推進し、職員の負担軽減を図る。 業者との協議を開始する。
セミナー・研修会参加回数 DPC分析	2回/年 2回/年	令和6年診療報酬・介護報酬改定の情報を把握し、確実な算定につなげる。 病院:DPC分析等を用いて、適切な病床数を把握する。
救急医療勉強会開催件数 医療支援型グループホーム運営勉強会	6回/年 2回/年	地域の将来動向を見据え地域ニーズを把握する。 病院:救急患者へのファーストタッチが行えるよう救急医療についての勉強会を開催する。 医療支援型グループホームに関する情報を収集し、開設時の運用に有効に利用する。
施設設備の状況チェック	7月まで	施設の老朽化状況を把握しリスト化する。
省エネ勉強会開催件数 太陽光発電導入の検討	1回/年 上期まで	法人内で省エネ・分別廃棄について研修会を全職員対象に実施する。 病院:太陽光発電導入について情報収集する。
人事考課研修会開催件数 外国人介護福祉士について情報収集	1回/年 適時	適正な人事考課制度を構築するため、人事考課研修会を実施し、人材登用や人材育成につなげる。 外国人介護福祉士の確保に向けて業者を介して情報収集する。

令和5年度 部署別活動目標シート
(博愛病院)

理念(ビジョン) 私たちは、博愛の心で医療を提供し地域へ貢献します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	① 救急の受入増	重点① 経営の改善	救急患者の増加 外来・入院患者数の増加 収益の増加
	① 外来・入院患者数の増加	重点② 職場環境の改善	人件費率の縮減 離職率の低下
	② 人件費率の縮減	重点③ 医療の質と安全の向上	新規外来・入院患者数の増加 医療訴訟件数ゼロ
	② 離職率の低下	重点④ SDGs活動の推進	水光熱費・廃棄物処理費の削減
	③ 新規外来・入院患者の増加		
	③ 医療訴訟件数ゼロ		
	④ 水光熱費・廃棄物処理費の削減		
顧客の視点	① 開業医・救急隊の満足度の向上	重点① 経営の改善	開業医・救急隊満足度の向上 患者満足度の向上
	① 患者満足度の向上	重点② 職場環境の改善	超過勤務の削減 職員満足度の向上
	② 超過勤務の削減	重点③ 医療の質と安全の向上	委員会活動の活性化 心理的安全性の向上 患者満足度の向上
	② 職員満足度の向上	重点④ SDGs活動の推進	SDGs活動の情報発信
	③ 委員会活動の活性化		
	③ 心理的安全性の向上		
	③ 患者満足度の向上		
	④ SDGs活動の情報発信		
業務プロセスの視点	① 断らない救急医療の実践	重点① 経営の改善	断らない救急医療の実践 広報活動の強化
	① 広報活動の強化	重点② 職場環境の改善	業務の効率化・出退勤管理の導入 職場環境の改善・新人事考課の導入
	② 業務の効率化	重点③ 医療の質と安全の向上	チーム医療の推進 患者誤認防止の徹底
	② 出退勤管理の導入	重点④ SDGs活動の推進	省エネ・分別廃棄の徹底
	② 職場環境の改善		
	② 新人事考課の導入		
	③ チーム医療の推進		
	③ 患者誤認防止の徹底		
	④ 省エネ・分別廃棄の徹底		
学習と成長の視点	① 救急疾患勉強会の開催	重点① 経営の改善	救急疾患勉強会の開催 広報ツールの開拓
	① 広報ツールの開拓	重点② 職場環境の改善	労働時間把握の体制整備 働き方改革研修会の開催 人事考課研修会の開催
	② 労働時間把握の体制整備	重点③ 医療の質と安全の向上	コミュニケーション研修会の開催 医療安全研修会の開催
	② 働き方改革研修会の実施	重点④ SDGs活動の推進	省エネ・分別廃棄勉強会の開催
	② 人事考課研修会の開催		
	③ コミュニケーション研修会の開催		
	③ 医療安全研修会の開催		
	④ 省エネ・分別廃棄勉強会の開催		

使命・任務・役割
(ミッション)
→重点施策

重点施策

- ①経営の改善
- ②職場環境の改善
- ③医療の質と安全の向上
- ④SDGs活動の推進

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
救急患者受入人数 外来患者数・診療単価 入院患者数・診療単価	300人/月 347人/日 14,270円/人 180人/日 39,500円/人	断らない救急医療の実践により救急患者数の増加を目指す。 患者数および診療単価を各科で目標設定し、各部署が協力して適切な診療報酬の算定、適切なDPC コーディング、請求漏れの防止、適切なベッドコントロールを行い収益の増加を目指す。
人件費率 離職率	50%以下 5%以下	効率的な業務の遂行により人件費率の削減を目指す。 働きやすい職場作りで職員満足度を向上させ離職率の低下を目指す。
新入院患者数 初診料算定患者数 初診紹介患者数 医療訴訟件数	200人/月 700人/月 250人/月 0件	安全安心な医療の提供やチーム医療の推進で患者満足度を向上させ新規外来・入 院患者数の増加を目指す。 患者誤認防止等医療安全活動の徹底により医療訴訟件数0件を目指す。
水道・電気・ガス使用量の 削減率	前年比95%	省エネ・分別廃棄の徹底を行う事により水光熱費・廃棄物処理費の削減を目指す。
開業医満足度 救急隊満足度 患者満足度	評価4以上 評価4以上 評価4以上	地域に根差したかかりつけ病院として、救急患者の受け入れ、開業医等からの 紹介患者の受け入れを行い満足度の向上を目指す。 広報活動等によりイメージアップを図り患者満足度の向上を目指す。
超過勤務削減率 職員満足度	前年比90% 評価4以上	業務の効率化や働き方改革により超過勤務の削減を目指す。 職場環境の改善等、働きやすい職場作りを目指し職員満足度の向上を目指す。
委員会出席率 アンケート調査の実施 患者満足度	80%以上 2回/年 評価4以上	全ての委員会で個人の委員の出席率を向上して委員会の活性化を図る。 コミュニケーション強化により働きやすい環境を作るため心理的安全性について測定を行う。 安全安心な医療を提供する事により患者満足度の向上を目指す。
情報発信件数	4件以上	当院が実践している省エネ活動等のSDGs活動について広報誌等で院内外に発 信を行う。
時間外患者応需率 新規ツールを含めた広報回数	90%以上 6件/年	「断らない救急」を実践し、依頼のあった救急患者の受け入れを可能な限り行う。 既存、新たに開拓した広報ツールを活用して広報活動の強化を行う。
業務特性調査実施回数 出退勤管理システムの導入時期 職員意見箱の有効利用 導入時期	1回 年度内 運用改善 年度開始時	各部署にて現在行っている業務を洗い出すための調査を実施する。 出退勤管理システムを導入・運用する事により勤務時間の把握に努める。 職員意見箱を有効に活用する事により幅広く意見を収集する。 新人事考課制度を新年度から開始する。
マニュアルの作成 患者誤認件数	各チームで作成 0件	マニュアルを作成しチームでバックアップできる体制を整える。 各部署にて計画・立案し実行する。
省エネ・分別廃棄活動の啓蒙	2回/年	用度施設管理課にて特に使用量の多い夏冬の期間中に啓蒙活動を行う。 各部署にてペーパーレス等の資源消費削減を推進する。
救急医療勉強会の開催 広報ツール開拓件数	6回/年 2件	救急患者へのファーストタッチが行えるよう救急委員会、医局会を中心に救急 医療についての勉強会を開催する。 HP、広報誌等既存の広報ツール以外のツールを開拓する。
部署長ヒアリング 研修会開催件数 研修会開催件数	1回 1回/年 1回/年	DXチームにて部署長ヒアリングを行い労働時間を把握するための体制整備を行う。 総務課にて働き方改革について外部講師を招き全職員対象に研修会を開催する。 事務部にて人事評価者・考課者に対する研修を行う事により評価基準の統一を目指す。
研修会開催件数 研修会開催件数	1回/年 1回/年	教育委員会にて職場内、職場間のコミュニケーションの活性化を図るため研修会 を行う。 患者誤認防止について研修会を全職員対象に実施する。
勉強会開催件数	1回/年	用度施設管理課にて省エネ・分別廃棄について研修会を全職員対象に実施する。

令和5年度 部署別活動目標シート (ふくよね博愛クリニック)

理念(ビジョン) 私たちは博愛の心で医療を行い、地域住民の健康管理に貢献します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 (CSF)
財務の視点	外来患者数の増加	重点① 一般診療の充実	外来患者数の増加 外来診療単価の増加
	外来診療単価の増加	重点② 在宅医療への貢献	訪問診療件数の増加 訪問診療単価の維持
	訪問診療件数の増加	重点③ 予防医療の推進	健診件数の増加 予防接種件数の増加
	訪問診療単価の維持		
	健診件数の増加		
顧客の視点	患者満足度の向上	重点① 一般診療の充実	外来患者満足度の向上
	在宅患者満足度の向上	重点② 在宅医療への貢献	在宅患者満足度の向上 他職種の満足度向上
	他職種満足度向上	重点③ 予防医療の推進	健診受診者の満足度の向上
	健診受診者の満足度の向上		
業務プロセスの視点	診療時間の見直し	重点① 一般診療の充実	診療時間の見直し 専門外来の拡大 博愛病院外来との連携
	専門外来の拡大	重点② 在宅医療への貢献	博愛病院在宅診療部との連携
	博愛病院外来との連携	重点③ 予防医療の推進	博愛病院ドック健診センターとの連携
	博愛病院在宅診療部との連携		
	博愛病院ドック健診センターとの連携		
学習と成長の視点	医療安全管理研修への参加	重点① 一般診療の充実	医療安全管理研修への参加 院内感染対策研修への参加 Common Diseaseに関する研修への参加
	院内感染対策研修への参加	重点② 在宅医療への貢献	在宅医療に関する研修への参加
	Common Diseaseに関する研修への参加	重点③ 予防医療の推進	予防医療に関する研修への参加
	在宅医療に関する研修への参加		
	予防医療に関する研修への参加		

令和5年度 部署別活動目標シート (博愛こども発達・在宅支援クリニック)

理念(ビジョン) 私たちは、全ての子どもの健康増進と健康管理に寄与し、子どもと家族が安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 (CSF)
財務の視点	収益の増加	重点① 要支援家庭の医療・福祉サービスの提供	報酬の高い加算の算定件数の増加
	経費の削減	重点② 職員の能動的学習の支援	職員のモチベーション向上
		重点③ 患者(利用者)のニーズに合った医療と福祉の提供	新規受診者・利用者の増加
		重点④ 重度障がい者グループホーム職員との連携	入居者数促進 グループホームへの訪問診療
顧客の視点	貢献度	重点① 要支援家庭の医療・福祉サービスの提供	地域の相談支援事業所、行政機関等へ 希望・満足度調査を行う
	患者(利用者)の満足度向上	重点② 職員の能動的学習の支援	職員の満足度評価を行う 貢献度評価を行う
	職員の満足度向上	重点③ 患者(利用者)のニーズに合った医療と福祉の提供	患者・利用者満足度の向上
		重点④ 重度障がい者グループホーム職員との連携	研修満足度調査の実施
業務プロセスの視点	患者家族のニーズの発掘	重点① 要支援家庭の医療・福祉サービスの提供	外来問診票の作成と活用
		重点② 職員の能動的学習の支援	個人の目標設定 職員面談の実施
		重点③ 患者(利用者)のニーズに合った医療と福祉の提供	チーム会の開催 家族会の開催 オンライン参観週間の実施 病児保育利用者アンケートの実施と分析
		重点④ 重度障がい者グループホーム職員との連携	研修会開催 職員間の交流 利用者の情報共有
学習と成長の視点	能動的学習	重点① 要支援家庭の医療・福祉サービスの提供	緊急対応、虐待対応マニュアル内容の見直し 外来問診票の見直し
		重点② 職員の能動的学習の支援	専門的知識の習得 講師としての勉強会開催
		重点③ 患者(利用者)のニーズに合った医療と福祉の提供	職員の多職種連携の知識、技術の向上
		重点④ 重度障がい者グループホーム職員との連携	グループホーム職員の研修ニーズの把握
学習と成長の視点	多職種連携		

使命・任務・役割
(ミッション)
→重点施策

重点施策

- ①一般診療の充実
- ②在宅医療への貢献
- ③予防医療の推進

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
外来患者数 外来診療単価	280人/月 7,645円/人	発熱患者や専門外の患者を積極的に受け入れる 検体検査の定期化を図る エコー検査(頸動脈エコー、心エコーなど)を積極的に行う
訪問診療件数 訪問診療単価	24件/月 35,000円/人	引き続き、在宅での「人生の最終段階における医療」に取り組む 24時間対応を維持する
健診件数 予防接種件数の増加	39件/月 6件/月	特定健診受診者、雇入れ時健診受診者を積極的に受け入れる 従来の10種類に加えて、新たに帯状疱疹ワクチン接種も行う 新型コロナワクチンについては1、2回目の接種も行う
外来患者満足度	評価4以上	接遇の改善、待ち時間の短縮などに取り組む ホームページの充実を図り、受診を誘導する
在宅患者満足度 他職種との満足度	評価4以上 評価4以上	接遇の改善に取り組む 意見交換や情報共有でチームとしての一体感を高める
健診受診者満足度	評価4以上	問診から検査までをスムーズに行う 3週間以内の結果報告を目指す
集患に効果的な診療時間の設定 循環器外来の設置 博愛病院外来からの受入人数	達成 10人/日	木・土曜日以外の診療終了時刻を19時まで延長することを検討 金曜日午後の設置を検討 博愛病院外来繁忙時に発熱患者等の受入を継続する
訪問看護ステーション博愛との 協働件数	10件/月	在宅療養支援診療所(3)を維持する
博愛病院ドック健診センター からの受入人数	10件/月	博愛病院ドック健診センターから雇入れ時健診受診者の受け入れを継続する
医療安全管理研修会 院内感染対策研修 Common Diseaseに関する研修会	2回/年 2回/年	医療安全管理の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を学ぶ 院内感染対策の更なる徹底を図る Common Diseaseにおける診療・看護の質向上を図る
在宅医療に関する研修会	1回/年	在宅医療における診療・看護の質向上を図る
予防医療に関する研修会	1回/年	予防医療における診療・看護の質向上を図る

使命・任務・役割
(ミッション)
→重点施策

- 1. 医療的、社会的にハイニードな子どもと家族の支援
- 2. 自ら学ぶことのできる人材の育成
- 3. 患者(利用者)から信頼される医療と福祉の提供
- 4. 重度障がい者グループホーム体制整備支援

重点施策

- ①要支援家庭への医療・福祉サービスの提供
- ②職員の能動的学習の支援
- ③患者(利用者)のニーズに合った医療と福祉の提供
- ④重度障がい者グループホーム職員との連携

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
小児特定疾患カウンセリング料算定数 医療的ケアスコア区分2以上の利用者のへ数 特別重度支援加算(Ⅰ)と(Ⅱ)の算定数 人件費率(人件費/収入)	50件/月以上 15件/月以上 55件/月以上 6%以下	社会的支援が必要な家庭の診療 医療依存度の高い医療的ケア児の受け入れ
・離職率	0%	個人のメンタルフォロー チーム力の向上 勤務時間の調整(早出、遅出の徹底、診療受付時間の検討)
脳神経小児科紹介患者数 小児科新病児患者数 訪問診療新病児患者数 福祉サービス新規利用者数 病児保育新規登録者数	10人/月以上 16人/月以上 3人/年以上 3人/年以上	患者(利用者)への適切な保育、療育の提供 患者(利用者)、保護者への丁寧な説明、接遇
入居者数 訪問診療件数	5名/6ヶ月以上 10件/月以上	入居者の円滑な受け入れ 定期的な訪問診療と往診
満足度調査の実施 満足度	1回/年 4/5以上	Webで質問を作成し満足度調査を実施し、結果はクリニック内に掲示する。
職員満足度調査 ストレスチェック 貢献度評価	全国平均以上 研修ごとに1回	結果を全員で共有し、緊急重点項目について話し合う。 各自へフィードバックする。
満足度調査の実施 満足度	1回/6か月 4/5以上	Webで質問を作成し満足度調査を実施し、結果はクリニック内に掲示する。
研修満足度調査	4/5以上	研修ごとに評価を行う。
外来問診票の作成 外来問診票の実践	1回/年 毎日	外来問診票の作成と実践を行う。必要に応じて見直しを行う。 要支援家庭の発掘
設定と見直し 面談回数	年2回 年2回	職員個人の目標設定 上長による面談
開催回数 開催回数 実施回数 実施回数	1回/月 1回/年以上 2回/年以上 1回/月	業務内容や研修会の共有を行う。 福祉サービス利用者家族会やデイサービスオンライン参観を開催する。 病児保育運営会議で改善点を検討する。
実施回数 実施頻度 共有回数	3回以上 週1回以上 利用者1人当たり1回以上	グループホーム職員一人ひとりと顔の見える関係を作り、コミュニケーションをとりやすくする。
マニュアルの見直し 子ども心・家族支援の勉強会の開催回数	1回/年 1回/年以上	緊急対応、虐待対応マニュアルの見直しを行う。 勉強会を行う。
外部、内部の研修会へ講師として参加	1回/人以上	クリニック内、医療的ケア児等支援センター関連、行政からの依頼で講師を務める。 研修参加のため業務調整を行う。
クリニック内勉強会の開催回数	4回/年	多職種連携に関する勉強会を行う。 多職種での緊急対応シミュレーションを反復して行う。
打ち合わせ回数	1回/週	開設に向けて打ち合わせを行う。

令和5年度 部署別活動目標シート (介護老人保健施設やわらぎ)

理念(ビジョン) 地域で暮らすための拠点施設となることを目指します

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	超強化型施設の維持	重点① 経営の安定化を図る	超強化型施設の維持 介護報酬の増収 経費管理精度の向上
	職員の安定雇用		
	経費管理精度の向上	重点② 安全で質の高いサービスの提供	加算報酬算定
	加算報酬算定		
	安定した収益構造の継続	重点③ 組織形成・職場環境の見直し	職員の安定雇用
	地域活動を行うことによる紹介者数の増加		
重点④ 地域住民や関連施設との連携強化	地域活動を行うことによる紹介者数の増加		
顧客の視点	利用者サポート強化	重点① 経営の安定化を図る	利用者サポート強化 新規利用者数の増加 利用者の積極的な確保
	職員満足度の向上		
	利用者満足度の向上	重点② 安全で質の高いサービスの提供	利用者満足度の向上 接遇向上
	接遇向上		
	新規利用者の増加	重点③ 組織形成・職場環境の見直し	職員満足度の向上
	利用者の積極的な確保		
地域活動の推進	重点④ 地域住民や関連施設との連携強化	地域活動の満足度の向上	
業務プロセスの視点	ICTの積極的活用	重点① 経営の安定化を図る	取りこぼしのない加算算定
	車両事故防止強化		
	リスク管理の徹底	重点② 安全で質の高いサービスの提供	車両事故防止強化 リスク管理の徹底 質の高い安全な看護と介護の実践 質の高い接遇の実践
	職員の腰痛対策		
	職員学習支援	重点③ 組織形成・職場環境の見直し	職員の腰痛対策 ICTの積極的活用 職員学習支援 業務改善
	業務改善		
	質の高い安全な医療と介護の提供	重点④ 地域住民や関連施設との連携強化	地域住民、関連施設との連携、推進
	質の高い接遇の実践		
地域住民との連携			
学習と成長の視点	ケアマネージャー育成	重点① 経営の安定化を図る	介護報酬内容の理解
	質の高い看護介護知識の向上		
	安全マニュアル作成・見直し	重点② 安全で質の高いサービスの提供	質の高い看護介護知識の向上 安全マニュアル作成・見直し 接遇及び倫理感の向上
	接遇及び倫理感の向上		
	介護報酬内容の理解	重点③ 組織形成・職場環境の見直し	働き方改革の知識の向上 ケアマネージャー育成 管理者教育の実施
	働き方改革の推進		
地域活動の体制整備	重点④ 地域住民や関連施設との連携強化	地域や関連施設との連携活動の体制整備	

使命・任務・役割
(ミッション)
→重点施策

重点施策

- ①経営の安定化を図る
- ②安全で質の高いサービスの提供
- ③組織形成・職場環境の見直し
- ④地域住民や関連施設との連携強化

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
在宅復帰・在宅療養支援機能指標 入退所訪問指導割合 介護報酬算定要件の見直し・改善 経費削減 新規利用者・リピーターの確保	70ポイント以上 30%以上 1回/月 収入比率24%以下 入所7人/月・デイケア3人/月	各在宅復帰・在宅療養支援機能指標を目標設定し、各部署が連携して在宅復帰に向けたプランの策定や請求漏れの防止、適切なベッドコントロールを行い収益の増加を目指す。算定要件を頻繁に見直すことによりケアの向上ならびに算定できる報酬増を目指す。安全で質の高いケアの提供を入所通所利用者を行うことによって新規利用者・リピーター増加を目指す。
ターミナル加算他加算算定率	100%	安全な看護介護を行うと共に安定した加算算定につなげる。看取りの充実を図り、ターミナル加算の算定につなげ収益の増加を目指す。
離職率の削減 時間外勤務の削減	離職率7%以下 前年比3%減	離職率を抑えることにより職員不足による業務負担を軽減する。各フロアの業務を見直しコストの削減を目指す。ICT機器等を活用し、業務の効率化を行って時間外勤務の削減を目指す。
紹介者数	入所8人/月 デイケア4人/月	地域活動を行うことによって他施設との差別化を図り紹介者数増加を目指す。
家屋訪問 定期カンファレンスの充実 デイケアへの誘導	60回以上/年 100%開催 6件/年	入退所時に家屋訪問を行い、利用者の在宅生活向上を促す。家族参加カンファレンスを100%開催し、在宅復帰向上に努める。退所後にデイケアへの受入誘導を積極的に行う。利用者を十分確保して経営の安定化を図る。
利用者満足度 給食嗜好満足度 接遇評価	満足度90%以上(年2回) 満足度90%以上(年2回) 評価前年比10%アップ	利用者満足度調査(入所・デイケアそれぞれ年一回・本人家族対象)や給食嗜好調査に基づき、5段階中上位2段階を評価する。迅速かつ的確な改善策を実施することによりさらに利用者満足度の向上を目指す。他者評価をして接遇研修・各事業所会議を実践する。
職員満足度	満足度前年比 10%アップ	職員満足度調査に基づき、迅速かつ的確な改善策を実施することにより職員満足の向上を目指す。
地域活動満足度	満足度80%以上	いきいきサロン・介護教室・あじさいの会・施設行事等を積極的に行うことや、地域関連施設への訪問など実践することにより施設への紹介件数、施設への満足度の向上を目指す。
LIFEの加算算定率向上	前年比3%	LIFEについてより知識を深め、加算につなげる。
事故防止研修会 栄養委員会研修会・感染対策研修 アクシデントインシデント件数 クレーム対応会議回数 定期的な接遇自己評価 認知症、看取りケアの取り組み	1回/年 2回/年 アクシデント0件 インシデント120件 1回以上/年 2回/年以上 取り組み1個以上/各部署	安全運転運行者協議会からの情報収集を行い車両事故防止に努めるとともに、公用車でのトラブルを未然に防ぐための対策を行う。食中毒対策・感染症対策研修会を通して対策を周知し、予防に努める。アクシデントインシデント報告の内容を精査し、安全な介護につながる改善策を講じ入院を減らす事によって在宅復帰率を安定させるよう努める。状況に応じて臨時開催し、今後の方向性についての提案を行う。クレームがあった場合に迅速に対応・説明し、利用者からの信用信頼を得るようにする。定期的な自己評価を行い、質の高い接遇を意識して行動する(接遇委員会)。認知症、看取りケアが向上できるよう取り組み(各部署取り組み内容の共有)。
腰痛状況アンケート実施 ICT機器導入検討回数 資格取得支援 業務見直しによる効率的な職員配置	1回/年 2回/年(前期・後期) 福祉関連資格3件以上 50%以下(職員比)	職員腰痛アンケートを実施して現状を把握した上で業務改善を行い、電動ベッドの計画的導入や腰痛軽減のための介護機器等の計画的導入を行う。ICT導入に向け積極的に検討し導入をしていく。法人管理職研修を受講し、管理職として育成を図る。資格取得に対し支援を行い、職員育成に努める。定期的に職員アンケートや意見箱を用いて職員の意見を集約し改善点を洗い出したり、ICT機器(タブレット等)を導入してより効率的な業務改善を目指す。
地域活動の実践 地域関連施設への訪問活動の実践	5回/年 5回以上/年	地域活動(地区防災避難計画研修会、福祉避難所としての活動、一斉清掃、新開西三区防災会、敬老会行事、介護教室、サロン)への参加。福祉避難所として普段から事業継続に向けた計画等の策定、研修・訓練の実施できるような努める。地域関連施設への訪問活動をする事で施設のPR活動を行い、利用者増に貢献していく。
介護報酬や加算の勉強会の開催 LIFEについての研修会	1回/年	介護報酬について理解を深め、加算要件等細かい部分で職員個人が理解するために勉強会を行う。LIFEについてより知識を深め、より多くの加算につなげるべく知識の集積に努める(事務長)。
認知症ケア研修会、看取りケア研修会、 接遇・倫理研修会の開催 作成・見直し時期	参加率100% 前期	教育委員による研修スケジュールに沿って尊厳・安全に関する研修会を実施する。と共に認知症や看取りの理解を深め、安全な生活援助の実現を目指す。倫理研修会を実施し、職員の倫理に対する意識を高める。安全に関するマニュアルの作成・見直しを行う。
働き方改革についての学習 有休取得 管理者教育の実施 ケアマネ勉強会の開催 ケアマネ資格取得	1回以上/年 5日以上/年 1回/年 3回/年 1名以上/年	施設内の管理者教育として、勉強会を実施し、まずは管理者から働き方改革に対する意識の向上を目指す。法令で定められた有休日数全職員取得に努める。管理職と年2回面接を行い、相談しやすい環境を整備し離職防止に努める。ケアマネ資格を得る為の勉強会を実施することで職員全体の介護保険全般(保険制度)に関するレベルアップを図る。
体制整備の完了	1回/年	地域住民に関しては、介護部会が中心となって地域のニーズを把握(アンケート等)し、活動の体制整備を行う。関連施設との連携に関しては、各部署が関連施設との連携活動の体制を整備する。

1. 主な診療実績指標

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
1日平均外来患者数	332名	333名	337名	
1日平均入院患者数	164名	159名	155名	
救急車受入件数	1299件	1444件	1538件	
1日平均救急車搬入件数	3.6件	4.0件	4.2件	
平均在院日数	一般病棟	11.9日	13.2日	15.0日
	地域包括ケア病棟	25.1日	18.2日	16.6日
	回復期リハビリテーション病棟	79.6日	86.7日	87.0日
	療養病棟	114.5日	127.4日	212.3日
平均病床稼働率	85.5%	82.8%	80.7%	
手術件数	783件	803件	782件	
紹介率	56.0%	54.6%	48.1%	
逆紹介率	34.8%	35.2%	28.7%	
院内がん登録件数(年単位)	320件	340件	—	
外来化学療法件数	585件	521件	549件	
がん相談件数(がん患者指導管理料イ)	103件	108件	83件	

2. 病院全体に関するプロセス指標

(1) 肺血栓塞栓症の予防策実施率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
肺血栓塞栓症の予防策実施率	100%	100%	100%

(2) 手術開始1時間以内の予防的抗菌薬投与率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
予防的抗菌薬投与率	97.6%	95.10%	96.9%

分子:手術開始1時間以内に予防的抗菌薬が投与開始された手術件数
 分母:特定術式の手術件数

3. 病院全体に関するアウトカム指標

(1) 感染症発生率

SSIデータ

手術手技	令和2年			令和3年			令和4年		
	SSI数(件)	手術数(件)	発生率	SSI数(件)	手術数(件)	発生率	SSI数(件)	手術数(件)	発生率
虫垂の手術	0	20	0.0%	0	33	0.0%	0	18	0.0%
肝切除	0	1	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
脾頭十二指腸切除	0	1	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
その他の肝胆脾手術	0	0	0.0%	1	2	50.0%	0	2	0.0%
胆嚢手術	0	40	0.0%	0	35	0.0%	0	36	0.0%
大腸手術	1	23	4.3%	2	35	5.7%	0	22	0.0%
幽門側胃切除	1	7	14.3%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
胃全摘	1	2	50.0%	0	0	0.0%	0	4	0.0%
胃手術	0	4	0.0%	0	11	0.0%	0	7	0.0%
直腸手術	2	8	25.0%	0	2	0.0%	0	6	0.0%
小腸手術	1	4	25.0%	3	12	25.0%	0	9	0.0%
腹部手術	0	1	0.0%	2	4	50.0%	0	2	0.0%

SSI発生率=感染件数/手術件数×100

MRSA新規検出率(入院患者)

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
MRSA検出率	0.35	0.38	0.20

MRSA検出率=MRSA新規検出患者数/延べ入院患者日数×1000(件/1000患者日)

(2) 在宅復帰率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般病棟	97.6%	97.2%	96.6%
地域包括ケア病棟①(2階病棟)	90.2%	91.1%	95.6%
地域包括ケア病棟①(4階A病棟)	92.5%	89.6%	91.6%
療養病棟①	62.4%	73.0%	75.0%
回復期リハビリ病棟②	79.3%	78.0%	85.6%

一般病棟は平成30年度診療報酬改定時に見直しされた内容に準じて算出

分子 家庭への退院(転院除く全て)
 分母 一般病棟退院患者(死亡退院は除く)
 ※再入院患者も含む

(3) クリニカルバス使用患者率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
バス使用率	26.6%	31.8%	33.2%

(4) 脳卒中地域連携バスの運用件数

連携バス運用件数

病院名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
鳥取大学医学部附属病院	15	15	18
山陰労災病院	3	2	2

(5) がん地域連携バス実績

地域がん診療連携クリニカルバス実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
胃がん	0	3	1
大腸がん	6	2	2
肝臓がん	0	0	0
肺がん	0	0	0
乳がん	1	3	0
合計	7	8	3

※鳥取県がん地域連携バスの調査件数に基づく

(6) 地域医療機関サポート率

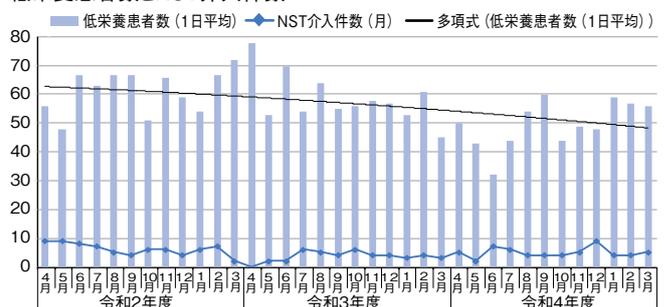
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
地域医療機関サポート率	80.9%	80.9%	81.8%

西部地区の医療機関からの紹介件数(合計) / 医療機関件数(二次圏域施設数)

(3) NST活動実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
活動回数	47	39	49
介入患者数	22	15	15
介入件数	73	44	59

低栄養患者数とNST介入件数

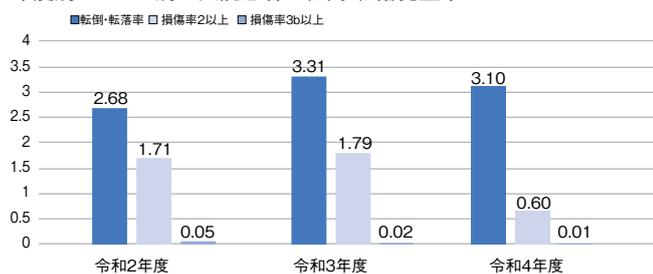


(4) 緩和ケアチーム

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
介入患者数	43	51	29

(5) 転倒・転落レベル2以上

年度別 レベル別 入院患者の転倒・転落発生率



(6) 褥瘡推定発生率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
褥瘡推定発生率	1.67%	0.90%	1.42%

(7) 職員インフルエンザワクチン接種率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
接種率	94.8%	95.9%	97.8%

(8) 脳梗塞入院1週間以内のリハビリテーション強度

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
脳梗塞入院1週間以内のリハビリテーション強度	2.8単位	2.6単位	3.3単位

(9) 退院14日以内のサマリー作成率

令和2年度	総数	退院後14日以内		令和3年度	総数	退院後14日以内		令和4年度	総数	退院後14日以内	
		作成数	作成率			作成数	作成率			作成数	作成率
4月	183	181	98.9%	4月	204	203	99.5%	4月	162	158	97.5%
5月	160	159	99.4%	5月	171	171	100.0%	5月	175	174	99.4%
6月	215	212	98.6%	6月	169	167	98.8%	6月	192	189	98.4%
7月	220	214	97.3%	7月	194	188	96.9%	7月	188	187	99.5%
8月	196	192	98.0%	8月	231	222	96.1%	8月	185	178	96.2%
9月	192	187	97.4%	9月	216	214	99.1%	9月	196	191	97.4%
10月	186	186	100.0%	10月	177	172	97.2%	10月	180	165	91.7%
11月	204	203	99.5%	11月	168	166	98.8%	11月	156	153	98.1%
12月	228	223	97.8%	12月	194	183	94.3%	12月	170	168	98.8%
1月	171	168	98.2%	1月	177	173	97.7%	1月	160	156	97.5%
2月	180	178	98.9%	2月	195	191	97.9%	2月	178	166	93.3%
3月	216	213	98.6%	3月	213	212	99.5%	3月	175	171	97.7%
年間	2,351	2,316	98.5%	年間	2,309	2,262	98.0%	年間	2,117	2,056	97.1%

(10) インシデント・アクシデントレポート集計結果

リスクレベル別・月別アクシデントレポート件数 (令和4年度)

分類	分 類												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
0	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが患者さんには実施されなかった												262
1	患者さんへは実害ではなかった(何らかの影響を与えた可能性は否定できない)												232
2	処置や治療は行わなかった(患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全管理の為に検査などの必要性は生じた)												166
3a	簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)												86
3b	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院に日数の延長、外来患者さんの入院、骨折など)												5
4a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない												0
4b	永続的な障害や後遺症が残る、有意な機能障害や美容上の問題は伴う												0
5	死亡												0
その他	麻薬の管理・紛失等												0
総合計	47	59	64	72	76	64	63	90	55	50	41	70	751

(1)項目別・リスクレベル別レポート件数(令和4年度)

項目・リスクレベル	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4	レベル5	合計
薬剤	129	65	42	7	0	0	0	243
輸血	0	1	0	0	0	0	0	1
治療・処置	22	13	11	8	2	0	0	56
医療機器	15	4	0	1	0	0	0	20
ドレーン・チューブ	2	9	5	30	0	0	0	46
検査	14	33	24	3	0	0	0	74
療養上の世話	9	74	59	29	2	0	0	173
その他	71	33	27	5	1	0	0	137
麻薬	0	0	0	0	0	0	0	0
計	262	232	168	83	5	0	0	750

4. 疾病・手術に関する指標

(1)疾病大分類別・性別・病名数(入院)

(令和4年度)

分類 番号	分類名	男	女	総数	構成比(%)
	総数	945	1,172	2,117	100.0
I	感染症及び寄生虫症	24	23	47	2.2
II	新生物<腫瘍>	67	157	224	10.6
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3	7	10	0.5
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	69	60	129	6.1
V	精神及び行動の障害	2	0	2	0.1
VI	神経系の疾患	25	23	48	2.3
VII	眼及び付属器の疾患	73	62	135	6.4
VIII	耳及び乳様突起の疾患	4	5	9	0.4
IX	循環器系の疾患	125	119	244	11.5
X	呼吸器系の疾患	103	68	171	8.1
XI	消化器系の疾患	206	206	412	19.5
XII	皮膚及び皮下組織の疾患	4	1	5	0.2
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	33	44	77	3.6
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	36	153	189	8.9
XV	妊娠、分娩及び産じょ<褥>	0	13	13	0.6
XVI	周産期に発生した病態	0	0	0	0
XVII	先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0	0
XVIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	1	1	0
XIX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	96	147	243	11.5
XX	傷病及び死亡の外因	0	0	0	0
XXI	健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	0	0	0	0
XXII	特殊目的用コード	75	83	158	7.5

(2)点数表小分類別・上位手術別・手術数(入院)

(令和4年度)

順位	コード	分類名	件数
1	K282	水晶体再建術	133
2	K046	骨折観血的手術	67
3	K476	乳腺悪性腫瘍手術	50
4	K888	子宮付属器腫瘍摘出術(両側)	39
5	K867	子宮頸部(腔部)切除術	35
6	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	34
7	K654	内視鏡的消化管止血術	32
8	K872-3	子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切出術、子宮内膜ポリプ切除術	28
9	K048	骨内異物(挿入物を含む。)除去術	27
9	K743	痔核手術(脱肛を含む。)	27
11	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	26
11	K687	内視鏡的乳頭切開術	26
13	K081	人工骨頭挿入術	22
13	K721	内視鏡的結腸ポリプ・粘膜切除術	22
15	K865	子宮脱手術	21

順位	コード	分類名	件数
16	K718-2	腹腔鏡下虫垂切除術	20
17	K142	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(多椎間又は多椎弓の場合を含む。)	19
17	K653	内視鏡的胃、十二指腸ポリプ・粘膜切除術	19
19	K664	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	18
20	K082	人工関節置換術	17
21	K719	結腸切除術	16
22	K000	創傷処理	15
22	K633	ヘルニア手術	15
24	K059	骨移植術(軟骨移植術を含む。)	14
25	K877	子宮全摘術	13
26	K685	内視鏡的胆道結石除去術	12
27	K068-2	関節鏡下半月板切除術	11
27	K616-4	経皮的シャント拡張術・血栓除去術	11
29	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	10
30	K722	小腸結腸内視鏡的止血術	9

5. がん診療に関する指標

(1) 部位(中分類)別・性別・腫瘍数(令和3年)

部 位	男	女
食道	7	0
胃	46	15
小腸	5未満	0
結腸	29	28
直腸S状結腸移行部	5未満	5未満
直腸	14	5
肝及び肝内胆管	5未満	5未満
胆のう	0	5未満
その他及び部位不明の胆道	5未満	0
膵	10	9
気管支及び肺	7	5未満
造血系及び細網内皮系	5未満	5未満

部 位	男	女
乳房	5未満	67
膣	0	5未満
子宮頸	0	39
子宮体部	0	9
卵巣	0	5未満
前立腺	11	0
腎	5未満	5未満
腎盂	5未満	0
膀胱	5未満	5未満
髄膜	0	5未満
脳	5未満	5未満
リンパ節	5未満	5未満

(2) 症例区分別

	診断のみ	自施設診断 自施設 初回治療開始	自施設診断 自施設 初回治療継続	他施設診断 自施設 初回治療開始	他施設診断 自施設 初回治療継続	初回治療終了後	その他
平成29年	70	196	1	7	2	14	3
平成30年	62	238	0	14	3	85	1
令和 1年	79	234	0	13	10	31	0
令和 2年	73	204	0	8	3	31	1
令和 3年	79	216	0	10	9	23	3

(3) 発見経緯別

	がん検診・健康診断・ 人間ドック	他疾患の経過観察中 の偶然発見	剖検発見	その他	不明
平成29年	89	32	0	165	7
平成30年	114	40	0	177	72
令和 1年	110	53	0	185	19
令和 2年	90	51	0	161	18
令和 3年	97	49	0	177	17

6. リハビリに関する指標

(1) FIM利得

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般病棟	14.59	16.61	16.75
回復期リハ病棟	21.65	25.09	29.24
地域包括ケア病棟	19.43	23.96	23.62

	令和1年度	令和2年度	令和3年度
回復期リハビリテーション病棟 実績指数(施設基準35以上)	48.15	48.8	47.23

FIM利得:退院時FIM-入院時FIM

→点が高いほどリハビリやケアの効果が高いということ

(点が高いほど患者自身でできることが多くなり、介助してもらった量が少なくなったということ)

※博愛便2022のP67において誤植がありましたので、5.(2).(3)は内容を修正し過去5年分を掲載しています。

令和4年度院内研修会

No.	主催者名	年月日	題目	講師	対象	参加人数
1	医療安全対策委員会	R4.10.26~11.22	第1回医療安全研修会「病院のヒューマンエラー対策」(オンライン)	一般社団法人 日本病院管理機構 医療安全管理推進事業部	全職員	360
2	医療安全対策委員会	R5.2.20~3.17	第2回医療安全研修会「除細動器・AED使用手順を身につける」(オンライン)	臨床工学技士副主任 物部智也	全職員	354
3	医療ガス安全管理委員会、 医療安全対策室	R5.3.6~3.24	医療ガス安全管理研修「医療ガスに関するヒヤリハット事例の紹介、酸素供給が途絶えた場合の対応について」	臨床工学技士主任 田儀匡史	全職員	382
4	感染対策委員会	R4.10.19~11.16	第1回感染対策研修会「N95マスクの適正使用について」(オンライン)	スリーエムジャパン株式会社 院内教育動画	全職員	383
5	感染対策委員会	R5.2.20~3.12	第2回感染対策研修会「Withコロナ時代の感染対策ポイント」(オンライン)	感染管理認定看護師 田原由紀子	全職員	383
6	教育委員会	R4.9.5~10.9	メンタルヘルス研修会「早く気づけるストレスケア」(オンライン)	横浜労災病院勤労者 メンタルヘルスセンター長 山本晴義	全職員	430
7	教育委員会	講義R5.10.24 オンラインR5.11.2~11.30	人権・倫理研修「知っておきたい臨床倫理-認知症患者の対応を例にして」	腎臓外科部長 杉谷篤	全職員	372
8	教育委員会	R5.1.10~ 2.10	個人情報保護研修「個人情報保護個人情報保護・サイバーセキュリティについて」(オンライン)	医療情報技師 矢倉征道	全職員	402
9	教育委員会	R5.3.13~3.31	MRI安全講習会「安心・安全なMRI検査のために」	診療放射線技師副主任 白石誉之	全職員	142
10	虐待防止委員会	R5.2.13~2.28	虐待防止研修会「高齢者虐待」(オンライン)	法務省ビデオライブラリー虐待防止シリーズ	全職員	337
11	緩和ケアチーム、薬剤部 薬品安全管理責任者	R5.1.23~2.19	がん疼痛治療の基礎～最近のオピオイド鎮痛薬～	薬剤師 加藤淳一	全職員	185
12	緩和ケアチーム	R5.2.6~2.28	緩和ケア研修「スピリチュアルケア～ケアのためのコミュニケーション～」(オンライン)	看護師主任 佐野晴美	看護部	90
13	放射線部運営委員会	R4.12.8~R5.1.31	診療用放射線安全利用研修会「防護の原則・被ばくの区分・放射被ばくの人体への影響」(オンライン)	公益財団法人日本医師会 公式チャンネル	医師、看護師、 コメディカル	195
14	糖尿病療養指導委員会	R5.3.29	糖尿病療養指導委員会研修会「血糖測定について」	糖尿病内科部長 藤岡洋平	全職員	22
15	看護部教育委員会	R4.6.20	心不全研修会	循環器内科部長 田中保則 心臓リハビリテーションチーム	全看護職員	66
16	看護部教育委員会	R4.10.11	呼吸器疾患研修	呼吸器内科部長 西井静香	全看護職員	26
17	看護部教育委員会	R4.11.4	意思決定支援	乳がん看護認定看護師 櫻井晶子	全看護職員	47
18	看護部教育委員会	R4.9.20	前期履修報告会	看護師 瀬島恭子、河上奈穂子、 森川莉帆、内田貴基	全看護職員	33
19	看護部教育委員会	R4.10.17、24	BLS研修会	医師:循環器内科部長 田中保則、 脳神経内科部長 安井建一 臨床工学技士:主任 田儀匡史、副主任 物部智也、二野宮一郎、福田智	全看護職員	103
20	看護部教育委員会	R4.7.19	診療報酬について	医事課長 足羽司寛	全看護職員	35
21	看護部教育委員会	R4.12.7	神経難病研修会	脳神経内科部長 安井建一	全看護職員	49
22	看護部教育委員会	R5.1.25	摂食嚥下研修会	鳥取大学医学部附属病院 脳卒中リハビリ テーション看護認定看護師 中本美先	全看護職員	37
23	看護部教育委員会	R5.2.21	後期履修報告会	訪問看護ステーション師長 渡部明代、西村大樹、 野澤麻衣、副主任 藤景彩、大森真希子、石倉千尋	全看護職員	33
24	看護部教育委員会	R4.11.25	事例学習報告会	2F 畠山愛海、野口亜弥 3A 高橋優菜 3B 種千尋 4A 加藤柚花 4B 柏尾史佳	全看護職員	45
25	看護部教育委員会	R4.9.29	リフレクション研修	鳥取大学医学部保健学科 基礎看護学講座 奥田玲子	ラダーⅢ申請者	7
26	看護部教育委員会	R4.10.4	管理者リフレクション研修	鳥取大学医学部保健学科 基礎看護学講座 奥田玲子	看護師長	9
27	看護部教育委員会	R4.4.18	電子カルテの使用法	看護師 世佐木輝佳	新人看護師	18
28	看護部教育委員会	R4.4.19	看護記録	2階病棟棟長 藤居貴子	新人看護師	17
29	看護部教育委員会	R4.6.13	感染研修 (標準予防策と感染経路別予防策)	感染管理認定看護師 田原由紀子	新人看護師	18
30	看護部教育委員会	R4.4.20、21	①静脈注射・持続点滴・経管栄養 ②清潔操作	看護師副主任:藤景彩、 高橋久美子、荒濱敬信	新人看護師	18
31	看護部教育委員会	R4.5.9	十二誘導心電図、 心電図モニターについて	臨床検査技師 乗本菜奈子、 松本侑樹	新人看護師	18
32	看護部教育委員会	R4.5.9	臨床検査部の構造と役割 ～検体提出・輸血・その他～	臨床検査技師 技師長 先瀬浩功、副主任 塚田康弘、中村政則、大太好恵、川上麻衣	新人看護師	18
33	看護部教育委員会	R4.5.10	診療放射線科での注意点について	診療放射線技師 白石誉之、 上野裕介、山澤学志	新人看護師	18

No.	主催者名	年月日	題目	講師	対象	参加人数
34	看護部教育委員会	R4.5.16	栄養管理について NSTの役割・栄養アセスメント方法・栄養評価	4B病棟棟長 加藤美樹、管理栄養士副主任 山下綾沙	新人看護師	18
35	看護部教育委員会	R4.5.17	糖尿病看護について	看護師 柿元明美、西村朋美	新人看護師	17
36	看護部教育委員会	R4.5.17	ローテーション業務について説明	看護師副主任 矢倉綾子	新人看護師	18
37	看護部教育委員会	R4.5.26	新人期の社会人基礎力をたかめよう	鳥取県看護協会	新人看護師	18
38	看護部教育委員会	R4.6.2	内視鏡検査・治療	看護師副主任 坂田和美	新人看護師	18
39	看護部教育委員会	R.4.6.6、7	医療機器の取り扱い (シリンジポンプ・輸液ポンプの取り扱い)	臨床工学技士主任 田儀匡史	新人看護師	18
40	看護部教育委員会	R4.6.21	医療機器の取り扱い 人工呼吸器の取り扱い	臨床工学技士副主任 物部智也	新人看護師	18
41	看護部教育委員会	R4.6.13	抗がん剤の取り扱い	薬剤師 加藤淳一	新人看護師	18
42	看護部教育委員会	R4.6.14	退院調整パス ～退院支援・退院調節～	看護師 大森真希子、中湯順子	新人看護師	18
43	看護部教育委員会	R4.6.14	自分たちの思う看護師像	看護師副主任 荒濱敬信	新人看護師	18
44	看護部教育委員会	R4.6.21	看護診断(基礎編)	鳥取大学医学部保健学科 成人・老人看護学講座 講師 野口佳美	新人看護師	18
45	看護部教育委員会	R4.11.8	医療安全	看護師長(GRM) 山崎博美	新人看護師	17
46	看護部教育委員会	R4.11.8	死後のケア	緩和ケア認定看護師 佐野晴美	新人看護師	17
47	看護部教育委員会	R4.8.19	新人体験学習についての説明	看護師副主任 荒濱敬信	新人看護師	17
48	看護部教育委員会	R5.1.17、18、19	新人体験学習発表会	新人看護師	新人看護師	17
49	看護部教育委員会	R4.11.4	意思決定支援	乳がん看護認定看護師 櫻井晶子	新人看護師	17
50	看護部教育委員会	R4.12.7	フィジカルアセスメント研修	鳥取大学医学部附属病院 集中ケア認定看護師 中本有史	新人看護師	17
51	看護部教育委員会	R4.12.7	SBAR	鳥取大学医学部附属病院 ティーチングナース 須山奈々・小村美穂・両見知将	新人看護師	17
52	看護部教育委員会	R4.9.13	看護診断(応用編)	鳥取大学医学部保健学科 成人・老人看護学講座 講師 野口佳美	全看護師	20
53	看護部教育委員会	R4.6..37	看護補助者研修 看護補助業務の役割とは ～日々の業務で配慮すること	外来師長 西川厚子	看護助手、クラーク、 介護福祉士	40
54	臨床工学室	R4.4.4	BLS研修会	臨床工学技士主任 田儀匡史	新入職員	
55	臨床工学室	R4.4.22	人工呼吸器勉強会	臨床工学技士 副主任 物部智也	3階A病棟	
56	臨床工学室	R4.5.25	BLS研修会	臨床工学技士 福田智	院内保育園 かるかも	
57	臨床工学室	R4.6.1	人工呼吸器トリロジー-EVO操作説明会	臨床工学技士副主任 物部智也	3階A病棟	
58	臨床工学室	R4.6.17	人工呼吸器サーボエア操作説明会	臨床工学技士副主任 物部智也	4階B病棟	
59	臨床工学室	R4.6.23	NPPV勉強会	臨床工学技士副主任 物部智也	リハビリテーション部	
60	臨床工学室	R4.6.24	BLS研修会	臨床工学技士主任 田儀匡史	ふくよね博愛 クリニック	
61	臨床工学室	R4.6.28	セントラルモニタ操作説明会	臨床工学技士	4階A病棟	
62	臨床工学室	R4.10.11	PCAポンプCADDSolis 操作説明会	臨床工学技士主任 田儀匡史	訪問看護	
63	臨床工学室	R5.2.20	除細動器・AEDの使用法	臨床工学技士副主任 物部智也	全職員	354
64	臨床工学室	R5.3.6	医療ガス安全管理研修会	臨床工学技士主任 田儀匡史	全職員	382
65	臨床工学室	R5.3.20	BLS研修会	臨床工学技士	コメディカル・ 事務部	
66	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	R4.4.13	令和3年度実績報告・鳥取県医療的 ケア児等支援センターについて	院長 玉崎章子	クリニック全職員	10
67	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	R4.10.7	令和4年度上半期実績報告・多職種 連携について	院長 玉崎章子	クリニック全職員	10

No.	主催者名	年月日	題目	講師	対象	参加人数
68	博愛こども発達・在宅支援クリニック	R5.1.11	N95マスクフィッティング クリニック内での感染対策について	看護師 美甘由雅子、木田さくら	クリニック全職員	10
69	博愛こども発達・在宅支援クリニック	R5.2.15	障がい福祉サービスについて	クラーク 門脇千紗	クリニック全職員	10
70	博愛こども発達・在宅支援クリニック	R5.3.8	発達を促す支援・遊びの重要性について～基礎編～	理学療法士 主任 石原亜紀子	クリニック全職員	8

論文紙上发表

No.	著者	共著者	タイトル	誌名	巻号	始頁～終頁	年	担当部署	備考	
1	浜本哲郎	長谷川隆、河村知彦、松本栄二、堀立明、岸本幸廣、鶴原一郎、磯本一	胃内視鏡検査で発赤した小ポリープを認めた症例	鳥取医学雑誌	50	1,2	1-3	2022	診療部 (消化器内科)	鳥取県医師会
2	杉谷篤	谷口健次郎、山本修、岸野幹也、真野勉	生体ドナー腎採取術	腎と透析 腎代替療法のすべて	92	増刊号	608-616	2022	診療部 (腎臓外科)	
3	杉谷篤	谷口健次郎、山本修、岸野幹也、真野勉	死体ドナー脳死下腎採取術	腎と透析 腎代替療法のすべて	92	増刊号	617-626	2022	診療部 (腎臓外科)	
4	杉谷篤	—	日本臨床腎移植学会学術・教育委員会報告—第22回集中教育セミナーにつきて—	日本臨床腎移植学会雑誌	10	1	巻頭	2022	診療部 (腎臓外科)	
5	杉谷篤	—	日本臨床腎移植学会学術・教育委員会報告—第23回集中教育セミナーにつきて—	日本臨床腎移植学会雑誌	10	2	巻頭	2022	診療部 (腎臓外科)	
6	杉谷篤	生田里奈、原田大樹	腎移植後患者に対する分枝鎖アミノ酸(BCAA)付加投与の検討	日本臨床腎移植学会雑誌	10	2	283-286	2022	診療部 (腎臓外科)	
7	杉谷篤	原田大樹、谷口健次郎、山本修、岸野幹也、對馬栄輝	腎移植維持期の身体活動能力に影響を与える要因	日本臨床腎移植学会雑誌	10	2	181-186	2022	診療部 (腎臓外科)	
8	杉谷篤	谷口健次郎、山本修、岸野幹也、真野勉	鳥取県と当院における腎移植医療の軌跡—当院腎移植通算100例を達成して—	鳥取医誌	50	1,2	21-29	2022	診療部 (腎臓外科)	米子医療センター 在籍中実績
9	中村達彦	M. Osaki, R. Okuda, Y. Saeki, T. Okano, K. Tsuda, T. Nakamura, Y. Morio, H. Nagashima & H. Hagino	Efficiency of coordinator-based osteoporosis intervention in fragility fracture patients: a prospective randomized trial	Osteoporosis International	32		495-503	2021	診療部 (整形外科)	2021年度実績 2022/2/23
10	中村達彦	R. Okuda, M. Osaki, Y. Saeki, T. Okano, K. Tsuda, T. Nakamura, Y. Morio, H. Nagashima & H. Hagino	Effect of coordinator-based osteoporosis intervention on quality of life in patients with fragility fractures: a prospective randomized trial	Osteoporosis International	33		1445-1455	2022	診療部 (整形外科)	2020年度実績 2021/1/23
11	領家 和男	山本吉藏、先瀬浩功	BRONJ症例における皮質骨の微細構造と石灰化について—CMRIによる形態学的および石灰化度解析—	日骨形態誌	32		1~8	2022	臨床検査部	
12	中河真吾	—	医療従事者の肩こりに関する横断研究	理学療法科学	38	1	73-77	2023	リハビリテーション部	

研究会・学会発表 (院外)

No.	演者	共同発表者	タイトル	学会名	場所	年月日	担当部署
1	謝花典子	向山智之、八島一夫、浜本哲郎、岸本幸廣、磯本一、三浦邦彦、岡田克夫	鳥取県、米子市の胃がん検診の現況—コロナ禍の影響を含めて—	第53回日本消化器がん検診学会中国四国地方会	出雲市	R4.11.26	診療部 (消化器内科)
2	安井建一	足立晶子	サフィナミドの使用経験からの考察	PD Clinical Seminar in 山陰	web開催	R4.9.29	診療部 (脳神経内科)
3	安井建一	足立晶子	当院のパーキンソン病診療	山陰カテコールアミン研究会	web開催	R4.10.7	診療部 (脳神経内科)
4	木村修	竹本大樹、山根成之、近藤亮、角賢一	難治性腹壁癭痕ヘルニア術後に発生した横行結腸瘻の1例	第35回中国・四国ストーマリハビリテーション研究会	高知市	R4.6.18	診療部 (外科)
5	角賢一	角賢一、近藤亮、工藤浩史	高齢の乳癌悪性リンパ腫の2例	第30回日本乳癌学会学術総会	横浜/ web開催	R4.6.30~ 7.2	診療部 (外科)
6	角賢一	竹本大樹、近藤亮、杉谷篤、工藤浩史	境界悪性型の巨大葉状腫瘍の一例	第31回鳥取県乳腺疾患研究会	鳥取市	R5.2.4	診療部 (外科)
7	杉谷篤	—	電子カルテの更新を終えて—HISと統合支援(アストロステージ:AS)の融合—	第10回山陰文化圏医療情報技術研究会	web開催	R4.4.16	診療部 (腎臓外科)
8	杉谷篤	谷口健次郎、山本修、岸野幹也、真野勉	鳥取県と当院における腎移植医療—当院通算101例を達成して—	令和4年度鳥取県医学会	鳥取県医師会館	R4.6.19	診療部 (腎臓外科)
9	杉谷篤	谷口健次郎、山本修、岸野幹也、原田大樹、生田里奈	腎移植患者の腎臓リハビリテーション—移植前、移植後早期リハと栄養療法の有用性—	令和4年度鳥取県医学会	鳥取県医師会館	R4.6.19	診療部 (腎臓外科)
10	杉谷篤	真野勉	生体腎移植後の透析再導入で苦労した一例	第67回日本透析医学会学術集会	横浜/ web開催	R4.7.1	診療部 (腎臓外科)
11	杉谷篤 (座長)	—	移植関連委員会シンポジウム 腎移植患者のノンアドヒアランスを「見える化」する	第33回 日本サイコネフロロジー学会	東京/ web開催	R4.7.23~ 7.24	診療部 (腎臓外科)

No.	演者	共同発表者	タイトル	学会名	場所	年月日	担当部署
12	杉谷篤	谷口健次郎、山本修、岸野幹也、真野勉	鳥取県における腎移植の軌跡と当院通算101例の現状	第39回中四国臨床臓器移植研究会	web開催	R4.8.27	診療部 (腎臓外科)
13	杉谷篤	谷口健次郎、山本修、岸野幹也、真野勉	大伏在静脈を用いた腎動脈再建2例の腎移植	第39回中四国臨床臓器移植研究会	web開催	R4.8.27	診療部 (腎臓外科)
14	杉谷篤 (座長)	—	一般口演19「働き方改革・内科医との連携・臓器摘出」	第58回日本移植学会	名古屋観光ホテル	R4.10.13	診療部 (腎臓外科)
15	杉谷篤 (座長)	—	優秀演題賞 腎移植 (E11～E15)	第43回日本小児腎不全学会	東京/web開催	R4.12.8	診療部 (腎臓外科)
16	杉谷篤	—	ポスター:高齢者、長期透析患者に対するグラフトを用いたシャント再建	第31回中国腎不全研究会	広島国際会議場	R4.12.18	診療部 (腎臓外科)
17	田儀匡史	杉谷篤、田中保則、物部智也、二野宮一郎、福田智	ポスター:透析患者の無症状末梢動脈疾患に対するポケットLDFの有用性	第31回中国腎不全研究会	広島国際会議場	R4.12.18	診療部 (腎臓外科)
18	杉谷篤	山本司生	帯状疱疹とコロナ感染を併発して緊急入院した腎移植患者の一例	第56回日本臨床腎移植学会	東京/web開催	R5.2.11～2.12	診療部 (腎臓外科)
19	杉谷篤 (座長)	—	一般演題35 地域・チーム医療	第56回日本臨床腎移植学会	東京/web開催	R5.2.11～2.12	診療部 (腎臓外科)
20	杉谷篤	—	ドップラーエコーとMRAを用いた腎動脈と腎内血流の評価	第56回日本臨床腎移植学会	東京/web開催	R5.2.11～2.12	診療部 (腎臓外科)
21	杉谷篤	—	人口最少県の腎移植医療—その歴史と今後の展望—	第56回日本臨床腎移植学会	東京/web開催	R5.2.11～2.12	診療部 (腎臓外科)
22	杉谷篤 (座長)	—	バスキュラーアクセスの基礎から臨床まで	日本臨床腎移植学会 第24回集中教育セミナー		R5.2.11	診療部 (腎臓外科)
23	杉谷篤	—	ソフトウェアサービス社の新規導入、更新を経験して—ゼロからの出発と他施設からの学び—	第11回山陰文化圏医療情報技術研究会	鳥大臨床講義棟	R5.2.18	診療部 (腎臓外科)
24	杉谷篤 (座長)	—	一般演題口演12「透析療法」	第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	大宮	R5.3.18～3.19	診療部 (腎臓外科)
25	小澤玲子	櫻井晶子・坂田和美・西川厚子	外来継続看護への取り組み	第18回日本医療マネジメント学会鳥取支部学術集会	web開催	R4.9.1～9.30	看護部
26	細田めぐみ	川内由理・竹仲美奈子	急性期病棟における職場内接遇改善に向けた取り組み	第18回日本医療マネジメント学会鳥取支部学術集会	web開催	R4.9.1～9.30	看護部
27	高田景子	竹村楓香・松岡洋子・石倉千尋	タクティールケア導入による術後患者のせん妄発生予防の有効性の検証	第16回鳥取県看護研究学会	看護研修センター	R4.11.12	看護部(4A)
28	木村修	山本司生、工藤浩史、鶴原一郎	診断に難渋した浸潤性粘液性肺腺癌の1例～13年間の経過～	第63回日本人間ドック学会学術大会	千葉県幕張メッセ国際会議場	R4.9.2	ドック健診センター
29	松本侑樹	岡本みゆき、松重智大、杉村香奈、乗本菜奈子、福井雪乃、先瀬浩功、竹内龍男、藤岡洋平	糖尿病内科受診者における検査部の取り組み	第48回鳥取県医学検査学会	米子市文化ホール	R4.10.2	臨床検査部
30	大太好恵	—	当院でのSARS-CoVAb試薬の使用経験	鳥取県臨床検査技師会生物化学分析部門研修会	web開催	R4.10.29	臨床検査部
31	池嶋道夫	—	透視検査における水晶体被ばくの対応	日本放射線技術学会中国・四国支部 第23回夏季学術大会	広島大学 霞キャンパス	R4.7.3	診療放射線部
32	矢倉征道	—	DRLs2020の診断透視部門における当院での最適化の現状について	日本放射線技術学会 中国・四国支部 第23回 夏季学術大会	広島大学病院 霞キャンパス	R4.7.2	診療放射線部
33	白石誉之	—	当院の頸椎MRI検査について	第15回 Tottori BIRT Meeting	倉吉未来中心	R4.8.27	診療放射線部
34	山澤学志	杉原しおり、池嶋道夫	チーム医療における読影補助の役割	第18回日本医療マネジメント学会鳥取支部学術集会	web開催	R4.9.3	診療放射線部
35	矢倉征道	—	調べてみました、透視分野のDRL	中海・宍道湖消化管造影研究会 水鳥会 第90回定例会	web開催	R4.11.19	診療放射線部
36	矢倉征道	—	胸部X線診断支援システムCXR-AIDの導入から活用について	兵庫県放射線技師会 日本医用画像管理学会コラボセミナー	兵庫県民会館 (兵庫県神戸市)	R4.12.4	診療放射線部
37	池嶋道夫	小西哲生	症例検討会	第10回鳥取県消化管撮影研究会	web開催	R5.2.18	診療放射線部
38	上野裕介	—	うちのちょっとひと工夫	第10回鳥取県消化管撮影研究会	web開催	R5.2.18	診療放射線部
39	徳原祥子	—	施設認定時の取り組み方の紹介	第8回鳥取マンモグラフィ研修会	米子市	R5.3.4	診療放射線部
40	中河真吾	—	医療従事者の肩こりに関する横断研究	第35回中国ブロック理学療法士学会	web開催	R4.9.3～9.4	リハビリテーション部
41	野々村賢	足立晶子、廣江理沙、足川栄一、性西優	自動車運転再開に影響する要因～運転評価結果における検討～	リハビリテーション研究会 in Yonago	鳥取大学医学部附属病院	R4.11.26	リハビリテーション部
42	田儀匡史	田中保則、杉谷篤、物部智也、二野宮一郎、福田智	ポスター:透析患者の無症状末梢動脈疾患に対するポケットLDFの有用性	第31回中国腎不全研究会学術集会	広島国際会議場	R4.12.18	臨床工芸室
43	矢倉征道	—	博愛病院でのリモート接続・データバックアップの現状と対策	第13回 鳥根医療情報技術フォーラム	松江赤十字病院	R4.10.22	診療放射線部・情報システム管理室
44	矢倉征道	—	博愛病院でのスマホ活用事例	第11回山陰文化圏医療情報技術研究会	鳥取大学医学部附属病院	R5.2.18	診療放射線部・情報システム管理室

No.	演者	共同発表者	タイトル	学会名	場所	年月日	担当部署
45	本多千鶴	—	シンポジウム3 [がん患者のQOLを高める非薬物療法]がん患者の心が求める食事のかたち～患者の生き方に寄り添う食事を探して～	第35回日本サイコオンコロジー学会総会	タワーホール船堀(東京都江戸川区)	R4.10.14	法人本部 経営統括部 戦略推進室
46	本多千鶴	—	ポートフォリオ分析を用いた職員やりがい度調査結果の活用	公益財団法人 日本医療機能評価機構 職員やりがい度活用支援セミナー ～やりがいを持ち続けられる病院組織をつくる～	web開催	R5.2.28	法人本部 経営統括部 戦略推進室
47	樫田豊	—	教育セミナー1 クリティカルパス「SDGsにおけるクリティカルパス」医療分野のSDGs—当院の取り組みを通して—	第24回日本医療マネジメント学会学術集会	神戸市	R4.7.8	ふくよ博愛 クリニック
48	玉崎章子	—	小児科医の未来、子ども達の未来～これからの小児科医の役割と働き方「コミュニティの中の小児科医の役割と未来」	第125回日本小児科学会総合シンポジウム8	福島県郡山市	R4.4.17	博愛こども発達・在宅支援クリニック
49	土井恵子	—	倫理カンファレンス導入とその効果	全国老人保健施設協会 全国大会	神戸ポートピアホテル 神戸国際会議場	R4.9/22、23	介護老人保健施設 やわらぎ
50	山本吉蔵	—	基調講演 大腿骨頸部骨折患者の頸部皮質骨の劣化—皮質骨CMRによる硬組織研究—	第42回日本骨形態計測学会	米子コンベンションセンター BIG SHIP	R4.7.1	診療部 (整形外科)

講演会実績(院外からの委託分)

No.	講師	主催者名	題目	年月日	部署	備考
1	石部裕一(座長)	第72回日本病院学会 ランチョンセミナー3	公立病院経営強化ガイドラインのポイント —特に医師・看護師等の確保と働き方改革について—	R4.7.7	理事長	演者:望月泉先生(八幡平市立病院 事業管理者・統括院長/一般社団法人日本病院会 岩手県支部長)
2	浜本哲郎	鳥取県西部医師会消化管研究会	大腸憩室疾患の現況	R4.5.24	診療部 (消化器内科)	診療部
3	浜本哲郎	鳥取県薬剤師会	炎症性腸疾患の診断と治療	R4.6.9	診療部 (消化器内科)	国際ファミリープラザから web配信
4	浜本哲郎	鳥取県薬剤師会西部支部	炎症性腸疾患診療の現況	R4.8.29	診療部 (消化器内科)	web開催
5	浜本哲郎	鳥取県健康対策協議会	大腸がん検診の現況 ～精検未受診者の問題を中心に～	R5.3.4	診療部 (消化器内科)	令和4年度 大腸がん検診従事者講習会
6	藤岡洋平	住友ファーマ株式会社	糖尿病治療におけるメトホルミン	R4.7.29	診療部 (糖尿病内科)	web開催
7	藤岡洋平	協和キリン株式会社	病態に基づいた糖尿病治療薬の選択	R4.10.21	診療部 (糖尿病内科)	web開催
8	藤岡洋平	住友ファーマ株式会社	病態を考慮した糖尿病治療薬の選択	R4.11.2	診療部 (糖尿病内科)	Diamond Live Seminar in 倉吉 ～良好な血糖マネジメントとは～
9	藤岡洋平	住友ファーマ株式会社	イメグリミンを使用した2型糖尿病の治療経験	R4.11.17	診療部 (糖尿病内科)	DUAL Seminar in 米子
10	藤岡洋平	興和株式会社	糖尿病と脂肪肝	R5.1.26	診療部 (糖尿病内科)	kowa webカンファレンス
11	藤岡洋平	住友ファーマ株式会社	イメグリミンを使用した2型糖尿病の治療経験	R5.1.27	診療部 (糖尿病内科)	DUAL Seminar in 米子
12	藤岡洋平	西部医師会	病態を考慮して治療調節を行った2型糖尿病の一例	R5.2.9	診療部 (糖尿病内科)	
13	藤岡洋平	住友ファーマ	インスリン作用不全とメトホルミン	R5.3.16	診療部 (糖尿病内科)	
14	藤岡洋平(代表世話人)	日本糖尿病学会	第9回中四国糖尿病療養指導スキルアップセミナー	R5.3.19	診療部 (糖尿病内科)	web開催
15	足立晶子、安井建一	米子医療センター附属看護学校	疾病論IV 脳神経(計7回)	足立R4.9.20,9.27,10.4,10.11 安井R4.10.18,10.25,11.1	診療部 (脳神経内科)	米子医療センター附属看護学校
16	安井建一	鳥取大学医学部医学科	臨床神経学講義 パーキンソン病	R4.12.12	診療部 (脳神経内科)	鳥取大学医学部医学科3年
17	杉谷篤	第18回国立病院理学療法士協議会 中国四国部会総会	腎移植後のリハビリテーション	R4.11.26	診療部 (腎臓外科)	web開催
18	杉谷篤	鳥取県立倉吉総合看護専門学校	移植医療の現状と展望—腎不全と腎移植、糖尿病と膵移植を例にとりて—Part1	R4.12.15	診療部 (腎臓外科)	
19	中村達彦(座長)	エーザイ株式会社	整形外科医のための不眠症診療Webセミナー	R5.1.20	診療部 (整形外科)	
20	中村達彦(座長)	エーザイ株式会社	かかりつけ医診療スキルアップセミナー～慢性関節症	R5.1.25	診療部 (整形外科)	
21	中村達彦(座長)	帝人ファーマ、帝人ヘルスケア、鳥取県薬剤師会東部、中部、西部支部、鳥取県病院薬剤師会中部支部	骨粗鬆症治療薬と薬剤師のかかわりについて	R5.3.10	診療部 (整形外科)	演者:鳥取大学医学部附属病院 薬剤部 伴藤貢

No.	講師	主催者名	題目	年月日	部署	備考
22	中山卓	鳥取大学・鳥取県感染制御地域支援ネットワーク	鳥取県院内感染対策講習会 消毒薬の使い方	R4.12.1~R5.1.15	薬剤部	
23	大太好恵	日本糖尿病学会中国四国支部 第9回中四国糖尿病療養指導スキルアップセミナー	博愛病院検査部での 糖尿病療養指導の取り組み	R5.3.19	臨床検査部	
24	大太好恵	アークレイマーケティング株式会社	当院でのフリースタイルリブレの動向	R4.10.12	臨床検査部	
25	本多千鶴	米子市健康対策課	食生活で長生きを〜健康長寿のための食事のとり方〜	R4.6.22	法人本部経営統括部 戦略推進室	義方公民館
26	本多千鶴	NPO法人中海エリア糖尿病療養機構	糖尿病療養指導における役割と実践 療養指導はプレゼン力	R4.8.18	法人本部経営統括部 戦略推進室	令和4年度糖尿病療養指導勉強会
27	本多千鶴	鳥取県医師会	糖尿病の食事療法	R4.10.30	法人本部経営統括部 戦略推進室	鳥取県糖尿病療養指導士試験 受験資格取得のための講習会
28	本多千鶴	鳥取県立米子養護学校	食事と体のバランスを考えよう	R5.1.23	法人本部経営統括部 戦略推進室	高等部1年基礎コース 食生活学習講師
29	本多千鶴	NPO法人中海エリア糖尿病療養機構	個別指導とは強みと弱みを 理解すること	R5.3.12	法人本部経営統括部 戦略推進室	第16回臨床糖尿病セミナー
30	玉崎章子	鳥取県看護協会	医療的ケア児等の地域生活支援を担う看護職員等養成研修 「小児医療・医療的ケア児を取り巻く現状と私たちができること」	R4.5.22	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	web開催
31	玉崎章子	倉吉看護専門学校講義	小児在宅支援	R4.7.6	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	web開催
32	瀬川千春	鳥取大学医学部	T-HOC 講義 小児在宅医療の現状と課題	R4.7.19	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	
33	玉崎章子	鳥取県教育委員会 特別支援教育課	学校における医療的ケア研修会 「教育と医療の 協働〜チームアプローチによる子どもの支援〜」	R4.8.18	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	web開催
34	玉崎章子	鳥取県教育委員会 特別支援教育課	鳥取県医療的ケア研修会 「医療的ケア児の呼吸管理最前線」	R4.8.25	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	web開催
35	玉崎章子	鳥取県看護協会	医療的ケア児等の地域生活支援を担う看護職員等 養成研修 インテンブコース 全7回	R4.9.11~R5.3.5	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	R4.9.11、10.2、11.6、12.4、R5.1.15、2.5、 3.5
36	玉崎章子	鳥取大学医学部附属病院	2022年T-HOC 第3回ひの合同セミナー 「医療的ケア児の発達支援・子育て支援の考え方」	R4.9.17	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	
37	瀬川千春	鳥取大学医学部附属病院	2022年T-HOC 第3回ひの合同セミナー 「医療的ケア児の発達支援・子育て支援の実際」	R4.9.17	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	
38	石原亜紀子・ 杉原泉子・ 中原奈穂	鳥取県看護協会	医療的ケア児等の地域生活支援を担う 看護職員等養成研修「医療的ケア児等 の発達を促す支援と遊び」	R4.8.28	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	web開催
39	森ひとみ	鳥取県看護協会	医療的ケア児等コーディネーター 養成研修「本人・家族の思いの理解」	R4.10.20	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	web開催
40	瀬川千春	倉吉看護専門学校講義	医療的ケア児等の在宅支援について	R4.12.2	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	
41	玉崎章子	富山県医師会	医療的ケア講習会「医療的ケアが必要な小児から 成人までの在宅支援 ~鳥取県の取り組み~」	R4.12.16	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	web開催
42	河藤知代	東部医師会看護学校講義	医療的ケア児等の在宅支援について	R4.12.16	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	web開催
43	玉崎章子	あいサポートとっとりフォーラム23	Topics!!生きることが光になる「医療的ケア の必要な人の地域生活を支え・創る」	R5.1.7	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	
44	瀬川千春	鳥取大学医学部保健学科講義	医療的ケア児等の在宅支援について	R5.2.14	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	

メディア掲載実績

No.	氏名	掲載メディア	主催者名	タイトル	年月日	担当部署
1	本多千鶴	糖尿病週間リレーコラム 食事療法	日本海新聞	鳥取県糖尿病療養指導士 認定機構	R4.11.13	法人本部経営統括部 戦略推進室
2	本多千鶴	READYFORメールマガジン	READYFOR株式会社	クラウドファンディング 成功の秘訣を紹介	R5.2.16	法人本部経営統括部 戦略推進室

おしかけ出前講座実績

No.	年月日	注文先	講座タイトル	部署	職種	講師名	場所	参加人数
1	R4.4.20	聴覚障害者就労継続支援 センターふくろう	生活習慣病と栄養(シニアの栄養)	法人本部	管理栄養士	本多千鶴	web開催	12名
2	R4.10.19	米子ガス産業株式会社	自宅でできる腰痛予防	リハビリテーション部	理学療法士	桑村龍司	web開催	10名
3	R4.11.10	米子市健康対策課	がんになりやすい人、なりにくい人	ドック健診センター	医師 (センター長)	木村修	加茂公民館	31名

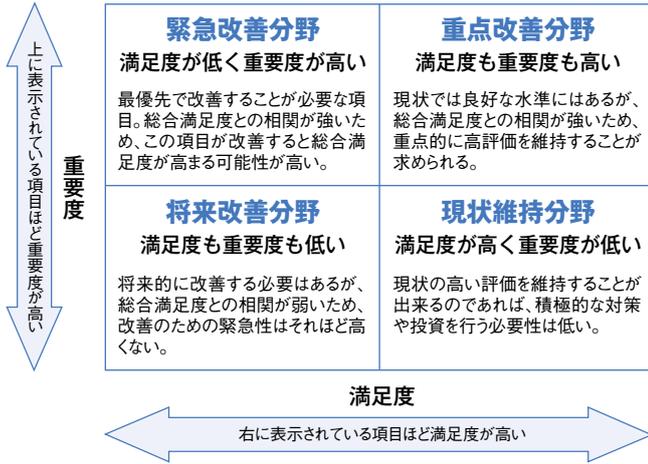
満足度調査集計方法

ポートフォリオ分析

(患者満足度調査・開業医満足度調査・職員満足度調査)

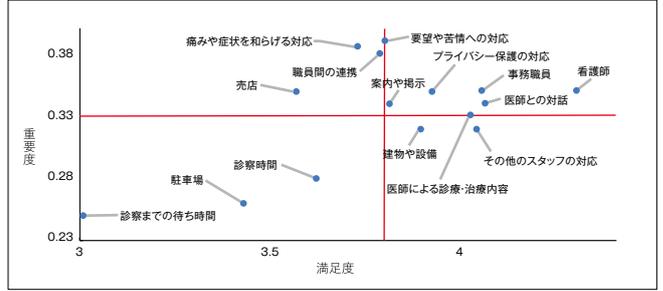
項目別満足度と総合満足度から、重点改善項目を抽出する分析する方法

「項目ごとの満足度」を横軸、総合満足度と項目別満足度との相関係数(関係の強さ)を縦軸にとり、各項目をプロットして重点的に改善すべき項目を明らかにする。「総合満足度への影響度」と「個別項目の満足度」の2軸の空間に各項目をプロットすることにより、改善点(総合満足度と強く相関しているのに、現状の満足度が低い項目)の抽出を行い、改善施策立案・優先順位付けの判断資料とする。



患者満足度アンケート<外来>

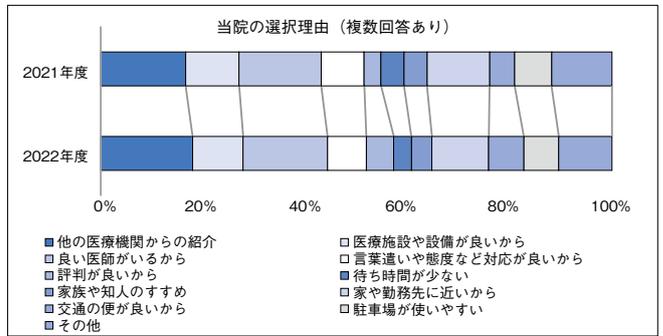
1.満足度(外来)ポートフォリオ図



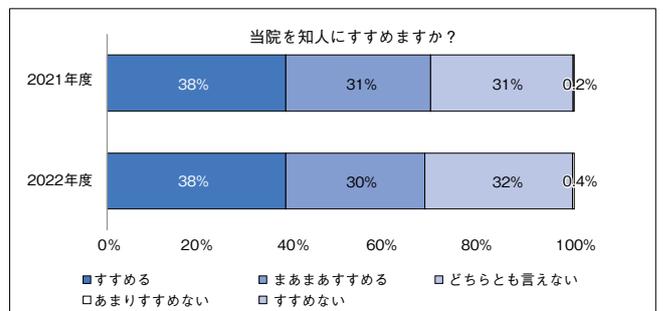
【結果】

昨年度と同様、「看護師の対応」「医師との対話」「事務職員の対応」の順で満足度が高く、「診察までの待ち時間」「駐車場」「売店」「診療時間」の順に満足度が低かった。緊急改善項目としては「売店」「痛みや症状を和らげる対応」「職員間の連携」があがった。

2.当院の選択理由(外来)



3.総合評価(外来)



外来・入院・透析患者満足度調査実施報告

【実施期間】

【外来】令和4年11月14日～11月18日(平日5日間) 475件

【入院】令和4年11月1日～12月10日 113件

【透析】令和4年11月1日～12月10日 25件

【実施方法】

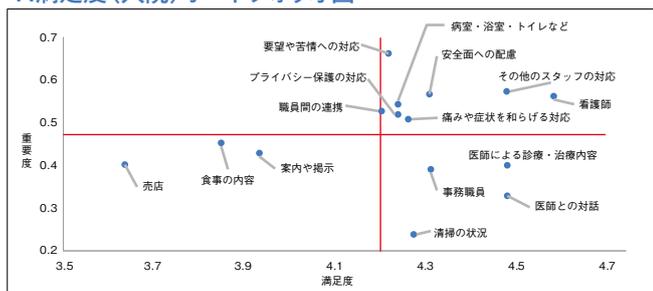
バインダーにアンケート用紙を挟み、外来・入院および透析中の患者さんに、アンケートの主旨と記入要項等を説明し、無記名方式で回答していただいた。

【目的】

患者さんの声を分析し、今後のより良い病院運営と診療サービスの充実に努めるため

患者満足度アンケート<入院>

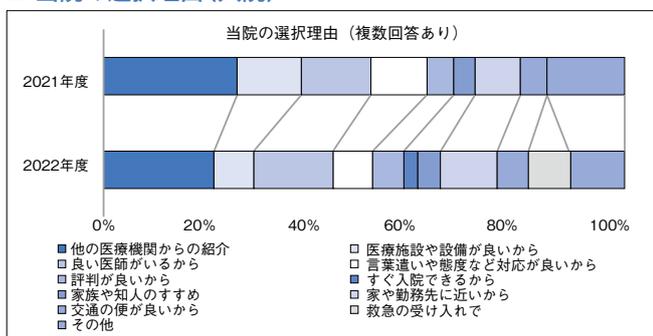
1.満足度(入院)ポートフォリオ図



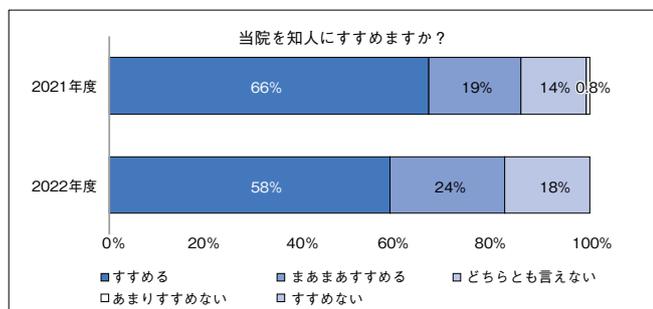
【結果】

昨年度と同様、「看護師の対応」「医師による診療・治療内容」「医師との対話」「その他のスタッフの対応」の順で満足度が高く、「売店」「食事の内容」「案内や掲示」の順に低かった。緊急改善項目としてあがるものは今年度はなかった。

2.当院の選択理由(入院)

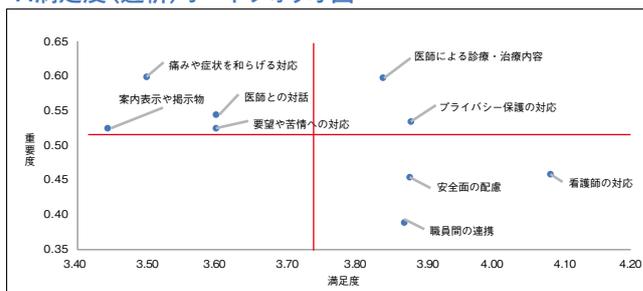


3.総合評価(入院)



患者満足度アンケート<透析>

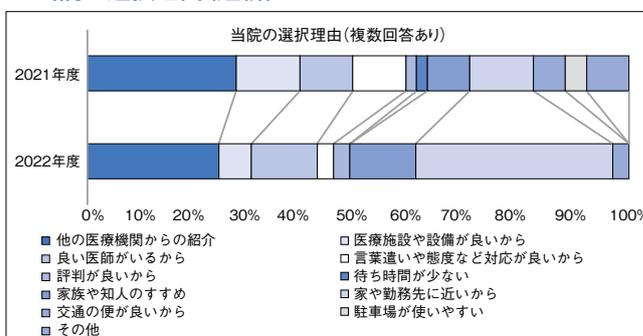
1.満足度(透析)ポートフォリオ図



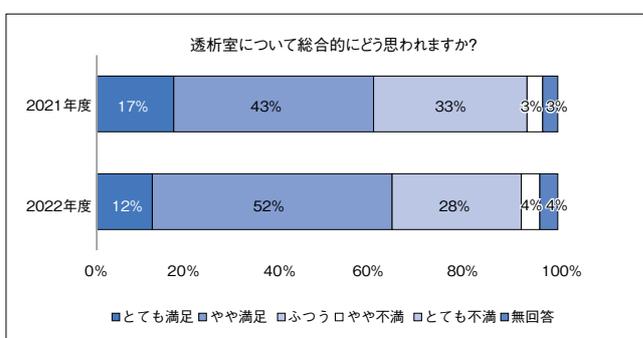
【結果】

「看護師の対応」「プライバシー保護の対応」「安全面の配慮」の順に満足度は高く、「案内表示や掲示物」「痛みや症状を和らげる対応」「医師との対話」「要望や苦情への対応」の順に満足度が低かった。緊急改善項目も満足度の低い項目順にあがった。

2.当院の選択理由(透析)



3.総合評価(透析)



2023年度 開業医満足度調査結果報告

【実施期間】

令和5年5月中旬から6月中旬

【対象者】

西部地区開業医

【実施方法】

アンケート用紙を郵送し、返信用封筒にて返信していただく

【目的】

開業医の皆様から率直なご意見をいただき、地域の先生方と患者さんに満足して頂ける病院となるために、今後のより良い病診連携につなげる。

【配布枚数】

184枚

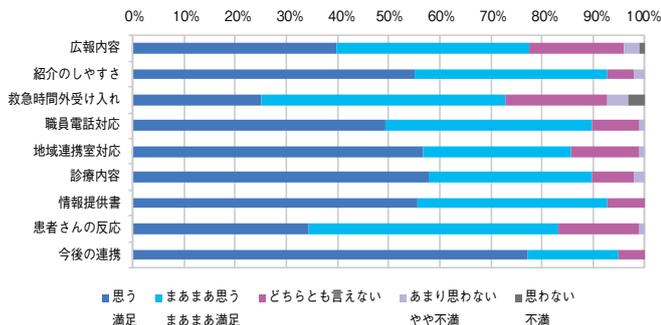
【回収枚数(回収率)】

103枚(56%)

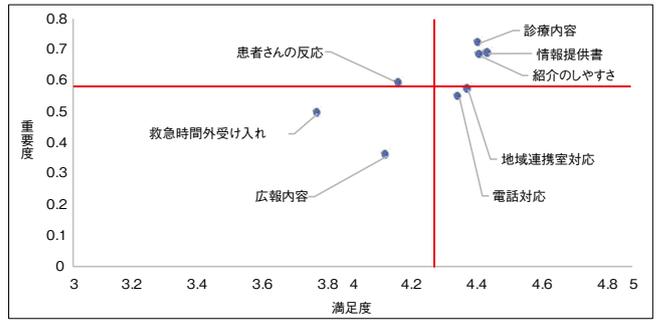
【設問内容】

- 博愛病院の広報内容(年誌博愛便・季刊free magazine博愛すまいるん・ホームページ等)は、情報源として活用しやすいと思いますか?
 思う・まあまあ思う・どちらとも言えない・あまり思わない・思わない
 以下設問(②~⑩)は、博愛病院にご紹介等の経験がある方のみ、お答えください。
- 博愛病院は患者さんを紹介しやすいと思いますか?
 思う・まあまあ思う・どちらとも言えない・あまり思わない・思わない
- 救急時・時間外の受け入れ体制はいかがですか?
 満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
- 職員の電話対応はいかがですか?
 満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
- 地域連携室の対応はいかがですか?
 満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
- 紹介された患者さんへの診療内容はいかがですか?
 満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
- 返書や診療情報提供書(検査結果等の添付資料を含む)の内容はいかがですか?
 満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
- 博愛病院を受診された患者さんの反応はいかがですか?
 満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
- 博愛病院との連携を続けたいと思いますか?
 思う・まあまあ思う・どちらとも言えない・あまり思わない・思わない
- 博愛病院に希望されることを記載してください。

【結果①】満足度



【結果②】ポートフォリオ分析



【結果③】フリーコメント内訳

項目	良いところ	良くないところ
広報内容	1	0
紹介しやすさ	2	0
救急時間外の受け入れ	2	3
電話対応	0	0
地域連携室対応	1	1
診療内容	0	0
診療情報提供書	0	3
患者さんの反応	1	0
今後の連携	0	0
その他	13	9

開業医の皆さまより、貴重なご意見をいただきました。病院執行部会が中心となり、関係部署とともに改善に努めてまいります。

2022年度 職員満足度調査実施報告

【実施期間】

令和4年8月1日(月)～9月11日(日)

【対象者】

令和4年8月1日時点で同愛会に就業している全職員
(正規職員・嘱託職員・短時間職員)
(長期欠勤者・派遣・出向職員・外部委託業者は除く)

【実施方法】

日本医療機能評価機構 病院機能評価事業支援システムの利用

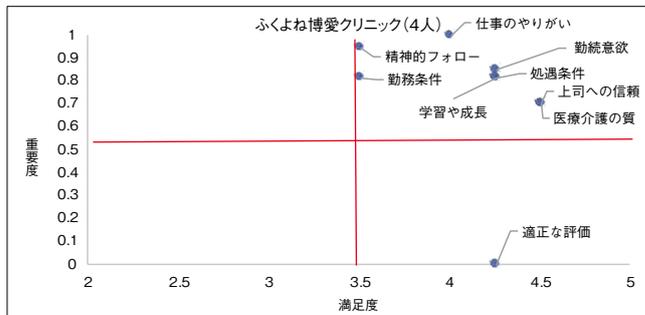
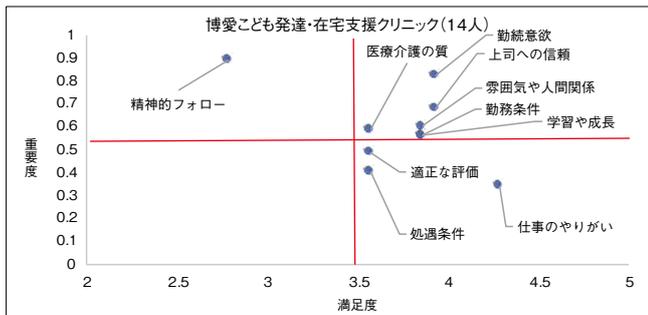
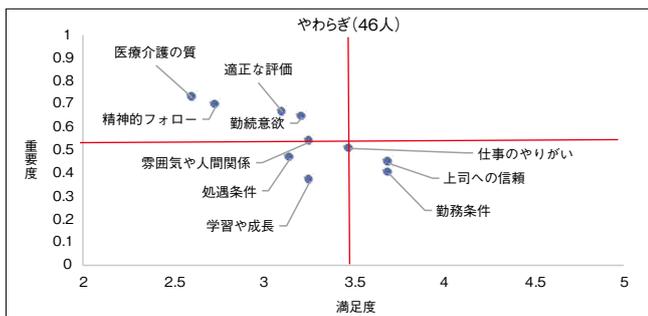
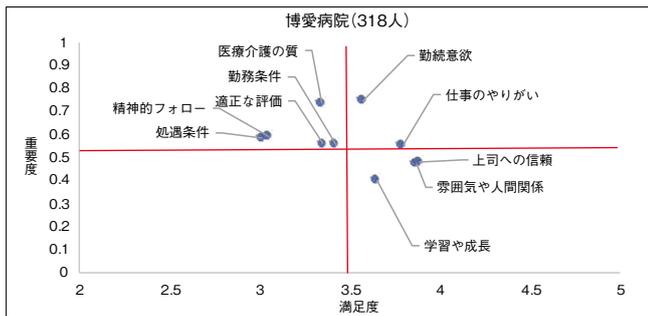
【目的】

組織の強みと弱み、職員のモチベーションの状況を可視化するほか、職員の声(自由記述の内容)を分析することで、提供される医療の質を高める糸口となり、今後のより良い組織づくりにつなげるため

【回答数(回答率)】

390人(79%)

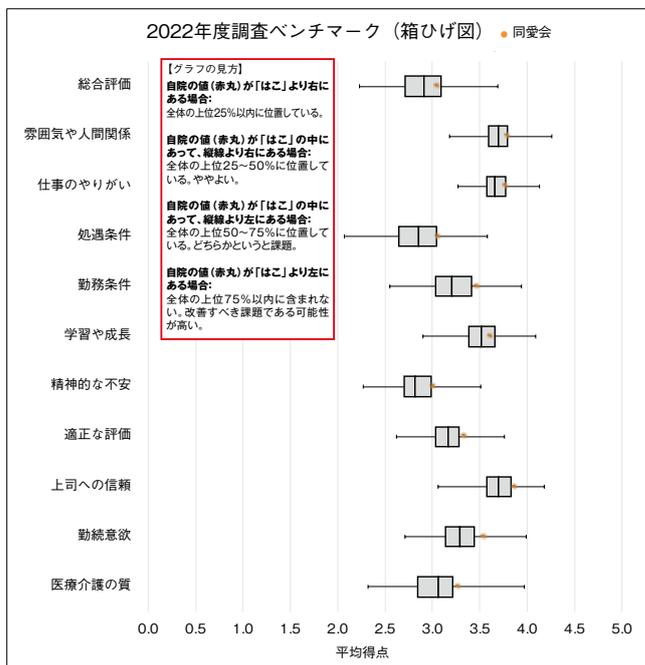
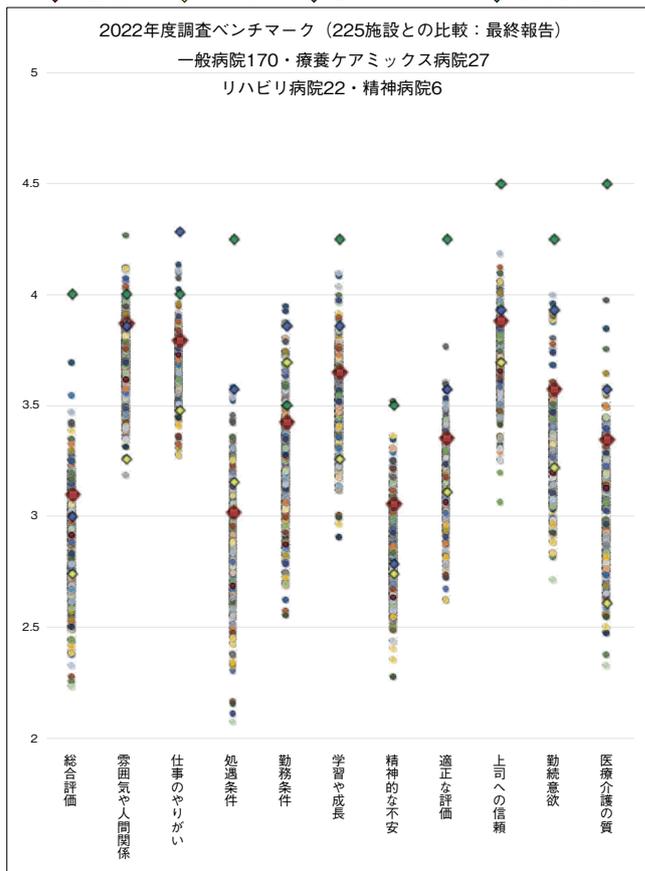
【施設別ポートフォリオ分析】



満足度調査

【日本医療機能評価機構ベンチマーク比較】

◆ 博愛病院 ◆ やわらぎ ◆ こどもクリニック ◆ ふくよね博愛



広報物紹介

博愛病院

ホームページ

随時情報を更新しています。詳しくは <https://hakuai.doaikai.jp/>



医療機関向け情報誌
博愛便

発行：年1回 発行
発行部数：700部
対象：医療機関向け



院外広報誌
博愛すまいるん

発行：春号、夏号、秋号、新年号
年4回
発行部数：4,000部/回
対象：地域のみなさま向け



院内広報誌
博愛かるがもニュース

発行：毎月定期発行
対象：院内職員向け



ふくよね博愛クリニック

ホームページ

随時情報を更新しています。詳しくは <https://fukuyone.doaikai.jp/>



博愛子ども発達・在宅支援クリニック

ホームページ

随時情報を更新しています。詳しくは <https://kodomo.doaikai.jp/>



フェイスブック

インスタグラム



介護老人保健施設やわらぎ

ホームページ

随時情報を更新しています。詳しくは <https://yawaragi.doaikai.jp/>



広報誌
しおかぜだより

発行：春号、夏号、秋号、冬号
年4回
発行部数：500部/回



- ・デイケア広報誌
- ・おとなの学校メソッド紹介
- ・認知症ケア取組紹介

フェイスブック

インスタグラム

ツイッター



財務概況

同愛会貸借対照表（令和5年3月31日現在）

（単位：千円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 流動資産	1,586,415	I 流動負債	1,148,219
現金及び預金	667,307	買掛金	174,760
事業未収金	886,033	短期借入金	450,000
たな卸資産	16,941	1年内返済長期借入金	173,662
前払費用	21,266	未払金	119,619
その他の流動資産	1,494	未払費用	55,809
貸倒引当金	▲ 6,629	未払法人税等	4,326
II 固定資産	2,682,352	預り金	45,963
1 有形固定資産	2,514,990	賞与引当金	115,351
建物	1,461,838	その他の流動負債	8,726
構築物	50,454	II 固定負債	2,531,702
医療用器械備品	356,699	長期借入金	1,955,726
その他の器械備品	42,754	預り保証金	78,030
車両及び船舶	4,198	退職給付引当金	481,339
土地	577,088	役員退職慰労引当金	10,050
建設仮勘定	0	その他の固定負債	6,556
その他の有形固定資産	21,956		
2 無形固定資産	163,069	負債合計	3,679,922
ソフトウェア	161,493	純資産の部	
その他の無形固定資産	1,576	科 目	金 額
3 その他の資産	4,291	I 積立金	588,845
出資金	121	設立等積立金	1,000,000
敷金及び保証金	2,779	繰越利益積立金	▲ 411,154
長期前払費用	1,391		
長期貸付金	12,850		
返還免除引当金	▲ 12,850	純資産合計	588,845
資産合計	4,268,767	負債・純資産合計	4,268,767

同愛会 損益計算書（令和2年度から令和4年度）

（単位：千円）

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
医業収益	4,856,665	5,177,119	5,451,568
病院収益	4,087,321	4,384,311	4,618,970
施設運営事業収益	769,344	792,808	832,598
医業費用	4,713,884	5,025,044	5,283,031
人件費	2,778,375	2,958,494	2,993,781
材料費	711,414	775,469	925,568
経費	928,052	946,763	1,005,854
研究研修費	6,659	6,396	9,272
減価償却費	285,431	337,474	348,398
その他	3,954	448	158
医業利益	142,780	152,075	168,537
医業外収益	233,029	139,198	92,697
受取利息配当金	3	3	3
その他	233,025	139,195	92,694
医業外費用	41,079	54,907	35,247
支払利息	37,409	35,934	29,585
その他	3,671	18,973	5,662
経常利益	334,730	236,367	225,987
特別利益	11,000	150	0
固定資産売却益	11,000	150	0
特別損失	52,455	48,948	113,948
退職給与引当金繰入	43,776	43,776	43,400
固定資産除却損	8,678	3,730	51,297
その他	0	1,442	19,250
税引前当期純利益	293,275	187,569	112,039
法人税及住民税	1,062	2,820	3,294
当期純利益	292,214	184,749	108,746

【外来診療予約・放射線科検査予約】について

予約受付時間 平日8時30分～17時00分

外来診療の予約

紹介元医療機関

事前予約受付用FAX用紙

ご記入後FAX送信

(ご希望の診療科・医師名・受診希望日等記載)

地域連携室直通
FAX (0859) 48-0376

放射線科(MRI/CT)の予約

紹介元医療機関

放射線部に直接電話

TEL (0859) 48-0418

放射線部担当者が予約をお取りします。
電話にて予約後、紹介患者予約受付用
FAX用紙にてFAX送信をお願いいたします。

地域連携室直通
FAX (0859) 48-0376



地域連携室

予約手続きを行い、折り返し『予約票』をFAXにて送信いたします。(10～15分程度)



紹介元医療機関

患者さんへ『予約票』・『紹介状』を渡していただき、当日持参していただくようお願い下さい。

※紹介患者さんの来院日が決まりましたら、先に診療情報提供書をFAXしていただきますようお願いいたします。

患者さん 〈診療・検査当日〉

総合受付(1Fロビー)に紹介状等を持参の上、お越し下さい。各診療科への受付を行います。

※セカンドオピニオン外来の予約は、完全予約制となっておりますので
下記までご連絡お願いいたします。

患者支援部 地域連携室：TEL (0859) 48-0377

ご不明な点がございましたら、患者支援部 地域連携室までお問い合わせください。



FAX: (0859)48-0376

博愛病院 紹介患者予約受付用FAX用紙

年 月 日

患者様は貴院でお待ちでしょうか はい いいえ

紹介目的	診療科	<input type="checkbox"/> 循環器内科	<input type="checkbox"/> 消化器内科	<input type="checkbox"/> 脳神経内科	<input type="checkbox"/> 糖尿病内科	<input type="checkbox"/> 呼吸器内科
		<input type="checkbox"/> 外科	<input type="checkbox"/> 乳腺外科	<input type="checkbox"/> 整形外科	<input type="checkbox"/> 産婦人科	<input type="checkbox"/> 眼科
		<input type="checkbox"/> 放射線科	<input type="checkbox"/> 泌尿器科	<input type="checkbox"/> 皮膚科		
	<input type="checkbox"/> その他記載 ()					
	指定医師	無・有	医師名			
	主訴(病名等)					
受診希望日	第1希望日	年	月	日	担当医師 への事前 連絡	有
	第2希望日	年	月	日		医師名 ()
	第3希望日	年	月	日		無

※緊急時や当日の場合、電話で事前の来院連絡をいただいている患者様は、下記のみご記入ください。
事前にカルテをご用意します。(保険情報は保険証もしくはカルテのコピーをFAXしていただいてもかまいません。)

フリガナ	M・T・S・H・R		性別
氏名	様 旧姓 ()	年 月 日 (歳)	男・女
住所	〒 — TEL () —		当院受診歴 有・無

保険情報 本人 家族

保険者番号			
記号・番号	■		
負担割合	<input type="checkbox"/> 1割	<input type="checkbox"/> 2割	<input type="checkbox"/> 3割
公費	負担者番号		
	受給者番号		

その他記載事項

病院・診療所名
施設名
医師氏名

TEL
FAX

地域連携室受付時間	本書送信先
平日 8:30~17:00 休診日 土曜・日曜・祝日・年末年始(12/29~1/3)	博愛病院 患者支援部 地域連携室 TEL (0859)48-0377 FAX (0859)48-0376

※折り返し、「予約票」をFAX致します。患者様にお渡し致しますようお願い致します。
※時間外・夜間・休日の電話・FAXは代表番号へ切り替わります。予約手続きは翌平日となりますので、ご了承ください。
※当日紹介については、FAX予約は致しかねますご了承ください。

博愛病院 外来診療担当医師 一覧表

令和5年7月1日現在

診療科目		月	火	水	木	金	
内科	午前診	1 診	ペースメーカー外来 田中 保則 (循環器)	田中 保則 (循環器)	●鳥大医師 (循環器)	田中 保則 (循環器)	●鳥大医師 (循環器)
		2 診	山本 宗平 (消化器)	浜本 哲郎 (消化器)	安井 翔 (消化器)	山本 宗平 (消化器)	浜本 哲郎 (消化器)
		3 診	足立 晶子 (脳神経内科)	●鳥大医師 (脳神経内科)	足立 晶子 (脳神経内科)	安井 建一 (脳神経内科)	安井 建一 (脳神経内科)
		4 診		松本 栄二 (肝臓)	堀 立明 (肝臓)	松本 栄二 (肝臓)	堀 立明 (肝臓)
		5 診	藤岡 洋平 (糖尿病)	竹内 龍男 (糖尿病)	藤岡 洋平 (糖尿病)	竹内 龍男 (糖尿病)	藤岡 洋平 (糖尿病)
		6 診	山本 司生 (呼吸器)	●鳥大医師 (呼吸器)	西井 静香 (呼吸器)	山本 司生 (呼吸器)	西井 静香 (呼吸器)
		7 診			重白 啓司 (総合診療内科)	●鳥大医師(第1,3,5) (総合診療内科・血液内科)	重白 啓司 (総合診療内科)
		8 診	岸本 幸廣 (消化器)				岸本 幸廣 (消化器)
	禁煙外来	重白/山本/西井 交代(診療:14時~)					
午後診		予約再来					
小児科	小児リハビリテーション (13時30分~14時30分)	●博愛こども発達・在宅 支援クリニック医師	●博愛こども発達・在宅 支援クリニック医師		●博愛こども発達・在宅 支援クリニック医師	●博愛こども発達・在宅 支援クリニック医師	
外科	午前診	1 診	竹本 大樹			竹本 大樹	
		3 診	近藤 亮	角 賢一	[アミノインテックス外来] 木村 修	近藤 亮 角 賢一	
	午後診	予約再来					
	乳腺専門 外来 ※午後(14時~15時30分)	午前診 午後診		角 賢一	角 賢一 (新患のみ)		角 賢一
		工藤 浩史	角 賢一	工藤 浩史/ 角 賢一(新患のみ)		角 賢一 (新患のみ)	
腎臓外科	午前診/午後診	杉谷 篤	杉谷 篤	杉谷 篤	杉谷 篤	杉谷 篤	
整形外科	午前診	1 診	根津 明菜	中村 達彦	根津 明菜	中村 達彦	●奥野 誠
		2 診			●鳥大医師 (診療:9時~)		根津 明菜
		3 診	●岸本 英彰	三木 純		三木 純	
		人工関節専門外来	●岸本 英彰				
		骨粗鬆症専門外来	●岸本 英彰	中村 達彦		中村 達彦	
	午後診	三木 純 (第1、第3、第5)	三木 純		三木 純	三木 純	
リハビリテーション科	午後診	中村 達彦					
産婦人科	午前診	片桐 千恵子	石原 幸一	下雅意 るり	片桐 千恵子	石原 幸一	
	午後診	下雅意 るり	片桐 千恵子	石原 幸一	片桐/石原/下雅意 交代		
	女性内分泌外来・思春期外来 (14時~16時)					片桐 千恵子 (予約制)	
泌尿器科	午前診 (受付:11時まで)	●鳥大医師 (診療:9時30分~)			●鳥大医師 (診療:9時30分~)	●宮川 征男	
眼科	午前診 (受付:水曜10時まで 月・火・木・金曜11時まで)	小松 恵子	小松 恵子	小松 恵子	小松 恵子	小松 恵子	
放射線科	午前・午後	中村 希代志/ ●鳥大医師	中村 希代志	中村 希代志	中村 希代志/ ●鳥大医師	中村 希代志	
皮膚科	午後診 (受付:13時30分~16時まで)				●鳥大医師 (診療:14時~)		
救急科	午前診			●鳥大医師			
ドック健診センター	1 診	鶴原 一郎		鶴原 一郎		鶴原 一郎	
	2 診		工藤 浩史	工藤 浩史	工藤 浩史		
	3 診	木村 修	木村 修		木村 修	木村 修	

※内科、外科、整形外科の午後は原則、予約再来ですが、救急、紹介患者さんにつきましては従来通り対応しています。

●は非常勤医師です。各診療科とも、緊急手術等のため休診となる場合がございますので、事前にお電話等でご確認下さい。

受付・診療時間	午前	午後	お問い合わせ
受付時間	8時00分~12時00分まで	14時30分~16時50分まで	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1880番地
診療時間	8時30分より	15時00分より	TEL(0859)29-1100(代)

(切り取ってお使い下さい)

社会医療法人同愛会年誌

「博愛便2023」HAKUAI information

発行日 令和5年7月

発行 社会医療法人同愛会

〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1880番地

TEL (0859)29-1100(代)

FAX (0859)29-6322

印刷 東京印刷株式会社



社会医療法人同愛会 事業所連絡先

博愛病院

[代 表]	TEL(0859)29-1100	FAX(0859)29-6322
[地 域 連 携 室]	TEL(0859)48-0377	FAX(0859)48-0376
[診療放射線部(共同利用)]	TEL(0859)48-0418	FAX(0859)48-0376
[ドック健診センター]	TEL(0859)48-0880	FAX(0859)48-0881
[訪問看護ステーション博愛]	TEL(0859)24-8119	FAX(0859)24-8120
[訪問リハビリステーション博愛]	TEL(0859)29-1136	FAX(0859)24-8120
[サービスプラン博愛]	TEL(0859)48-0366	FAX(0859)48-0367
[ヘルパーステーション博愛]	TEL(0859)29-2322	FAX(0859)48-0367

ふくよね博愛クリニック TEL(0859)21-0171 FAX(0859)34-5676

博愛こども発達・在宅支援クリニック

TEL(0859)29-8010 FAX(0859)29-8020

介護老人保健施設やわらぎ

TEL(0859)31-1000 FAX(0859)31-1003

